

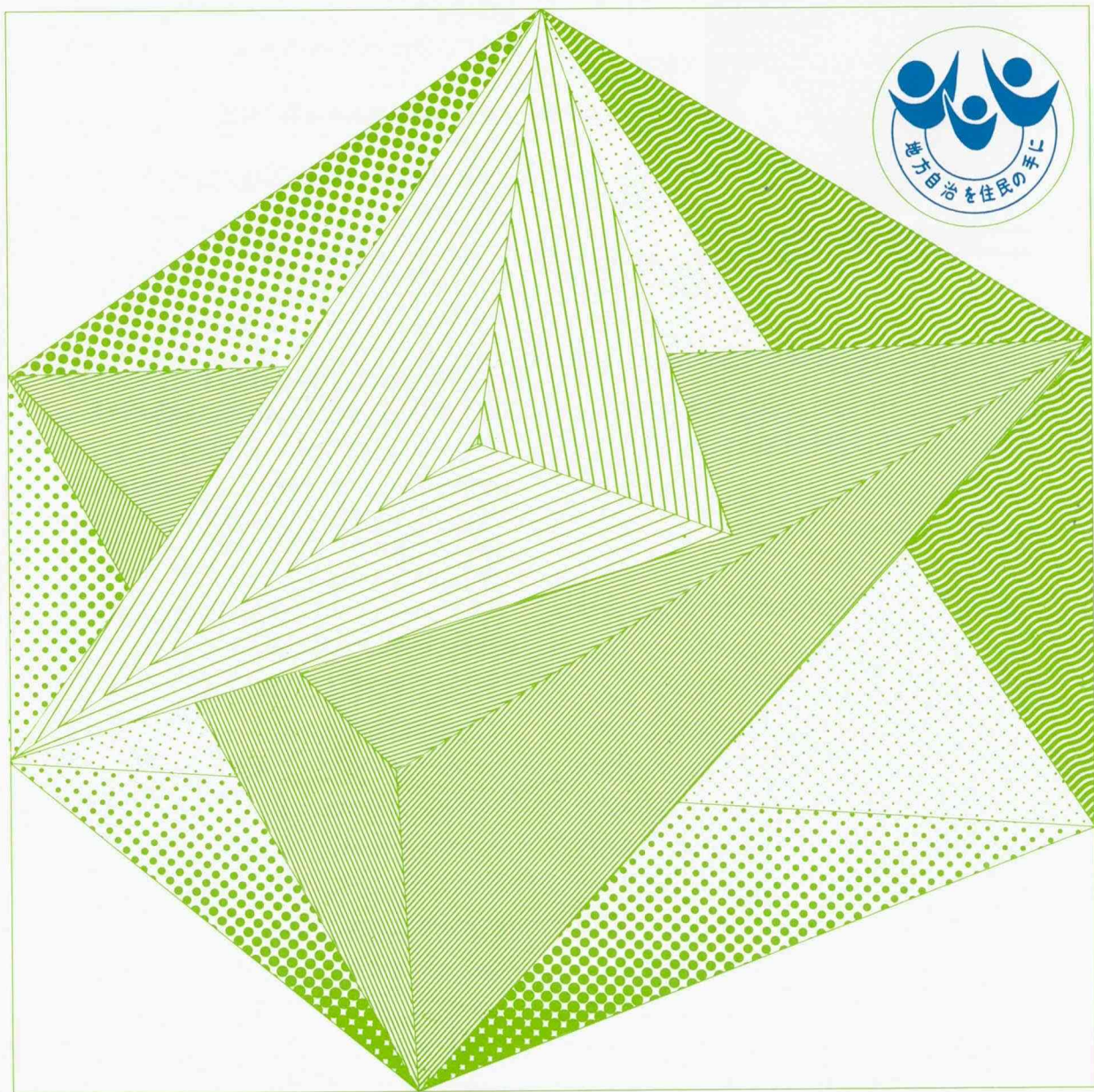
自治研 かながわ

1995

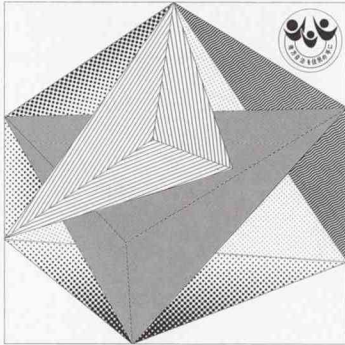
4~8

合併号

No. 48 (通算112号) 参議院選挙の結果と今後の政治動向



社団法人 神奈川県地方自治研究センター



茨神奈川県地方自治研究センター

もくじ***CONTENTS

参議院選挙の結果と今後の政治動向

東京大学教授 高橋 進…………… 1

1. 参議院選挙の結果をどうみるか…………… 1
2. 衆議院選挙にどう対応するのか…………… 8
3. 新たな政治勢力の形成の方向…………… 12

神奈川における参議院選挙結果の特徴…………… 22

統一自治体選挙の特徴と神奈川の選挙結果…………… 30

1. 全国的選挙結果の特徴…………… 30
2. 神奈川県内の選挙結果の特徴…………… 40

資 料

1. 神奈川県 各級選挙党派別得票数の動き…………… 28
2. 道府県議・政令市議・市議・特別区議
・町村議員 政党別当選者数…………… 36~37
3. 全国の市長選、区長選開票状況…………… 38~39
4. 神奈川県議会・政令市議会・市議会・町村議会
政党別当選者数の推移…………… 48~49
5. 県議・横浜市議・川崎市議選挙の
開票結果…………… 50~51
6. 縣市町村議会党派別議員数
及び任期満了…………… 52

参議院選挙の結果と

今後の政治動向

東京大学教授

高橋 進

1. 参議院選挙の結果をどう見るか

参議院選挙の結果をみて、次は総選挙ということが目に見えていますので、総選挙の時期が最大の話題になっています。常識的に考えますと補正予算の編成は絶対やらなければなりませんので、補正予算が成立した後で、11月の下旬ぐらいがひとつの可能性としてあるといわれています。しかし、自民党がその準備がきちんとできているとはいえませんし、今回の選挙結果が敗北であるという状況であり、11月というのは無理なのではないかともいわれます。小沢一郎さん自身も、選挙はもう少し先だろうと言っています。

そうしますと、その次の新年度予算を通してからということになりますので、来年の2月から4月の間ではないか。5～6月は外交日程がいろいろはいつていますのでやりにくいので、そのふたつの可能性が一番高いのではないかとされています。

りに来年の4月になっても、あと10カ月ぐらい先には必ず総選挙があるということになります。

(1) 選挙区選挙の予想と結果

今度の参議院選挙の結果なのですが、非常にわからない点がありましたが、各社の世論調査、出口調査で出た結果と各紙の予想通りで選挙結果は終わった、予想外だったのは新進党が躍進したということになるのではないかと思います。

今回の選挙区選挙で各社の予想と現実の結果をみてみますと、そう多くのくるいはありませんでした。くるったところだけ選挙区選挙で述べますと、北海道はほとんど各社が社会・自民でならぶといっています

党派別当選者数

| | 当選 | 選挙区選 | | | | 改選 | 比例選 | | | | 非改選 | 新勢力 | 公示前議席 | |
|----------|-------------|------------|-----------|----------|-----------|-----------|------------|-----------|----------|-----------|-----------|------------|-------------|------------|
| | | 計 | 前 | 元 | 新 | | 計 | 前 | 元 | 新 | | | | |
| 自新 | 46④ | 31① | 15 | 1 | 15 | 21 | 15③ | 6 | 1 | 8 | 12 | 61 | 107⑦ | 94 |
| 民進 | 40⑦ | 22③ | 4 | 0 | 18 | 8 | 18④ | 6 | 0 | 12 | 11 | 16 | 56⑥ | 35 |
| 社会 | 16④ | 7① | 6 | 0 | 1 | 27 | 9③ | 6 | 0 | 3 | 14 | 22 | 38⑧ | 63 |
| 共産 | 8③ | 3① | 0 | 0 | 3 | 1 | 5② | 2 | 0 | 3 | 4 | 6 | 14④ | 11 |
| さきがけ | 3① | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 2① | 1 | 0 | 1 | 1 | 0 | 3① | 1 |
| 民改連 | 2① | 2① | 1 | 0 | 1 | 8 | - | - | - | - | 0 | 0 | 2① | 8 |
| 二院ク | 1 | - | - | - | - | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 1 | 1 | 2 | 2 |
| 平和 | 1 | 1 | 1 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 2 | 4 |
| スポーツ | 0 | - | - | - | - | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 1 | 2 |
| 諸派 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 1 | 1 | 3 |
| 無所属 | 9① | 9① | 0 | 0 | 9 | 7 | - | - | - | - | 2 | 6 | 15① | 15 |
| 公明 | - | - | - | - | - | 0 | - | - | - | - | 1 | 11 | 11② | 12 |
| 欠員 | - | - | - | - | - | 2 | - | - | - | - | - | - | - | 2 |
| 計 | 126⑥ | 76⑥ | 27 | 1 | 48 | 76 | 50③ | 21 | 1 | 28 | 50 | 126 | 252⑤ | 252 |

○数字は女性、各党派の正式名称は？面。

た。各社の世論調査によってばらつきがあるのですが、社会28、自民27、新進20といていたわけで、社・自が入るといふ当然の予測だったわけなのです。しかし、新進党が当選したのです。北海道ではもう少し個別のデータをみませんとよくわからないのですが、札幌での投票率が相当下がったのではないか、その結果、新進党が相当浮いてきたのではないのかという気がします。

青森では、自民か新進かレッドヒートだと言われているのですが、事前の調査ですと31対25で新進が勝つだろうといわれ、そうとう競ることはあきらかだったのですが、結果的にはここでも新進が勝ちました。

岩手ですが、最初から新進が勝つことがわる数字でして、51対37ぐらい世論調査で差がついてましたので、ここは新進が勝つと言われていました。結果は順当に勝っています。よくわからないのは宮城県なのですが、民改連が、とても支持率が高かった

のですが、結果は、自民と無所属の新進推薦候補が入ってしまいました。北海道、東北ではこの三つが番ぐるわせということになりました。

神奈川県は、斉藤つよしさんの予想数字はどこをみても3位についてましたので、だいたい勝つだろうといわれてはいたのですが、次点との差があまりひらかなかったので、その原因がなぜかわからないところがあるのです。

東京も、だいたい現実に勝った候補者が予想されており、共産が伸びたのが番ぐるわせなのですが、それ以外は他の三人がほぼ並んでいました。新進がトップで100万票を越え、自民、共産、平和市民の会の田さんが入りました。さきがけのタレント候補と無所属の市民派候補は健闘しましたが及びませんでした。

社会党にとって意外だったのは新潟でして、自・社で並ぶだろうといわれ、二人区

なので新進との差がものすごくついていたところですが、ところが新潟の場合は社会党が負けて、新進が入ったのです。これと逆の結果がでてきましたのは長野県で、長野では自民と新進が勝つだろうという予想が出ていたのですが、社会が議席を獲得し、自民党が落ちました。だいたい関東周辺はそのような予想がでていました。

滋賀は、さきがけが勝ったのですが、予想では自・社・新進の推薦候補と45対43という数字がならんでいまして、ぎりぎりまでわからないと言われていたのですが、結果的には奥村さんが僅差で当選し、さきがけ

の選挙区唯一の議席となりました。

もう一つ社会党にとっていい意味での番狂わせといわれたのが福岡でして、ここは事前の予想では完全圏外だと考えられていたのですが、最後には2位に浮上して、新

進、社会となり、自民と無所属の元職が落選しました。

そう考えますと、今回の社会党の議席は、選挙区から言いますと静岡・新潟が入ってくるはずだったのが落ち、逆に長野、福岡

| 95参院選 主な選挙区の確定得票数 | | | |
|-------------------|--------|-----|-------|
| 得票 | 氏名 | 党派 | 推薦 |
| 北海道 (2-6) | | | |
| 当 563,029 | 菅野 久光 | ③社前 | |
| 当 511,139 | 小川 勝也 | ①進新 | 公 |
| ▽ 488,807 | 木本 山孝 | 自新 | 由 |
| ▽ 392,714 | 高橋 裕子 | 共前 | |
| 40,106 | 吉野 悦子 | 諸新 | |
| 21,716 | 前谷 宏 | 無新 | |
| 青森県 (1-5) | | | |
| 当 176,259 | 山崎 力 | ①進新 | 公 |
| ▽ 173,393 | 鳴海 広道 | 自新 | |
| ▽ 102,770 | 三上 隆雄 | 無前 | 社 |
| 40,026 | 高橋千鶴子 | 共新 | |
| 32,523 | 滝沢 求 | 無新 | |
| 岩手県 (1-3) | | | |
| 当 338,205 | 高橋 令則 | ①進新 | 公 |
| ▽ 226,505 | 清水 康之 | 無新 | 自、社 |
| 42,762 | 菅原 則勝 | 共新 | |
| 宮城県 (2-5) | | | |
| 当 238,416 | 市川 一朗 | ①無進 | 進 |
| 当 206,987 | 亀谷 博昭 | ①自新 | |
| ▽ 176,879 | 萩野 浩基 | 改前 | 社、進 |
| 51,488 | 中島 康博 | 共新 | |
| 23,792 | 石郷岡百合子 | 諸新 | |
| 東京都 (4-72) | | | |
| 当1,059,582 | 魚住裕一郎 | ①進新 | 公 |
| 当 607,470 | 保坂 三蔵 | ①自新 | |
| 当 475,647 | 緒方 靖夫 | ①共新 | |
| 当 435,773 | 田 英夫 | ⑤平前 | |
| ▽ 404,409 | 中村 敦夫 | さ新 | |
| ▽ 395,690 | 見城美枝子 | 無新 | |
| ▽ 193,161 | 鈴木喜久子 | 無新 | 社 |
| 101,547 | ドクター中松 | 無新 | |
| 神奈川県 (3-14) | | | |
| 当 718,030 | 松 あきら | ①進新 | 公 |
| 当 466,457 | 石渡 清元 | ②自前 | |
| 当 371,889 | 斎藤 勤 | ①社新 | |
| ▽ 339,484 | 弦念 丸呈 | 無新 | |
| ▽ 259,327 | 石川 好 | さ新 | |
| 256,015 | 細野 君枝 | 共新 | |
| 56,491 | 小林 正 | 無新 | |
| 新潟県 (2-6) | | | |
| 当 314,454 | 吉川 芳男 | ③自前 | |
| 当 260,263 | 長谷川道郎 | ①新進 | 公 |
| ▽ 251,244 | 目黒吉之助 | 社新 | |
| 55,932 | 五十嵐完二 | 共新 | |
| 34,279 | 高見 優 | 諸新 | 市 |
| 長野県 (2-5) | | | |
| 当 425,003 | 小山 峰男 | ①進新 | 公 |
| 当 193,954 | 村沢 牧 | ④社前 | |
| ▽ 189,376 | 下条進一郎 | 自前 | |
| 70,476 | 古畑 昌夫 | 共新 | |
| 18,605 | 岩田 薫 | 連新 | |
| 愛知県 (3-49) | | | |
| 当 696,049 | 山本 保 | ①進新 | 公 |
| 当 374,540 | 鈴木 政二 | ①自新 | |
| 当 361,469 | 末広真季子 | ①無新 | |
| ▽ 246,169 | 前畑 幸子 | 無前 | 社 |
| ▽ 142,699 | 大村 義則 | 共新 | |
| 36,077 | 丸山 悦子 | 平新 | |
| 滋賀県 (1-3) | | | |
| 当 192,401 | 奥村 展三 | ①さ新 | |
| ▽ 189,602 | 高田 三郎 | 無新 | 自、社、進 |
| 61,741 | 川内 卓 | 共新 | |
| 大阪府 (3-52) | | | |
| 当1,015,919 | 白浜 一良 | ②進前 | 公 |
| 当 497,549 | 山下 芳生 | ①共新 | |
| 当 470,339 | 谷川 秀善 | ①自新 | |
| ▽ 204,506 | 福岡 嶺子 | 無新 | 社、さ |
| 福岡県 (2-6) | | | |
| 当 544,656 | 木庭健太郎 | ②進前 | 公 |
| 当 314,336 | 三重野栄子 | ②社前 | |
| ▽ 311,299 | 重富吉之助 | 無元 | |
| ▽ 293,029 | 合馬 敬 | 自前 | |
| 100,589 | 安広 和雄 | 共新 | |
| 21,895 | 藤田 幸代 | 諸新 | |

○内の数字は定数、整数は立候補者数

が入りましたので、プラス2マイナス2となり、選挙区では各社予想どおりの数字になったという結果になるのではないかなと思います。

(2) 無党派層の動向

社会党が今度の成績は悪かったといわれ、確かに前から比べるとその通りなのですが、実はどう計算しましても、今回は社会党は組織票をほとんどまとめきったと考えたほうがよいという気がします。

これは全国調査を見てみないとわからないのですが、NHKの今度の出口調査から見た政党別の棄権率をとってみました。この棄権率をみますと社会党が21.8%、自民党が24.8%、新進、特に旧公明と共産ではもともと棄権が低いのでして、だいたいこれは15%ぐらいです。このことからみて、社会党の堅い支持者といわれる人たちは、ほぼ固めきった数字ではないか、というのが今回の結果であろうと考えております。

それともう一つは、今回はネガティブな方向ばかりみないで、ポジティブな方向でみますと、社会党は意外と無党派からもとっているのです。東京の数字しかないのですが、朝日が出してきた数字なのですが、社会推薦の鈴木さんの得票は社会党支持の人から57%、無党派から30%、自民から10%、その他から3%というかたちではいっております、相対的な数字からいいますと社会党へ30%という数字がでています。絶対得票率に直しませんとトリッキーな数字になりますので、絶対得票率にしますと1. 数%

の人が今回社会党に入れたということになります。無党派層が社会党離れであり、社会党にほぼ完全にそっぽを向いた、とはいえないのではないかと思います。

そこで今度の焦点にはふたつの問題がありますが、ひとつは無党派の問題です。実は無党派という言葉は研究者にとってあまり意味のある言葉ではありません。というのは政党支持のないひとたちだからです。政党支持のない人たちの為は無党派と言っているだけですから、選挙にどう動くかということは、この言葉からなにもでてこないのです。

これは前から言われていたことなのですが、今回の無党派と言われている人たちをみますと、無党派というのはふたつに分かれるのではないのでしょうか。選挙に行った無党派と、棄権した無党派の人たちです。

その対比をみてみますと、絶対投票率で今回の選挙に行った無党派の人たちは14%です。100人のうち14人は無党派といっても選挙に行ったのです。無党派と称しながらどこか投票所へ行っているのですから、どこかに投票している人たちが今回14%いたということです。

無党派の中で棄権した人が、絶対投票率で32%ぐらいで、100人のうち32人が今回投票所に行かなかったことになります。このように無党派がふたつに分かれるのではないかと思います。

そこで選挙に行った無党派の人たちを、まずどう考えるかと言いますと、この人達は非常に政治的に関心が高い人たちだと思います。同じ無党派と言いましても政治には関心がありますので、テレビなどの政治関係のニュース番組は見ているでしょうし、

新聞も目をとおす
 でしょう。またそ
 れなりの候補者
 を見て、投票所で票
 を入れた人といえ
 るのではないかと
 思われます。

ドイツでも同じ
 ような現象が出て
 いるのですが、こ
 ういう人達を攻
 撃的アパシー、攻
 撃的な政治的な無
 関心層という言い

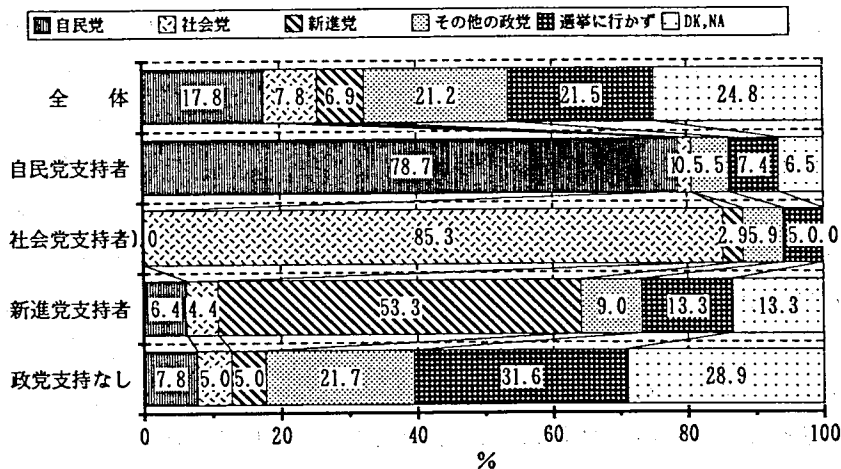
方を、学問的にはするようになってきました。どういことかと言いますと、非常に現状の政治に不満の多い人達です。この人達が通常投票に行きますと、現状維持か改革かのどちらかと言うと、たぶん改革を掲げたほうがこの人達が投票にいきやすいのではないかと思います。

このことは事前の朝日新聞の4地区の定点調査でもこの結果が出ているのです。ですからこの人達を捕まえるのならば、現状の政治にすごく不満をもっていることを前提にして「改革する」ということを言いませんとキャッチできないのではないかと思います。

各地区でばらつきがあるのですが、東京の場合ですと、絶対投票率で約3.25%がこの人達から新進党に流れました。今回、絶対投票率で3%ですから、相対得票率にすると約7%ぐらいの数字になります。ですから6%から7%の人たちが今回新進党にまわったということになります。これは新進党がイメージとして創り出していた改革、

政党支持者別投票行動 (95地方選・藤沢市)

このグラフは95年4月の選挙におけ投票行動を支持政党別にみたものである (95.6 藤沢市民の政治意識調査より)



特に元党首3人が並んでなにかやったということが、それなりに効果があったとってよいと思います。

その意味で、今回「改革」という言葉は政党間ではあまり争点にはならなかったのですが、「現状維持」か「改革」かという質問を世論調査にかけますと、有権者のなかではかなり改革指向があり、少なくとも政治的関心のある人達の中では相当根強く残っている、とっております。

そこで男女差と比率まではよくわからないのですが、世界的な常識で言えば、30代から40代の男性層が多いのではないのかと考えられます。男女のデータがでていませんのでわかりませんが、そのような人達が100人のうち14人いるというのは相当大きいです。これをまるまる全部もらうということは、投票率を50%とすれば28%の得票率となります。そういう人達が、次の衆議院選ではまちがいく投票所には行く、と私は読んでいますので、その人達がターゲットになります。その人たちが選挙に行っ

た無党派層と言うことになります。

それから、棄権した無党派層がありました。棄権した無党派層のなかで、だいたい15%ぐらいは絶対的な棄権派です。なにがなんでも選挙に行きません。たとえば、この前あるテレビ局で無党派層にインタビューしたのですが、「無党派ってなに」と聞いたら「それなに」と答えました。その人達が絶対的棄権派です。どうやっても絶対に選挙に行きません。テレビでも何でも政治関係のものはほとんど見ない。したがって政治の情報に対する知識もあまり持っていませんし、政治に関する関心はほとんどありません。

どこの国でもこの層はいるということで、絶対的棄権派層は15%ぐらいはいるといわれています。この人達を投票させようと思って選挙運動やっても無駄だと言うことです。デパートの前でこの人達を相手にいくら選挙運動をやってもなんら成果も生まれてこないと考えます。女性の20代の層が一番多いと、どの調査結果でもできています。

今度の場合、棄権した層の圧倒的な多くの層は「柔らかい無党派層」ではないかと私は思っております。「柔らかい無党派層」というのはどういう人達かというと、自民党、社会党などの「弱い支持層」とほとんどボーダーラインがない人達です。したがって投票するとしたら、前に離れた、絶縁したところにもう一度復縁するという投票行動をとるだろうと思われる人達です。その人達がおそらく今回は投票所にいかなかったのではないのかと思われま

す。今回、その比率からいくと、特に自民党支持層が圧倒的に多かったのです。自民党

があれだけ負けが込んだということは、やはり「柔らかい無党派層」といわれる人達と「弱い支持層」といわれる人達が、今回は相乗効果を起こして投票所へ行かなかったということになると思います。

ただし、これは参議院選挙だから言えることでして、衆議院だとうはいきません。絶対に各党とも支持者を固めてきますから、この人達は次の選挙でも棄権する可能性はあまり高くないのではないのかと思われま

す。特に、農村部の「柔らかい無党派層」といわれる人達は、その確率は高いと言われています。このことは先ほどの四地点調査の中でも出ておりますので、おそらく農村部においては、自民党は「弱い支持」と「柔らかい無党派」とを固めていくのではないかと考えてます。それが無党派層ということになるのですが、無党派層云々ということは社会党問題になりますので、3番目の問題でまたふれることにします。

(3) 各党の集票状況の特徴

今度の各党の集票の状況をみてみますと、自民党の絶対支持率は低下していると思えません。各社によって違うのですが、自民党の絶対支持率というのは、だいたい10%ぐらい落ち込んだと思われま

支持率で15%ということは、以前の自民党から見てみますと相当下がったとしか思えません。自民党の支持率が急速に減少傾向をたどっていると考えられるのです。

今回は無党派の人達がほとんど自民党には投票していないという現象です。例えば東京の例ですと、出口調査で自民党の集票構造をみますと、自民党支持者が自民党に86%、無党派の人達が12%しか投票していないということで、無党派の人達を今回は自民党が捕まえることができなかったことは確かです。その意味で、無党派が自民党から離れていくのを止めることが出来るような人を党首にもってこよう、という話がでているのは当然と言えるのではないのでしょうか。

そこで出てくるのは橋本龍太郎さんなのですが、支持率は30代40代の女性には強い

のです。しかしそんなに大きく飛び抜けて支持率が高いわけではありません。したがって橋龍さんを党首にもってきて無党派離れが進むかどうかという「？」マークをつけざるをえないということです。梶山静六さんをもってきたほうがいいのではないのかという話もありますが、それは冗談だとしておきます。

次は社会党なのですが、支持率が低下していることは間違いありません。先ほどの数字でいきますと、社会党の今回の参議院の絶対支持率は5%ぐらいで棄権組が約2%ぐらいありますので、絶対支持率では7%ぐらいと考えたほうがよいのではないかと思います。ただ元の社会党の絶対支持率の対比から言いますと、旧組織票はほとんど固定票で、7割がたは固まっていた選挙が行われていたのではないのでしょうか。

政党別得票数・率の比較（全国）

| | | 参院選挙区選挙 | | | 参院比例区選挙 | | |
|--------------|------|------------|--------|--------|------------|--------|--------|
| | | 得票数 | 得票率 | 絶対得票率 | 得票数 | 得票率 | 絶対得票率 |
| 自民党 | 95参院 | 10,557,547 | 25.4% | 10.9% | 11,096,972 | 27.3% | 11.5% |
| | 92参院 | 19,711,047 | 43.4% | 21.1% | 14,961,199 | 33.3% | 16.0% |
| 社会党 | 95参院 | 4,926,003 | 11.8% | 5.1% | 6,882,918 | 16.9% | 7.1% |
| | 92参院 | 5,846,238 | 12.9% | 6.3% | 7,981,726 | 17.8% | 8.6% |
| 新進党 (公明党) | 95参院 | 11,003,681 | 26.5% | 11.4% | 12,506,322 | 30.8% | 12.9% |
| | 92参院 | | | | 6,415,503 | 14.3% | 6.9% |
| 共産党 | 95参院 | 4,314,830 | 10.4% | 4.5% | 3,873,954 | 9.5% | 4.0% |
| | 92参院 | 4,817,001 | 10.6% | 5.2% | 3,532,956 | 7.9% | 3.8% |
| さきがけ | 95参院 | 1,059,353 | 2.5% | 1.1% | 1,455,886 | 3.6% | 1.5% |
| | 92参院 | | | | | | |
| 民改連 | 95参院 | 1,854,175 | 4.5% | 1.9% | | | |
| | 92参院 | 4,399,684 | 9.7% | 4.7% | | | |
| 二院クラブ | 95参院 | | | | 1,282,595 | 3.2% | 1.3% |
| | 92参院 | | | | 1,321,639 | 2.9% | 1.4% |
| 有権者総数 | 95参院 | 96,759,025 | | 100.0% | 96,759,025 | | 100.0% |
| | 92参院 | 93,254,023 | | 100.0% | 93,254,023 | | 100.0% |
| 有効投票数 | 95参院 | 41,573,055 | 100.0% | | 40,668,257 | 100.0% | |
| | 92参院 | 45,383,205 | 100.0% | | 44,948,698 | 100.0% | |

無党派なのですが、社会党も今回は意外ととっておりまして、無党派からもある程度の票、東京では30%とっております。社会党の場合は、弱い弱いと言われますと無党派の旧社会党系の人達が投票所に行って社会党に入れるという行動が起きる、と選挙まえからと言われてまいした。その数値をいろいろ計算いたしますと、20議席ぎりぎりまで伸びるのではないかと実は言われていたのです。低投票率の結果、そこまで伸びきれなかったということが、今回の敗因のひとつということになるのです。ただし、今回比例区で9人当選したという数字は、それなりに高めに出了と数字だと思っただけがよいと思います。

例えば東京ですと、選挙区で田さんに入った票は比例区ではほとんど社会党に流れているのです。そういうことがありますので、無党派が自ら感じた社会党バネというようなものが部分的ながら今回もはたらいたのではないのでしょうか。

3番目が新進党なのですが、今回は旧公

明党の票が全部出たかどうかということがひとつの見所なのですが、100%は出ていないのではないのかと思います。地区によりばらつきがあるのですが、やはり8割くらいが、旧公明票ではないのでしょうか。例えば、比例区で全国では1,250万票をとっているのですが、そのうち絶対支持率では7%という数字を持っておりますので、残りの400何万という数字は旧公明系以外から出てきた数字だといえます。

いまの新進党の得票のうち非公明系がその何割かを入れたとしても、やはり無党派層からは絶対得票率で5%ぐらいいは新進にまわったのではないかなと思います。やはり改革指向ということがあったでしょうし、もう一つはタレントということも要因としてあったのではないかと思います。

以上が各党の集票構造なのですが、これは終わった話でありまして、問題は今回の参議院選の選挙データ素材をいかにどう使うかということになります。

2. 衆議院総選挙にどう対応するか

二つ目の課題は、今度の総選挙の場合の予想ということになりますが、それは今、現実にあるデータを読み込むことからはじめざるをえないと思います。そこで、あるのは今度の参議院選の比例区と選挙区のデータということになります。分析するのにラッキーだったのは、今年の統一地方選のデータが県議選・市議選のものもあ

りますから、それをもとにして、いま総選挙をしたら、どうなっていくのかということを考えていく必要があると考えました。

朝日をはじめ各紙が7月25日に、選挙結果から見たシュミレーションということで、300の小選挙区ごとに勝ち負けはどうなるかという数字を出していました。しかし、これはシュミレーションとは言いませんで、

プロジェクションと言っています。今回の参議院選のデータを各小選挙区に埋め込んでいるだけに過ぎないので、推計をして予測を出しているわけではないのでシミュレーションと言うのはおかしいと思います。このとおりの数字が衆議院選で並ぶとはほぼ考えられないからです。

(1) 一つの試算、 最大・最小得票の分析

① 神奈川10区

そこで、今度の衆議院選について、神奈川の17選挙区を全部やれば良かったのですが、とりあえず川崎市の選挙区について試算してみました。一番目が神奈川10区です。行政区で言いますと川崎市の川崎区、幸区、中原区です。そして今回、新聞では、この中の各党の比例区得票率をたしあわせただけですので、どこが勝つかと言えば新進党が勝つにあたりまえなのです。これではおもしろくないので少し加工をしました。

一つは、この4月の統一地方選に各選挙区で自民党が県議レベルでどのくらい票を取ってきたか。県議だけではわかりませんので市議のレベルで自民党が出た候補者が各区でどのくらい票を集めたかという数字のふたつをとって、同じことを幸、中原で行うことにしました。その中で自民党がいちばん高く取った数字をとるわけで、これが自民党の最大数字です。

次の表をみてください。今回の参議院比例区の自民党の川崎区をみますと、得票数が12,461になっています。ところが、市議選の得票を全部たしますと19,074という数字になっています。今度の参議院選比例区では市議選レベルの6割しか自民党の票が出ていないということになります。幸区でも同じようなことをやりますと、比例区は8,642しかでていないのですが、県議では25,953と4倍の数字がでています。中原の場合も同じことをやってみますと、市議選で27,107と言う比例区の2.5倍の数字がでています。その最大値だけを全部加算すると神奈川10区では自民党は最大得票は合計72,134票ということになります。

これを絶対得票率（有権者総数に対する割合）におきかえると約17%自民党は持っているということになります。それが絶対得票率ですが、これだけではよくわかりませんので、それまで取った票の低い部分を出しますと33,088票です。そうしますと絶対得票率は7.9%と言う数字になります。17%から8%の間に自民党は入っていることになります。これに対して社会党の最大の数字が8%以下であれば、選挙をして無理であり、ここでは自民党の勝利となることが予想できます。

新進党もみなくてはなりません。新進党を見てみますと、県議選では川崎区で新進が、幸では公明が、中原では新進だけがそれぞれ立候補していますので、その票が対象となります。市会選では、各区とも新進・公明がそれぞれ候補者を立てていましたので、その票をたしあわせます。この結果、立候補者が多かった市会の票が当然ですが一番多くなります。その最大値が63,706票

あるのです。絶対得票率が15.1%です。

最小得票が46,671で、絶対得票率が9.7%であり、約15%から9%のあいだに新進党は入ってくると予想できるのです。

共産党は、神奈川10区では最大で39,700票くらいもってますので絶対得票率では

9.4%という数字です。

そこで社会党は、川崎市では県会の票がいちばん多く、幸区では市会・県会がないので比例区の票が、中原では県会の票が多いのでそれらをたしあわせると48,700票くらいとなり、絶対得票率で11.6%になり

川崎市内の小選挙区の最大・最小得票 神奈川区9区、10区

| 党派 | 選挙種別 | 高津区 | 多摩区 | 麻生区 | 9区計 | | 川崎区 | 幸区 | 中原区 | 10区計 | |
|------------------|-------|---------|---------|---------|---------|--------|---------|---------|---------|---------|--------|
| | | 得票数 | 得票数 | 得票数 | 得票数 | 絶対得票率 | 得票数 | 得票数 | 得票数 | 得票数 | 絶対得票率 |
| 95年7月 | 有権者数 | 134,698 | 144,297 | 102,503 | 381,498 | 100.0% | 156,584 | 110,760 | 153,700 | 421,044 | 100.0% |
| 自 民 党 | 95参院比 | 9,052 | 9,237 | 7,648 | 25,937 | 6.8% | 12,461 | 8,642 | 11,985 | 33,088 | 7.9% |
| | 95県会 | 12,592 | 16,425 | 8,555 | 37,572 | 9.8% | 18,539 | 25,953 | 16,970 | 61,462 | 14.6% |
| | 95市会 | 12,872 | 10,456 | | 23,328 | 6.1% | 19,074 | 11,219 | 27,107 | 57,400 | 13.6% |
| | 最大値 | 12,872 | 16,425 | 8,555 | 37,852 | 9.9% | 19,074 | 25,953 | 27,107 | 72,134 | 17.1% |
| | 最小値 | 9,052 | 9,237 | 7,648 | 25,937 | 6.8% | 12,461 | 8,642 | 11,985 | 33,088 | 7.9% |
| 社 会 党 | 95参院比 | 7,614 | 8,582 | 6,735 | 22,931 | 6.0% | 10,095 | 7,696 | 9,102 | 26,893 | 6.4% |
| | 95県会 | 15,760 | 17,922 | 12,713 | 46,395 | 12.2% | 25,013 | | 15,961 | 40,974 | 9.7% |
| | 95市会 | 9,183 | 8,134 | | 17,317 | 4.5% | 12,285 | | 9,415 | 21,700 | 5.2% |
| | 最大値 | 15,760 | 17,922 | 12,713 | 46,395 | 12.2% | 25,013 | 7,696 | 15,961 | 48,670 | 11.6% |
| | 最小値 | 7,614 | 8,134 | 6,735 | 22,483 | 5.9% | 10,095 | 7,696 | 9,102 | 26,893 | 6.4% |
| 新進党 | 95参院比 | 15,882 | 15,384 | 11,754 | 43,020 | 11.3% | 19,558 | 15,025 | 18,033 | 52,616 | 12.5% |
| 公明+ 新生 | 95県会 | 9,000 | 18,681 | 15,607 | 43,288 | 11.3% | 14,200 | 18,233 | 11,446 | 43,879 | 10.4% |
| | 95市会 | 15,565 | 8,335 | | 23,900 | 6.3% | 23,746 | 18,727 | 21,233 | 63,706 | 15.1% |
| | 最大値 | 15,882 | 18,681 | 15,607 | 50,170 | 13.2% | 23,746 | 18,727 | 21,233 | 63,706 | 15.1% |
| | 最小値 | 9,000 | 8,335 | 11,754 | 29,089 | 7.6% | 14,200 | 15,025 | 11,446 | 40,671 | 9.7% |
| 共 産 党 | 95参院比 | 6,189 | 7,569 | 4,540 | 18,298 | 4.8% | 12,090 | 6,342 | 8,049 | 26,481 | 6.3% |
| | 95県会 | | 7,979 | | 7,979 | 2.1% | 19,279 | 9,491 | 7,423 | 36,193 | 8.6% |
| | 95市会 | 8,837 | 9,760 | | 18,597 | 4.9% | 13,540 | 7,215 | 10,945 | 31,700 | 7.5% |
| | 最大値 | 8,837 | 9,760 | 4,540 | 23,137 | 6.1% | 19,279 | 9,491 | 10,945 | 39,715 | 9.4% |
| | 最小値 | 6,189 | 7,569 | 4,540 | 18,298 | 4.8% | 12,090 | 6,342 | 7,423 | 25,855 | 6.1% |
| さきがけ | 95参院比 | 3,139 | 3,887 | 3,787 | 10,813 | 2.8% | 2,502 | 2,486 | 3,737 | 8,725 | 2.1% |
| ネット | 95県会 | | | | | | | | | | |
| ネット | 95市会 | 5,491 | 6,092 | | 11,583 | 3.0% | | 5,251 | | 5,251 | 1.2% |
| | 最大値 | 5,491 | 6,092 | 3,787 | 15,370 | 4.0% | 2,502 | 5,251 | 3,737 | 11,490 | 2.7% |
| | 最小値 | 3,139 | 3,887 | 3,787 | 10,813 | 2.8% | 2,502 | 2,486 | 3,737 | 8,725 | 2.1% |
| 単純最大値加算 | | | | | | | | | | | |
| 社+さ | 最大値 | 18,899 | 21,809 | 16,500 | 57,208 | 15.0% | 27,515 | 10,182 | 19,698 | 57,395 | 13.6% |
| | 社+さ+ネ | 24,390 | 27,901 | 16,500 | 68,791 | 18.0% | 27,515 | 15,433 | 19,698 | 62,646 | 14.9% |
| 区ごとの加算 | | | | | | | | | | | |
| 社+さ 社+さ +ネ | 95参院比 | 10,753 | 12,469 | 10,522 | 33,744 | 8.8% | 12,597 | 10,182 | 12,839 | 35,618 | 8.5% |
| | 95県会 | 15,760 | 17,922 | 12,713 | 46,395 | 12.2% | 25,013 | | 15,961 | 40,974 | 9.7% |
| | 95市会 | 14,674 | 14,226 | | 28,900 | 7.6% | 12,285 | 5,251 | 9,415 | 26,951 | 6.4% |
| | 最大値 | 15,760 | 17,922 | 12,713 | 46,395 | 12.2% | 25,013 | 10,182 | 15,961 | 51,156 | 12.1% |
| | 最小値 | 10,753 | 12,469 | 10,522 | 33,744 | 8.8% | 12,285 | 5,251 | 9,415 | 26,951 | 6.4% |

小選挙区ごとの最大値・最小値は、各行政区の最大・最小を合計したものである。

絶対得票率は、得票数を有権者数で割ったものである。

単純最大値加算は、社会党、さきがけ、ネットの最大値を加算したもの

区ごとの加算は、選挙の種別に選挙区ごとに加算し、最大値・最小値を算出して小選挙区で加算した。

ます。社会党が最小になった場合は26,900票で6.4%ということになります。

各党の絶対得票率で最大値を全部並べていきますと、自民が約17%、新進が15%、社会が11%と単純に並んでしまいます。しかしこれだけでは選挙はおもしろくありませんので、今回のさきがけとネットに加わった票を全部社会党の最大値にに加算してみました。

三党のとった最大値、社会党の46,670票、さきがけの比例区の8,725票、ネットの幸区の市会3,738票、これだけを単純にたしますと約62,600票となり、絶対得票率では14.9%です。そこで最大値を比較すると、自民17%、新進15%、社会・さきがけ・ネットで計が14.9%という数字ですから、ほぼ横一線ということになります。

これに無党派が加わります。絶対得票率で1%ぐらいしか差がありませんから、選挙結果から見ると、選挙はやってみないとわからない、選挙の予想ができないという現象になるのです。

新聞では各紙とも新進党ウイニングですと書いてあるのですが、確かに参議院選だけみれば、新進党が勝つということはあたりまえなのですが、選挙の仕組みや、候補者、あるいは他の状況の変化によってこれだけのブレがありますから、変わっていくことになります。

したがって、絶対得票率で一番多いところと最小がでてきます。最大と最小の真ん中より以下に社会党が並んでいるとしたならば、当選は無理ではないかと判断することができます。しかし半分以上、上の方でまだ社会党が残っている場合では、やり方によっては負けるとは言えない選挙区であ

り、当選する可能性としては残っています。おそらく選挙予想をするためには、この3つの選挙の各党の票の伸びのデータを各党とも参考として入れざるをえないということになってくると思います。

一番恐いのは、総選挙を始める前から敗戦気分が漂うことが一番懸念されています。実は闘いのしくみ方によっては、可能性としては大きく残っているということになると思います。

② 神奈川9区

神奈川9区にいきます。川崎市の北の3区、宮前を除いた高津・多摩・麻生、この票を同じように見てみます。

ここでは自民党が最大で約37,800票、絶対得票率で9.9%です。社会党は最大得票が46,400で、絶対得票率12.2%です。新進が50,200票ぐらいで13.3%という数字で、自民がやや低く、新進・社会とほぼ横に並んでいるという状況です。

今年の地方選では各党が候補者を出し合って競い合ったことなどがありまして、単純に加算した数字はでてこないのですが、社会党の最大値に参院比例区のさきがけの数字を加算しますと、約57,000票ぐらいに伸びます。絶対投票率で15%という数字がでてきます。ここはネットの強い地区ですので、これにネット票をこれに載せますと68,800票というなり、絶対得票率では18.0%という数字がでました。

こうしてみますと、単純に新進党が勝つとは言えなくなってくるといえます。この数値は、あくまでも社会党などの最大値だけを単純にたした数字ですので、これだけ

の数字が本当にでてくるかどうかはわかりません。

ちなみに神奈川県9区で今回の社会党の比例区の票をみますと、県議選の得票の2分の1に落ち込んでいます。比例区での数字はどちらに指向していくかは、調べてみないとわからないところが多いのですが、最大という数字だけで見てみますと、常識

的に考えてこの区は無党派の数が多いので、可能性としてはまだ残っていると言えると思います。

衆議院の今度の推定の投票率がどのくらいになるかと、もう少し確率の高い数字をだしていかなければいけないのですが、めのこの計算ではそのようなことがいえるのではないかと思います。

3. 新たな政治勢力の形成の方向

次は、これからの政治課題はどうなるのかということです。

社会党がどうなるかということ以上に、次の三つは確実にやらなければならないことだと思っています。

まず一番目に選挙に勝つこと、新党を作って負けたのでは全く意味がありません。どうしたら勝てるのか考えるのです。

二番目に単純に組織を固めることだけではうまくいかないで、もう一つは政治理念、政策をどうからめていくかです。

三番目に、政党組織、新党であれ党を改革するのであれ、党組織というものが現在のままではどうにもならなくなってきているのです。例えば、次の衆議院選では全国一律に同じパターンで選挙をやることは不可能です。今回の参議院選でも違ったパターンの組み合わせができてきているのですから、小選挙区では一律なパターンは絶対に無理な話なのです。

各選挙区で独自性を発揮出来るような仕組みが、最低限必要であって、それを党中

央で一律的にやってしまおうということでは、一番目に言いました選挙で勝つというねらいすらうまく実現出来なくなってくることになります。やはりこの三つが確実に必要です。

(1) 新しい政党の組織論

① 地域の独自の対応可能な組織を

そこで政党組織はどうしたらよいのだろうかといえば、ポイントがふたつあります。一つは地方の独自性といいますか、各選挙区ごとの独自性を発揮できる仕組みをどう作ったらよいかということです。それから全国という形で闘うわけですから、その政党の顔にあたる部分をどう作っていくかということになります。

このふたつを政党の組織上にどう作り上

げていくのかといえば、今この考え方には二つありまして、一つは、ローカルパーティーを作ってその上に全国パーティー、ナショナルパーティーをのせてしまうという議論が一つの考え方としてあります。たぶんそれと同じような形で、社会党の中にあるアドバイザー会議というものをやっているのですが、同じような考え方がでてくるのではないのでしょうか。

ところが、必ずしもそう考える必要はなく、別のやり方もあるのです。日本のなかで受け入れられるかどうかわかりませんが、選挙区には選挙連合体、英語でいうとエレクトション・アソシエーションという、政党ではない選挙連合体というのをつくり、首長選でやる市民党に該当するものつくって、そこで候補者をたてるのです。

政党との関係はどうなるのかというと、そこで当選した人達は議員団をつくり、国会議員団は政党から独立させます。それから政党というものをまた別におくのです。選挙連合と議員団と政党の三つができるのです。議員団の中では選挙母体の趣旨によって各政党にわかれてもいいわけです。このように住所を3つも持つというやり方もできなくはないのですが、有権者から見ると、少し分かりにくいと思います。

② 議員団の独自性発揮

この関連でなにが問題になるかというと、日本の社会党の最大の特徴は、だいたい改善されたのですが、議員団の力がとても弱いと言うことです。労働党・社会民主党のなかで、これだけ議員団が独立していない政党というのはめずらしいのです。

社会党が掲げている党組織論は、実は社会民主主義の党組織論というよりもマルクスレーニン主義をひきずってきた党組織論の作り方をしてきました。それが有効に機能していた時代は確かにあったのですが、議員の政策とかいろいろなことを考える場合には、どこの国でも議員団の力は大きくなっていくのです。議員団と党とは拮抗しているということが、正常の姿になっているのです。極端なことをいいますと、議員団の決定と党の決定とがくいちがうときがあります。

ドイツの社民党ですと、シュミットが首相をしているときに、ブランドが党首をしており、これに議員団長というナンバー3がいたのです。この3人の意見がくい違う時がしばしばあったのです。政府と、党と、議員団、その間をどううまく調整をしていくかという協議をやりながら、党運営を行ってきたのです。ドイツの社民党もイギリスの労働党も、党が非常に強いところがありますので、その意味で議員団の独立性をある程度強くする考え方を前提におきませんと、先ほどいった柔軟な構造はなかなかできなくなるのです。

議員団をどう強くしていくのかを考える一方で、日本語で言う統一会派という議会における多数党の議員団をどうつくっていくかということを考えていきませんと、党の組織論はうまく行かないのではないかと思います。

ここでお金の問題があり、新しくできた日本の政党助成金の扱いがでてきます。それをどこへ配分していくのかが、もうひとつの問題なのです。規定からいえば議員団を政党に格上げしてそこがもらってもいい

のです。これは出来ないことではないので、そこで政党から議員団ということで還付させることもできるのですが、そういうやり方も考えなくてはいけないことなのです。

選挙区で勝つためには、各選挙区ごとに、各独自の組み合わせを行っていかざるをえないということです。社会党が単独で勝てる北海道のような選挙もありますが、単独では勝てない選挙区が圧倒的に多いのです。それぞれの選挙区で幅をもたせるようなかたちで、ゆるやかな党内組織をどうつくってゆくのが、それが組織にかかわる問題になるのではないかと思います。

③ 政党の顔は身近な複数でもよい

党組織にかかわって、政党の顔にあたる部分なのですが、三つのこと念頭においておいたほうがよいと思います。

政党の顔が一つである必要はないということです。どうしても党首という顔だけでどうにかしようと考えやすいのですが、ドイツの社民党でもイギリスの労働党でも、上昇気流にのった時にはたいてい党の顔は、複数いたのです。その意味で一人だけしほるとするのは無理があります。複数の顔をたてる、実際の政党の顔は一人でなくて複数必要なのではないのでしょうか。それをどう作っていくのかということが社会党のもう一つの問題点になると思います。

政党の顔と同時に、もう一つは、有権者は何で判断するかと言うと、近さ、身近さです。身近さというものをどう感じさせるかということが非常に重要視されていて、候補者ばかりではなくて、党首、首相もそ

うなのです。このまえの細川政権以来、いわゆる総理らしくない総理、首相らしくない首相が生まれてきましたが、実はこの要因と関連しているのではないかとされているのです。学者が言いはじめたのはクリントンのことでした。

候補者にとって身近さというのは、投票行動に与える影響がとても強くなっているのではないかと。そのような身近さを訴え、どう作っていくのかということが、問題として残っている気がしています。

その意味でテレビに出ているタレントはいま遠い存在になっています。前は知名度と言われていましたけど、今は知名度と言うよりも、テレビの電波に乗っていて、確かに知名度は高いのですが、人々から遠い存在という人もいるわけです。もう一つ近い存在という人もいるということで、遠さ・近さの判断ということがあります。そこが今回の参院選ではタレント候補が落ちて、4月の統一地方選では青島氏、ノック氏が勝ったということは、この「近き現象」とある程度関連しているのではないかと思います。

(2) 政治理念と政策のあり方

① 政治理念づくり

理念のプロフィール化

第二番目に、政治理念、政策の問題です。党なり政治組織を掲げる以上、政治理念を持っていませんと、二つの意味でマイナス

になることが明かなのです。

ひとつは、政治理念を持っていないと、党を支持してくれる人達に対して何の為に支持をしているのかが分からなくなっていくのです。いわゆるアイデンティティと言っている問題です。そのアイデンティティをどう作っていくのかということで、この問題は必ず必要になってくるのです。

もう一つは、他と識別させるという能力です。これがないと他との識別能力がなくなりますから、見てもよく分からない場合です。したがって政策は同じでも、政治理念は違うということはよくあるのです。政治理念の面で、識別させる効果を出すためにいろいろなことをやっています。ドイツではこのことを「プロフィールづくり」と言い、その政党のプロフィールをどう作るのか、縦の識別をきちんとさせるためのプロフィールを理念面でどう作っていくのかを考えます。こうして縦の識別をきちんとやらなければならないのです。

今回の選挙で与党三党は、完全に失敗したと思っています。いわゆるプロフィールづくりというのがなかなかうまくできなかったのです。三党ともに同じようなことを言ってしまうのです。有権者からみれば、何を言っているか分からなくなりますし、新しいこと聞きたい人も、三党が同じようなこと言っているから、どこへ投票したらよいか分からなくなる。そのような現象があって理念づくりが、理念をプロフィール化することに成功しなかったからです。

そのときに極樞になっていたのが、連合政権だと思います。連合政権だと、三党とも同じものをやらなければならない、というトリックに陥ってしまって、お互いが違

いを出し合うことがなかなかうまく行かなくなる。遠慮したというか、お互い同士が同じようなことを言い合ってしまったのです。今回は、連合政権が日本では定着していないので、そういうことがあったのではないかと思います。

② 連合政権と選挙協定

連合政権との選挙との関係の話をすこし詳しく試してみたいと思います。連合政権で選挙を闘っているのはヨーロッパには多々ありまして、ほとんどの国が連合政権ですから、選挙をどう闘っていくのかということが問題になります。そのときのやり方は二つあります。

一つは、政策面での政党別の分業をある程度認めていって、ある政策はこの党に、ある政策はこの党にと、プロフィールづくりをその政策に集中させていくというやり方があります。この党の重点政策はこちらで、この党の重点政策はこちらと、重点政策の分業をし、政策を分けあっていき、お互いに補完作用をしていくと言うやり方があります。

もう一つは、多くのところは選挙戦に入りますと連立与党というものをいったん解消してしまい、お互いの党がやりたいことをやりあって、言いたいことを言い合うという選挙が行われます。どこの国の場合でも、総選挙の場合こちらの方が本筋です。ですから選挙に入った場合、連立政権の枠組みは事実上消えてしまい、選挙管理内閣になる、という判断が一方でできています。この後者のやり方がいちばん多いのではないかと思います。

そのやり方は、今度どうなるか全然予想できませんが、連立の協定を事前に結ぶのか、事後に結ぶのかということで、相当やり方が違ってくると思います。ですから同じ党が、そのままもう一回、選挙が終わって同じような政権の組み合わせをやるとしても、ドイツの場合には選挙戦に入ったときには、一度切ってしまう。後は、三党がばらばらに闘って、選挙を終わってもう一度組み合わせをつくることになります。

その意味で連立の場合には、組んだものをもう一度ほぐして、やっかいな協議をやらなければならないのです。日本の連立政権の場合には、そういうこともあって、プロフィールづくりがうまくいかなかったのだと思います。

(3) 政治理念の現在の課題

① 保守主義の課題

そこで政治理念の問題に入らせていただきますが、どの政治理念も、ほぼおかしくなってきました。大きな政治理念というのは保守主義、社会民主主義、リベラリズムの三つがあるといわれているのです。その一つである保守主義と、保守主義の政治思想というものも正直いっておかしくなってきました。それがいちばん端的に出てきているのは、イギリスなのです。

イギリスで保守主義を理念におかしくしたのは、サッチャー政権です。保守のなかで改革をするというのは矛盾しなければ

ならないのです。そのことによって残ったメイジャー政権は、いったい保守とはなんなのかということになり、非常に悩まされてきてしまいました。保守主義が、改革することによって保守主義そのものが変質していかざるをえないという側面を持ちはじめてきたのです。

その意味で、いわゆる現状維持派・穏健な保守派と、改革指向の保守派とが分かれば始めているのです。その分かれ目がどこであるのかということは国によって出方が違っていますが、保守のなかでもねじれ現象というものが、いろいろな国のなかでみられるようになってきた、といえるのではないのでしょうか。

日本の場合は、いったいどう考えれば良いのでしょうか。一つは、新進党と自民党と間で理念的な違いをどちらがどううまく出せるか、という問題になっていく可能性があるのです。現状維持が自民党で、改革指向が新進党ということになっておりますが、選挙基盤からいいますと、単純に果たしてそううまく言いきれぬのかどうなのでしょう。

確かに非常に不分明なところがあって、少なくとも理念的な面において、二つの党の間でうまくサインがでてきて、そこがすんなりとひとつのグループに制御されているとは決して言えない現象があるのです。その意味で保守主義のなかでもねじれがあるのではないかという気がします。

② 社会民主主義の課題

もう一つは、社会民主主義の理念として、社会民主主義が苦悩している三つの共通の

現象がみられています。

一つは労働とはなにかという問題を考えていかざるをえなくなっているのです。働くということは何ぞやということ、そこから始まり労働運動、組合運動、社会民主党ということを考えていかなければなりません。新しい労働運動の分野にたずさわる、新しい中産階級とかつては言われていたのですが、特にサービス産業の分野の中や、特に知的な分野にたずさわっている人達、この人達をどうやってリクルートしていくのかという問題にタッチしていかざるをえなくなってきました。そこが、今までのところうまくできてきていないのです。

二番目は、経済のグローバル化の問題にどう対応していくのか、と言う問題です。経済のグローバル化と言う問題で、これまでどちらかと言うと、社会主義系は国内経済重視派というかたちで位置づけられてきたわけなのですが、各国内の経済がいやおうなしに国際経済の中にまきこまれていった段階です。国際経済部門派をどう取り込んでいくのかという課題です。

これはある労働運動を分析している政治学者の人が分類したことなのですが、いまの連合内組合の位置づけというものをここで日本経済の国際経済部門と国内経済部門分けてみますと、意外ときちんと分かれてきます。しかし、郵政省の通信分野は国際経済派に乗りだそうとしておりますので、郵政関係というのはそちらのほうへいきますので、経済セクターからいきますと国内経済から国際経済のほうへシフトしていくという分野です。そういうことと関連づけられていくのではないのか、というのが社会主義の二番目の問題です。

社会主義の三番目の分野ですが、環境と女性です。環境に関してはうまく対応したようですが、女性に対してはあまりうまく対応していないようです。これは構成員のなかで女性の占める割合に対して、トップに占める女性の割合が少なく、比例的な構成になっていない。つまり女性がそれだけきちんと代表されていないということです。

それと関連して、女性の政党離れが非常にヨーロッパでも進んでいるといわれています。社民の勢力が落ち込んでいる原因は、女性が社民党から離れてきていることが非常に大きな要因になってきているといわれています。これが社会主義の大きな課題です。

③ リベラリズムの課題

三番目は、リベラリズムの、自由主義の問題です。日本語のリベラルというのは、どう解釈していいのかわからないのですが、日本語のリベラルというのと、自由主義という問題とは次元が違う問題ではないのかと思います。

日本の場合、リベラリズムというのはどこにあるのかと議論しなければなりません。自由民主党は、アメリカのタイム誌によれば、自由主義でも民主主義でもない、政党名が自由民主党だ、と書いてありました。日本では、もともと自民党の中の憲法擁護派の人たちに対して政治記者が使ったのが、今のリベラルの語源です。特定の政治理念をさしてリベラルと書いていたわけではないのです。

学問的に言いますとこのリベラリズムの

問題も、むずかしい状況にはいつてきておりまして、今、二つの考え方に分かれてきています。

一つは旧来の19世紀的自由主義の流れのなかを走ってきて、それを最先端にもっていて、現在の新保守主義にある程度つながるような潮流の自由主義です。これを簡単に右派自由主義と言っています。英語でリバータリアンと言うのですが、個人の自由をできるだけ強くみとめるという主張がここの核にあります。規制緩和を積極的にすすめることだとか、個人の能力をもっと実現できるようにさせるという意見が強くなってきていて、これがいちばん新保守主義の主張のなかでマッチしている。そういう潮流がひとつあります。

もうひとつ逆な流れが出てきてまして、コミンターリアンと言われ、左派自由主義と呼ばれています。左派自由主義とは、個人の自由だけ言っていては社会は成り立たないという考え方から、社会の中の絆をどうきちんと作っていくのか、もう一度考え直そう、という見解がでています。社会主義の流れと非常に近くなってきています。

この右派・左派と自由主義に二つの流れがあって、そのなかで各国の自由主義が伸びなくなってきたのです。

日本の場合、リベラルと言った場合に、そのうちのどちらに重点を、軸足を置くのか、そのどちらかの見解をとっていくのが課題ではないか思います。

(4) めざすべき政治理念とは

① 新しい「共創」の理念をめざして

リベラリズムの流れの延長線上でみた時に、今まで政治理念を考えるとときに支配的であった「官」と「民」とか、「公」と「私」の2区分法を考え直した方が良いのではないかと思います。伝統的なリベラリズムの考え方では、リベラリズムは民であり私であるのです。したがって規制緩和であり、個人の自由権の尊重であって、これがリベラリズムの原点でした。今では、民・私だけではうまく行かなくなってきたのではないかと思います。

逆に、公の方にウエイトをかけていったのが社会民主主義であったのです。日本的に言えば、公であり官であるということになります。そこから、伝統的なリベラリズム=小さな政府であり、社会民主主義=大きな政府という対立構造になっていたのです。ところが、それだけでは解決できなくなってきたのです。

結論的から申しますと、政治理念として左派リバータリアン、左派自由主義の考えに少し近い考え方に基礎をおいて、一つのキーワードを作った方がいいのではないのでしょうか。私たちが考えた見解では、その概念が「コモン」という概念です。そして共有の「共」と創造の「創」をとって「共創」という日本語の訳をつくったのです。そういうかたちでコモンという新しい概念を入れた方がよいと提唱させていただきました。

その趣旨はこういうことです。従来までの日本の政治をみていて、いろいろな切り口で公対私、官対民を対立させる考え方は

そろそろやめた方がいいのではないか。民と民とが一緒になにかをやるという「共」という場が、「コモン」と言う場がもう一つあるのではないかと考えました。政治空間を作る場合に、公という空間と私という空間しかないのはおかしいのではないか。その中の公共空間のような、コモンの空間というものをつくっておいて、そこをどう活用するかを重点的に考えていった方がよいのではないかと思います。

これまでは、公共といえば官と公がやるという発想でしたが、公共という概念は官の独占物ではないのです。これまでとは発想を変えて、違った形で公共空間はあつたはずなので、共に、一緒にやるという公共空間づくりが必要です。問題は、官と民と共、この3者間のバランスをどう考えていくのがこれからの大きな問題になると思います。

今までの日本は、国家管理型・福祉国家でした。ほとんどが公でやり、一律で、行政の一方的給付でした。これに対して共生型の福祉社会を創っていく必要があると最近ではいわれています。その時のキーワードが、官による福祉か、民による福祉かで争うのではなく、コモン、共による福祉を考えていかなければならないし、NPOというものも考えていかなければならないと思います。

② 公・共・私をめざす理由

それをなぜ考えるようになったか、理由は三つあります。一つは、今度の無党派層もそうなのですが、日本の社会が豊かになったので、政治になにかやってほしいという

ことが量的に減ってきているのはまちがいないのです。自分達が会社からお金をもらって暮らしをしているときに、政治はむしろ黙っていた方が、自分の空間、私的な生活はきちんと営むことができるのではないか。

こう考えている人達が出はじめてきていて、その人達から見ると、いろいろな生活分野で政治とか公共とかが口を出しすぎるという側面がでてきているのです。その人達にとって政治がこういうことも出来ますと言ってもむしろマイナス効果が多いのではないのでしょうか。生活の質とかアメニティの部分などならいいのですが、量的なことに関しては日本の政治は限界の状況がみえてきたのではないかということです。

二番目は、価値観が多様化してきていると前から言われてきているのですが、今の日本の政治社会を見てみますと、多様化どころではなく、ばらばら化しています。10年ぐらい前、群衆という言葉が言われたのですが、価値観があまりにも薄く広く広まりはじめてしまったので、それを一つにまとめることはむずかしくなっている。無党派という人達はそうなのでないのかといわれました。

東京の参議院選で無党派の二人が負けたときに、無党派に核がなかったから負けたのだと言っています。核が無党派にできるはずがないというのが僕らの判断です。それだけ薄く広がっているわけですから、どこかに核をおいたら、違う核が反発するに決まっているわけなのです。

そういう時にそこにどういふ薄い幕を作っていくのかということを考えていきませんと、この層をキャッチすることがなかなかむずかしくなっていく、というのが二番目

の理由です。

三番目は、これがいちばん強いのですが、国の場合に官僚がやりすぎるのという見解です。国の官僚政治をどうコントロールするかということが大きな問題になってきています。それに対して官対民という発想になっていくわけですが、それは必ずしも官対民ということにならないでしょう。官から民への流れが求められています。

③ 選挙で勝利するための条件整備を

いちばん最後に、選挙で勝つためにはどうしたらよいかということです。社会党が強いと言われていた神奈川ですら、社会党単独で勝てる選挙区は非常に数が少ないということです。そうしますと論理的な可能性は二つしかありません。

一つは無党派、社会党プラス無党派という組み合わせがあります。無党派を結集する場合にむずかしいことは、核がありませんからどこにターゲットを置いたらいいかわかりません。予想する方から見たら非常に難しいことで、無党派はきわめて浮気ですから、月ごとにころころ支持する政党を替えていくというのが無党派ですから、そこを定着させていくというのは難しくなっているということがあります。

無党派を結集するのであれば、三つのことが重要になってくるのではないかと思います。一つは、他との違いが非常にわかりやすい理念・政策を掲げることです。他との間に埋没してしまっていたら、無党派はおそらくキャッチしてこないと思います。先ほど述べた理念のプロフィール化が必要になるのです。

それから無党派層、特に女性等に身近さを感じさせるような候補が出来れば望ましいのです。こうした流動化している政治意識に対して、いま一番重要になってきているのは、有権者にとってどれだけ身近であるのかということだと思います。「身近さ」にはいろいろな面があるのですが、ひとつは人柄の身近さがあります。そして、その人が属している政党の身近さというのがあります。さらに、永田町をいかに身近なものにさせるかということもあります。永田町そのものは市民にとっては決して身近なものではありませんが、いかにして身近なものとするのが大切なことになると思います。

三番目は知名度というものは、それなりにものを言いますので、できるだけテレビエリアに出てる人、出ていなくともこれから、出すという方がのぞましいのです。また、その際にタレントではなく、これからの政治、政党、政治家はまず最初に良き市民であるということをも前提にして行動しなければなりません。市民常識を持たない政治家はあり得なくなり、永田町の感覚は市民常識ではないという世界に変えていかなければならないからです。

もう一つの組み合わせはなにかといいますが、無党派を除くわけではないのですが、常識的にいえば、自民、新進、共産を除いたところを総結集かける、というやり方があります。神奈川で具体的にいえば、さきがけであり、ネットであるということではないのでしょうか。おそらく選挙区ごと、あるいはさきがけ、ネットの選挙区の事情によっていろいろ違ってくるということになると思います。

それで本当に勝てるかどうかということ
は分からないのですが、おそらく今回、投
票率が下がり過ぎましたので、今度の衆議
院選は投票率が下がっても51~52%位は
いくのではないかと読んでいるのです。そ
うしますと票の出方は相当違ってくるの
ではないかと思えます。

以上で、私の問題提起を終わらせていた
できます。

(この稿は、1995年7月31日に開かれた神
奈川県公務員共闘会議の夏期セミナーにお
ける高橋教授の講演を採録したものです。
文責は編集者にあります。)

| 国会の党派別新勢力 | 衆院 女性 | | 参院 女性 | 今回の当選者 | | | 非改選 | 改選前 女性 |
|-----------|----------|------|----------|---------|---------|-----------|-----|-----------|
| | | | | 計 女性 | 選挙区 | | | |
| | | | | | 計 女性 | 比例区 女性 | | |
| (2) | 201 | 自民 | 110(7) | 49(4) | 34(1) | 15(3) | 61 | 94(6) |
| (5) | 169 | 新進 | 56(9) | 40(7) | 22(3) | 18(4) | 16 | 35(4) |
| (2) | 65 | 社会 | 38(9) | 16(4) | 7(1) | 9(3) | 22 | 63(14) |
| (0) | 21 | さきがけ | 3(1) | 3(1) | 1(0) | 2(1) | 0 | 1(1) |
| (2) | 15 | 共産 | 14(4) | 8(3) | 3(1) | 5(2) | 6 | 11(4) |
| (0) | 6 | 自由連合 | -(-) | -(-) | -(-) | -(-) | 0 | 0(0) |
| (0) | 1 | 平和市民 | 2(0) | 1(0) | 1(0) | 0(0) | 1 | 4(0) |
| (0) | 0 | 公明 | 11(2) | -(-) | -(-) | -(-) | 11 | 12(3) |
| (0) | 0 | 二院 | 2(0) | 1(0) | -(-) | 1(0) | 1 | 2(0) |
| (0) | 0 | 民改連 | 2(1) | 2(1) | 2(1) | -(-) | 0 | 8(2) |
| (0) | 0 | スポーツ | 1(-) | 0(-) | -(-) | 0(-) | 1 | 2(0) |
| (1) | 22 | 無所属 | 13(1) | 6(1) | 6(1) | -(-) | 7 | 17(4) |
| (1) | 5 | 与党系 | 4 0 | 1 0 | 1 0 | - - | 3 | 6(1) |
| (0) | 5 | 野党系 | 3 0 | 2 0 | 2 0 | - - | 1 | 3(0) |
| (0) | 12 | その他 | 6 1 | 3 1 | 3 1 | - - | 3 | 8(3) |
| (12) | 500 | 計 | 252(34) | 126(21) | 76(8) | 50(13) | 126 | 250(38) |
| | 11 | 欠員 | 0 | | | | 0 | 2 |

【注】追加公認を含む。分類は原則として所属党派によるため、国会内会派とは一致しない。無所属の内訳は「内閣不信任案」(衆院)、「首相問責決議案」(参院)への賛否や推薦・支持関係による。両院とも(参院は前)議長、副議長は出身政党に戻した。改選前の合計には連帯の1を含む。

神奈川県における

参議院選挙結果の特徴

神奈川県地方自治研究センター
事務局

1. 特徴的な選挙結果

最初に、神奈川県における参議院選挙について、その結果の特徴的な傾向を概括して見てみたい。(候補者名はすべて敬称を略します)

まず、第一の特徴として、神奈川県選挙区選挙では定数是正が行われ、定数が2から3に増加したにもかかわらず、参院選挙はじまって以来最大の立候補者があり、全国的にも有数の激戦の選挙区となったことである。

自民、新進、社会、共産の各党がいち早く候補者を決定した時点では、無風区などとすら言われていた。しかし、無所属の弦念丸呈湯河原町議が出馬を声明し、さきがけが作家石川好を擁立したのに続き、6年前にトップ当選したものの社会党を抜け新進へ移りさらにそこも離れてた小林正参議

院議員が無所属での立候補を発表したことなどから、一転して激戦区に突入したのである。

結果としては、新進の松あきら、自民の石渡清元、社会党の斉藤つよしの当選で終わったものの、3位と次点との差が3万票あまりときわめて接近した結果であった。

第二の特徴は、全国的傾向と同様に、参議院通常選挙としては史上最低の投票率である40.88%を記録したことである。朝日新聞の石川真澄編集委員は、統一自治体選挙と参議院選挙の重なる年=亥年の選挙は投票率が下がるという説をすでに明らかにして「亥年現象」と呼んでいたが、これがまさに的中し、前回の最低記録43.07%をさらに更新したのである。この低い投票率が、各党派に微妙な影響を与えたことが特徴的であった。

第三の特徴として、選挙区選挙での当選者の得票が、比例区の政党の得票を下回ったことである。従来の2議席の選挙の時は、選挙区の得票は常に比例区を大幅に上回っ

ていたのであるが、選挙区で当選した新進、自民、社会の各党とも比例区の得票をとれなかったという現象が初めて見られた。無所属や新党さきがけの候補者が大量の得票を取った結果であると言われている。

以上の全体的な特徴について、その原因と背景をやや詳細に見てみたい。

2. 激戦だった選挙区選挙 各党の勝敗と集票状況

激戦となった選挙区選挙であったが、事前のマスコミ調査では、トップの新進党松あきはほぼ安全圏入りし、自民党の石渡清元がこれに続き、3番目をめぐって社会党の斉藤つよし、無所属の弦念丸呈、さきがけの石川好が競い合う、という構図であり、投票率が微妙に影響するのではないかとされていた。

結果は、松が71万票を越えダントツで早々と当選を決め、石渡も46万票で自民党としては票を減らしたものの続いて当選し、あと1議席を巡る争いが最後まで続き、全国選挙区選挙の最後の直前に斉藤の当選が決まる、という状況であった。次点には、日本に帰化して湯河原の町会議員となっていた弦念が3万票あまりの差で続き、さきがけの石川は25万9千票、共産党の畑野君枝が25万6千票とこれに続いていた。それぞれの候補者の勝因・苦戦の原因・敗因をみてみたい。

新進党の松あきは、宝塚出身というタレント候補で知名度も高く、母体となった創価学会もフル稼働したこと、新進党を支

援する旧同盟系組合も一定の活動を進めたことなどが勝因といわれている。新進党というイメージが、旧公明党の幅の狭さを覆い隠し、一定の浮動票を吸収するのに役立ったとみられている。新進党の松というと票を集めやすかった、と創価学会の運動員が述べていたとの報道が印象的である。

自民党の石渡は、現職でありながら2位当選に甘んじ、自民党の基礎票といわれる55万票をとることができなかった。地味な性格で、6年間の議員活動があっても地域への浸透が弱く、日常活動が不足していたといわれていた。しかも自民党の地方議員などの動きが必ずしも活発とはいえない状況であった。市会議員の一部に、なぜ石渡の運動をしなければならないのか、という反発の声が聞こえていたことが象徴的であり、自民党という老舗の看板で議席を守ったものといえよう。

社会党の斉藤は、横浜市会議員2期の自治労出身の新人だが、自社内閣の成立に伴う社会党の政策転換への反発が強まるなどの逆風の中での選挙であった。市議では2回ともトップ当選したとはいえ、県内全体でみれば知名度はきわめて低く、温厚な人柄を売り込むのに成功しなかった。

4月の地方議員の選挙では全県を応援に廻ったにも関わらず、参院選での地方議員の動きはきわめて鈍く、立体選挙にはほど遠い選挙体制であった。頼りとする労組も本格的な活動は告示直前からになったことなど悪条件が重なっていた。社会党の基礎組織の脆弱さが表れたことと、労組員の組合離れが象徴的に表れていたのが苦戦の原因である。横浜市内での最後の追い込みで辛うじて議席を得ることができたものとい

政党別得票数・率の比較（神奈川）

| 政党名 | 参院選挙区選挙 | | | | 参院比例区選挙 | | | 選挙区—比例区 | |
|-------|---------------|-----------|--------|-----------|-----------|--------|-----------|----------|------------|
| | 候補者名 95参院選 | 得票数 | 得票率 | 絶対 得票率 | 得票数 | 得票率 | 絶対 得票率 | 得票数 | 選／比 増減率 |
| 自民党 | 石渡 清元 | 466,457 | 18.3% | 7.3% | 521,554 | 20.5% | 8.1% | -55,097 | 89.4% |
| 社会党 | 斉藤つよし | 371,889 | 14.6% | 5.8% | 424,767 | 16.7% | 6.6% | -52,878 | 87.6% |
| 新進党 | 松 あきら | 718,030 | 28.2% | 11.2% | 730,409 | 28.7% | 11.4% | -12,379 | 98.3% |
| 共産党 | 畑野 君枝 | 256,015 | 10.1% | 4.0% | 250,339 | 9.8% | 3.9% | 5,676 | 102.3% |
| さきがけ | 石川 好 | 259,327 | 10.2% | 4.0% | 172,415 | 6.8% | 2.7% | 86,912 | 150.4% |
| 無所属 | 弦念 丸皇 | 339,484 | 13.3% | 5.3% | | | | | |
| | 小林 正 | 56,491 | 2.2% | 0.9% | | | | | |
| 有権者総数 | | 6,421,453 | | 100.0% | 6,421,453 | | 100.0% | | |
| 有効投票数 | | 2,544,604 | 100.0% | | 2,544,604 | 100.0% | | | |
| 92参院選 | | | | | | | | | |
| 自民党 | 斉藤 文夫 | 753,853 | 30.6% | 12.3% | 622,053 | 25.2% | 10.2% | 131,800 | 121.2% |
| 社会党 | 千葉 景子 | 693,301 | 28.1% | 11.3% | 445,069 | 18.0% | 7.3% | 248,232 | 155.8% |
| 公明党 | | | | | 406,430 | 16.5% | 6.7% | | |
| 民社党 | 大石 尚子 | 370,820 | 15.0% | 6.1% | 179,806 | 7.3% | 2.6% | 191,014 | 206.2% |
| 共産党 | 大森 猛 | 218,175 | 8.8% | 3.6% | 182,839 | 7.4% | 3.0% | 35,336 | 119.3% |
| 新自ク | 円山 雅也 | 348,264 | 14.1% | 5.7% | 282,295 | 11.4% | 4.6% | 65,969 | 123.4% |
| 無所属 | | 81,854 | 3.3% | 1.3% | 454,769 | 18.4% | 7.4% | -372,915 | 18.0% |
| 有権者総数 | | 6,109,757 | | 100.0% | 6,109,757 | | 100.0% | | |
| 有効投票数 | | 2,466,266 | 100.0% | | 2,466,266 | 100.0% | | | |

える。

無所属の弦念は、異色の候補といわれマスコミでもたびたび取り上げられており、無党派層の票の獲得に一定の成功をおさめた。また、早起き会などの社会教育団体や一部の宗教団体の支援を得ており、特に県西地区での人気は高かった。しかし、低投票率のために頼りとしていた無党派層が棄権してしまい、当選圏にあと一步で届かなかった。投票率があと5%高かったら、選挙運動があと1週間あったら勝敗は変わっていたかもしれない、と一部ではささやかれている。

さきがけの石川は、神奈川ネットワーク運動が社会党の斉藤とともに並立推薦をうけ、ネットの各組織への働きかけを積極的に行った。また、ネットの前県議の渡辺光子がさきがけの比例区の第3位に名簿搭載

されたことや、立正校成会の支援を得るなどの有利な環境が整ってきた。街頭での有権者へのインタビューや討論の呼びかけなど新しい選挙運動のスタイルを打ち出したものの、逆に運動員の意欲をそぐ結果となり、当選圏に届かなかった。

共産党の畑野は、教員出身で母親というソフトなイメージを売り出し、共産党の堅いイメージを払拭する運動展開を進めてきた。しかし、低投票率に強いといわれたものの、党の基礎票の25万票を確保するにとどまった。

無所属の前議員の小林は、家族と親戚関係だけが運動員という状況で、5万票の獲得にとどまり、全県での運動展開はできなかった。前回の社会党ブームで獲得した史上初の117万票には遠く及ばなかった。

3. 低投票率の原因 無党派層の動向

史上最低の投票率といわれる今回の選挙で、石川真澄氏のいう「亥年現象」は現実のものとなった。石川氏は、その原因として、4月の地方選挙で地方議員が自分の選挙で疲れ果て、参議院で有権者への働きかけが鈍ること、と指摘していた。今回もその慧眼通りとなったわけだが、その影響は自民党と社会党に明確に現れている。

4月の地方選における県議の得票でみると、県全体で自民党が85万票、社会党が49万票であった。この票は、全県で地方議員がフル回転して出した票だといわれており、今回の得票との差は自民党が39万票、社会党が12万票であり、この乖離の大きさが選挙区で両党の候補者が苦戦した原因であることがわかる。地方議員の活動がきわめて鈍かったといえるのである。

この両党の支持者は、もともと「柔らか

い支持層」に支えられており、時々の政治状況により流動するものだといわれていた。たとえば自民党支持者のこの層は、普通の選挙では投票をするが、金権政治の批判を受けた後の選挙などでは選挙を棄権するので、投票率が下がる。これが支持層の「縦（垂直）移動」と呼ばれる現象で、これが自民党の得票の増減に影響を与えていたといわれていた。

社会党も同様に、投票率が上がる時には「柔らかな支持層」が社会党に投票するので投票率は高い方がよいといわれてきた。社会党は「浮動票」をつかんでいるといわれているが、今回は、その逆の目が出たものといえよう。

ちなみに、新進党でみると、4月の県会の得票は新進と公明をあわせると66万票である。県会では両党の立候補者のいない選挙区が多くあることから、参院選では全県でフル回転したので、この票を上回る71万票を獲得することができたといえよう。

一方、政党支持のない層の動きが注目されていた。4月の選挙で「東京・大阪現象」と呼ばれる「無党派層の反乱」今回は不発

政党支持の状況（参院選告示前の調査結果の比較）

| 政党名 | 自治研センター調査 | | | | 朝日新聞調査 | | 共同通信 |
|--------|-------------|--------------|---------------------|--------------|---------------|------------|------------|
| | 95.6 藤沢市 | 95.4 選挙支持 | 95.4 県会 絶対得票率 | 94.11 県東部 | 95.6 青葉・宮前 | 95.6 全国 | 95.6 全国 |
| 自民党 | 15.9% | 17.8% | 14.1% | 13.0% | 16.0% | 26.0% | 30.4% |
| 社会党 | 5.0% | 7.8% | 7.0% | 6.7% | 6.0% | 10.0% | 11.2% |
| 新進党 | 6.6% | 6.9% | 5.7% | 6.1% | 11.0% | 7.0% | 15.2% |
| 新党さきがけ | 0.4% | 0.7% | 0.0% | 1.5% | | 2.0% | 3.5% |
| 共産党 | 1.5% | 2.8% | 3.0% | 1.9% | | 2.0% | 2.5% |
| 公明 | 3.1% | 4.1% | 7.0% | 2.5% | | | |
| 神奈川ネット | 1.2% | 1.6% | 0.9% | | | | |
| その他 | 2.7% | 11.9% | 5.7% | 1.1% | 9.0% | 1.0% | 0.6% |
| 支持政党なし | 58.8% | | | 59.7% | 58.0% | 43.0% | 27.4% |
| 答えたくない | | 19.6% | | | | | |
| 棄権 | | 21.5% | 57.5% | | | | |

に終わったようである。無党派層は、大多数が棄権したものとおもわれる。

当研究センターでは、94年11月に県東部の都市で、また95年6月には藤沢市で政治意識調査を行っている。その調査では、政党支持を聞いたところ「政党支持なし」と答えたのが約6割（59.7%と58.8%）であった。各政党の支持者は4割にみたないで、いわゆる無党派層とよばれる人々が6割であり、この層が多数派を形成していることになる。

今回の神奈川県投票率が4割を少し越えただけであったことからすると、「柔らかい支持層」とあわせて「政党支持なし層」も投票へいかなかったのではないかと推定することができるのではなかろうか。

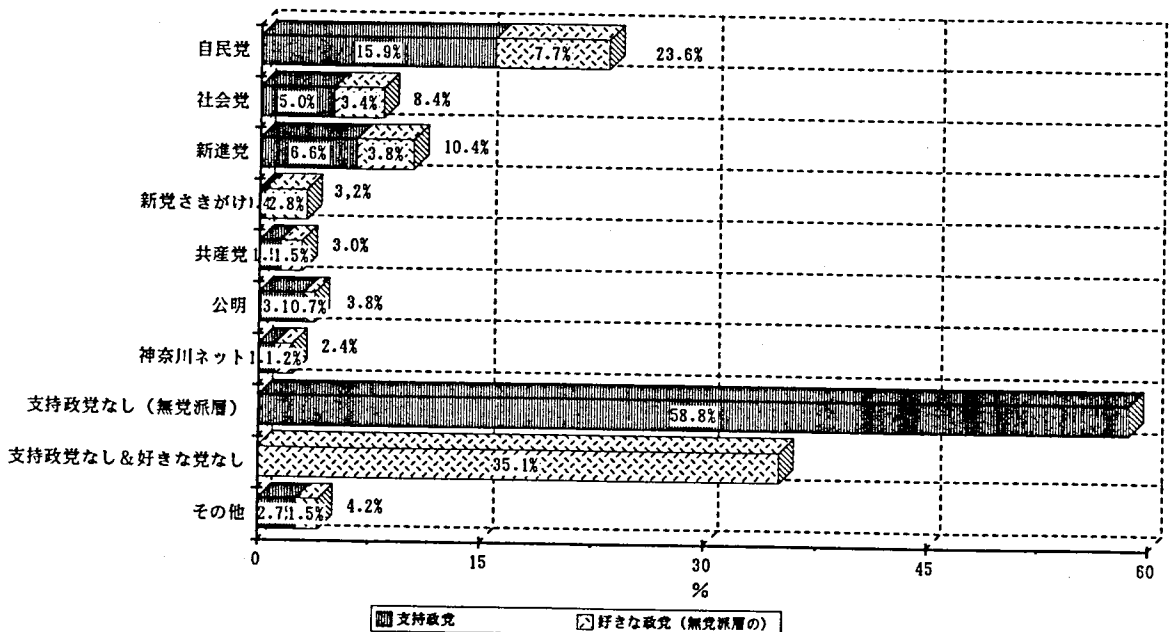
この無党派層への働きかけが弱く、しかも支持者への働きかけも不十分であったことからすると、投票率の低下は当然の結果であったとすら思える。

4. 選挙区が比例区を下回る
既成政党の支持基盤にゆらぎ

今回の選挙結果を、政党別に選挙区と比例区の得票を比べてみると、自民、社会、新進の3党とも選挙区より比例区得票が多くなっている。これは、過去の選挙ではみられなかった現象である。自民・社会ではともに5万票も少なくなっており、これは石渡・斉藤両候補の地元である横浜・南区を除いて全選挙区で共通した現象となっている。

逆からみると、比例区で自民党または社会党と書いた人たちのうち1割以上の人がある党公認の選挙区候補者に投票しなかったことになる。人数としては11万人弱であり、おそらく新進党の松またはさきがけの

藤沢市民の政党支持の状況



石川に流れたものと推計される。ここにも、この両候補の苦戦の原因を読みとることができる。

前項で、「柔らかい支持層」と「政党支持なし層」が投票しなかったことを推定したが、この選挙区と比例区の乖離をみることによって支持層に政党間の移動があったことがこの選挙の結果明らかになったものとみたい。すなわち支持者が「横（水平）移動」したことになる。

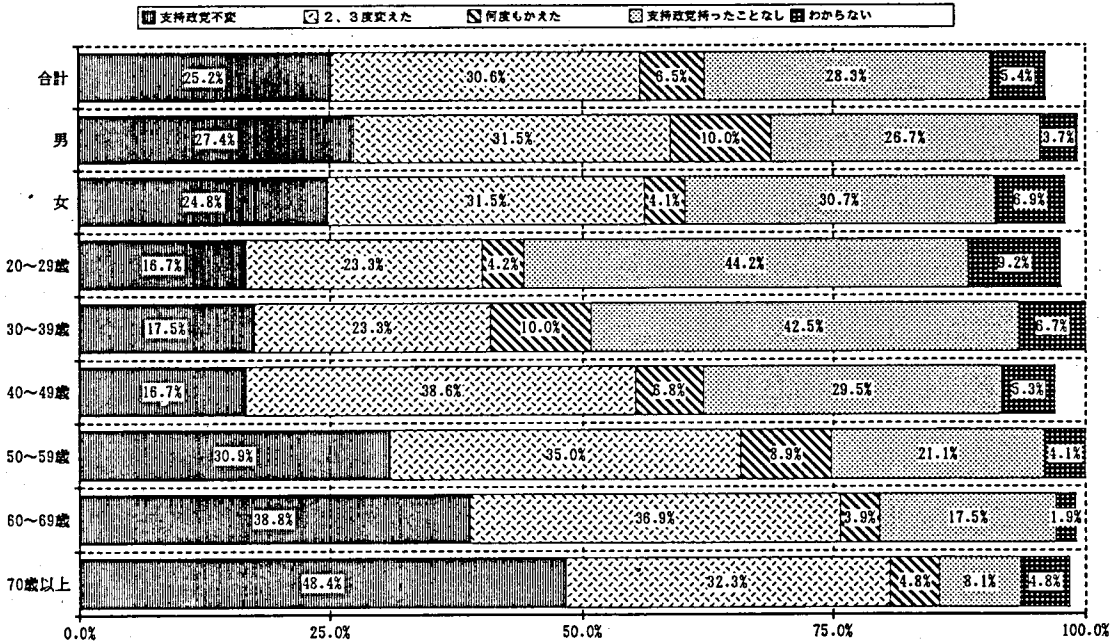
すでに述べた、昨年と今年の当センターの政治意識調査では、政党の支持の変化について調べている。それによると、政党支持について「変えたことがある」と答えた人が約4割いる（「2、3度変えた」31～35%、「何度も変えた」6%）ことが明らか

かになっている。このことは、20～30歳代では「支持政党を持ったことがない」のが過半数を超え、年齢で40～50歳代には「政党支持を変えたことがある」のは決してめずらしいことではなくなっていた。

今回の選挙は、その意味では調査結果を裏付けるものとなったといえよう。政党支持の水平・垂直の両方の移動が、この神奈川の選挙結果から読みとることができたのではなかろうか。これは、マスコミでいわれる政党支持の「液状化現象」であり、既成政党への不信の表れでもある。

この結果を、冷静に判断し、新たな政治への信頼回復に向けての活動が開始されることが期待されている。

問14 支持政党に対する「浮気度」



この稿に掲載されているグラフは、95、6に実施した藤沢市民の政治意識調査の結果である。

神奈川県 各級選挙 党派得票数の動き：神奈川県全体

| 県全体 | 有権者数 | 投票者数 | 投票率 | 有効投票 | 自民党 | 得票率 | 社会党 | 得票率 | 公明党 | 得票率 | 民社党 |
|----------|-----------|-----------|--------|-----------|-----------|-------|-----------|-------|---------|-------|---------|
| 衆院選平均 | 5,149,249 | 3,253,733 | 63.19% | 3,219,159 | 783,794 | 24.3% | 636,428 | 19.8% | 446,576 | 13.9% | 333,181 |
| 76.12 衆院 | 4,413,694 | 3,034,530 | 68.75% | 2,986,288 | 460,801 | 15.4% | 520,718 | 17.4% | 434,015 | 14.5% | 394,148 |
| 79.10 衆院 | 4,623,630 | 2,529,693 | 54.71% | 2,507,458 | 472,975 | 18.9% | 483,993 | 19.3% | 411,337 | 16.4% | 332,474 |
| 80.6 衆院 | 4,685,526 | 3,278,181 | 69.96% | 3,235,462 | 786,609 | 24.3% | 627,888 | 19.4% | 436,645 | 13.5% | 416,922 |
| 83.12 衆院 | 5,014,137 | 3,030,674 | 60.44% | 3,009,991 | 616,808 | 20.5% | 586,265 | 19.5% | 474,622 | 15.8% | 429,327 |
| 86.7 衆院 | 5,281,965 | 3,282,314 | 62.14% | 3,235,617 | 822,777 | 25.4% | 618,075 | 19.1% | 491,412 | 15.2% | 400,253 |
| 90.2 衆院 | 5,796,410 | 3,815,548 | 65.83% | 3,791,737 | 1,363,693 | 36.0% | 1,049,260 | 27.7% | 447,853 | 11.8% | 246,261 |
| 93.7 衆院 | 6,229,384 | 3,805,191 | 61.08% | 3,767,562 | 962,892 | 25.6% | 568,794 | 15.1% | 430,149 | 11.4% | 112,880 |
| 参/地/平均 | 5,375,756 | 2,932,856 | 54.56% | 2,814,504 | 688,665 | 24.5% | 682,968 | 24.3% | 688,049 | 24.4% | 502,090 |
| 77.7 参地 | 4,453,853 | 2,705,408 | 60.74% | 2,629,648 | | 0.0% | 593,009 | 22.6% | | 0.0% | 518,272 |
| 80.6 参地 | 4,685,526 | 3,277,360 | 69.95% | 3,150,505 | 902,170 | 28.6% | 692,100 | 22.0% | | 0.0% | 664,167 |
| 83.7 参選 | 4,952,831 | 2,642,258 | 53.35% | 2,581,826 | 529,445 | 20.5% | 477,919 | 18.5% | 688,049 | 26.6% | |
| 86.7 参選 | 5,281,965 | 3,280,887 | 62.11% | 3,082,619 | 806,519 | 26.2% | 777,298 | 25.2% | | 0.0% | 568,382 |
| 89.7 参選 | 5,724,909 | 3,368,329 | 58.84% | 3,246,063 | 673,544 | 20.7% | 1,175,262 | 36.2% | | 0.0% | 388,808 |
| 92.7 参選 | 6,109,757 | 2,630,907 | 43.06% | 2,466,266 | 753,852 | 30.6% | 693,301 | 28.1% | | 0.0% | 370,820 |
| 95.7 参選 | 6,421,453 | 2,624,845 | 40.88% | 2,544,604 | 466,457 | 18.3% | 371,889 | 14.6% | | 0.0% | |
| 参/比/平均 | 5,375,756 | 2,932,782 | 54.56% | 2,849,863 | 657,864 | 23.1% | 528,104 | 18.5% | 412,736 | 14.5% | 244,680 |
| 77.7 参全 | 4,453,853 | 2,705,433 | 60.74% | 2,625,259 | 507,247 | 19.3% | 468,133 | 17.8% | 415,243 | 15.8% | 269,724 |
| 80.6 参全 | 4,685,526 | 3,277,062 | 69.94% | 3,152,302 | 888,909 | 28.2% | 366,615 | 11.6% | 404,272 | 12.8% | 296,109 |
| 83.7 参比 | 4,952,831 | 2,642,258 | 53.35% | 2,602,569 | 590,093 | 22.7% | 366,070 | 14.1% | 452,804 | 17.4% | 262,348 |
| 86.7 参比 | 5,281,965 | 3,280,232 | 62.10% | 3,168,950 | 830,237 | 26.2% | 498,847 | 15.7% | 434,513 | 13.7% | 269,618 |
| 89.7 参比 | 5,724,909 | 3,368,329 | 58.84% | 3,308,600 | 644,953 | 19.5% | 1,127,225 | 34.1% | 363,155 | 11.0% | 190,475 |
| 92.7 参比 | 6,109,757 | 2,631,314 | 43.07% | 2,573,261 | 622,053 | 24.2% | 445,069 | 17.3% | 406,430 | 15.8% | 179,806 |
| 95.7 参比 | 6,421,453 | 2,624,845 | 40.88% | 2,518,100 | 521,554 | 20.7% | 424,767 | 16.9% | | 0.0% | |
| 県会選平均 | 4,909,021 | 2,684,191 | 54.68% | 2,621,420 | 766,451 | 29.2% | 542,549 | 20.7% | 254,542 | 9.7% | 252,639 |
| 75.4 県会 | 4,178,924 | 2,827,723 | 67.67% | 2,772,308 | 913,846 | 33.0% | 648,833 | 23.4% | 279,883 | 10.1% | 213,550 |
| 79.4 県会 | 4,081,416 | 2,235,324 | 54.77% | 2,193,586 | 586,381 | 26.7% | 456,952 | 20.8% | 252,189 | 11.5% | 219,897 |
| 83.4 県会 | 4,851,231 | 2,836,957 | 58.48% | 2,780,544 | 731,538 | 26.3% | 514,426 | 18.5% | 289,137 | 10.4% | 302,991 |
| 87.4 県会 | 5,288,609 | 3,030,522 | 57.30% | 2,958,551 | 723,465 | 24.5% | 644,619 | 21.8% | 267,598 | 9.0% | 311,623 |
| 91.4 県会 | 4,940,481 | 2,329,452 | 47.15% | 2,272,574 | 788,463 | 34.7% | 499,043 | 22.0% | 221,761 | 9.8% | 215,135 |
| 95.4 県会 | 6,113,466 | 2,845,169 | 46.54% | 2,750,959 | 855,010 | 31.1% | 491,421 | 17.9% | 216,684 | 7.9% | |

90～92年の「新自ク」は「諸派」、93年は「日本新党」の得票数である

| 得票率 | 新進党 (新生党) | 得票率 | 共産党 | 得票率 | 新自ク (日本新党) | 得票率 | さきがけ | 得票率 | ネット | 得票率 | その他 | 得票率 |
|-------|--------------|-------|---------|-------|---------------|-------|---------|-------|---------|------|-----------|-------|
| 10.3% | 168,540 | 5.2% | 343,686 | 10.7% | 489,695 | 15.2% | 373,164 | 11.6% | 106,897 | 3.3% | 77,876 | 2.4% |
| 13.2% | | | 391,644 | 13.1% | 774,601 | 25.9% | | | | | 10,385 | 0.3% |
| 13.3% | | | 364,647 | 14.5% | 422,218 | 16.8% | | | | | 19,813 | 0.8% |
| 12.9% | | | 409,610 | 12.7% | 523,526 | 16.2% | | | | | 34,262 | 1.1% |
| 14.3% | | | 337,282 | 11.2% | 548,138 | 18.2% | | | | | 17,549 | 0.6% |
| 12.4% | | | 330,477 | 10.2% | 443,040 | 13.7% | | | | | 129,583 | 4.0% |
| 6.5% | | | 307,879 | 8.1% | 219,055 | 5.8% | | | 83,354 | 2.2% | 74,382 | 2.0% |
| 3.0% | 168,540 | 4.5% | 264,262 | 7.0% | 497,284 | 13.2% | 373,164 | 9.9% | 130,439 | 3.5% | 259,158 | 6.9% |
| 17.8% | 718,030 | 25.5% | 306,962 | 10.9% | 465,136 | 16.5% | 259,327 | 9.2% | | | 305,502 | 10.9% |
| 19.7% | | | 344,239 | 13.1% | | 0.0% | | | | | 1,174,148 | 44.7% |
| 21.1% | | | 462,753 | 14.7% | 349,989 | 11.1% | | | | | 79,325 | 2.5% |
| 0.0% | | | 301,459 | 11.7% | 508,767 | 19.7% | | | | | 76,187 | 3.0% |
| 18.4% | | | 325,733 | 10.6% | 514,155 | 16.7% | | | | | 90,532 | 2.9% |
| 12.0% | | | 240,359 | 7.4% | 604,505 | 18.6% | | | | | 163,585 | 5.0% |
| 15.0% | | | 218,175 | 8.8% | 348,264 | 14.1% | | | | | 81,854 | 3.3% |
| 0.0% | 718,030 | 28.2% | 256,015 | 10.1% | | 0.0% | 259,327 | 10.2% | | | 472,886 | 18.6% |
| 8.6% | 730,409 | 25.6% | 239,899 | 8.4% | 215,702 | 7.6% | 172,415 | 6.0% | | | 546,634 | 19.2% |
| 10.3% | | | 243,843 | 9.3% | 224,396 | 8.5% | | | | | 496,673 | 18.9% |
| 9.4% | | | 275,396 | 8.7% | 87,705 | 2.8% | | | | | 833,293 | 26.4% |
| 10.1% | | | 228,703 | 8.8% | 221,854 | 8.5% | | | | | 480,697 | 18.5% |
| 8.5% | | | 291,462 | 9.2% | 264,810 | 8.4% | | | | | 579,463 | 18.3% |
| 5.8% | | | 206,711 | 6.2% | 213,154 | 6.4% | | | | | 562,927 | 17.0% |
| 7.0% | | | 182,839 | 7.1% | 282,295 | 11.0% | | | | | 454,769 | 17.7% |
| 0.0% | 730,409 | 29.0% | 250,339 | 9.9% | | 0.0% | 172,415 | 6.8% | | | 418,616 | 16.6% |
| 9.6% | 450,181 | 17.2% | 222,782 | 8.5% | 187,455 | 7.2% | 44,161 | 1.7% | 49,736 | 1.9% | 387,765 | 14.8% |
| 7.7% | | | 354,259 | 12.8% | | 0.0% | | | | | 361,936 | 13.1% |
| 10.0% | | | 198,660 | 9.1% | 269,754 | 12.3% | | | | | 209,752 | 9.6% |
| 10.9% | | | 286,636 | 10.3% | 231,417 | 8.3% | | | | | 423,967 | 15.2% |
| 10.5% | | | 254,409 | 8.6% | 105,062 | 3.6% | | | | | 651,774 | 22.0% |
| 9.5% | | | 113,188 | 5.0% | 143,586 | 6.3% | | | 14,392 | 0.6% | 291,398 | 12.8% |
| 0.0% | 450,181 | 16.4% | 129,541 | 4.7% | | 0.0% | 44,161 | 1.6% | 85,080 | 3.1% | | 0.0% |

統一自治体選挙の特徴と 神奈川の選挙結果

(社) 神奈川県地方自治研究センター
事務局

1. 全国的選挙結果の特徴

第13回自治体統一選挙は、1995年4月9日投票で知事、道府県議、政令市長・同市議の選挙が行われ、4月23日には一般市の市長、市議、町村長、町村議の選挙が行われた。その結果を概観してみたい。

(1) 知事選挙・政令市長選挙

13の都道府県知事の選挙が行われたが、中央官僚出身者が各党の相乗りの形で8都府県で立候補し、他の4道県では副知事が多党の推薦を受けて立候補するという形で選挙が戦われたのが第一の特徴であった。中でも、東京、神奈川、大阪、鳥取、福岡、佐賀、大分などの7都府県では4党以上の党派からの推薦・支持を得ており、安泰の

選挙であるといわれていた。

しかし、結果的には、東京で青島幸男氏が、そして大阪で横山ノック氏が官僚出身の多党からの推薦を受けた候補者を約47万票もの大差で破るという波乱を呼んだ。このことは、マスコミなどから「無党派層の反乱」などといわれ、有権者の意識構造が、明らかに既成政党から離れているという現象を示したものであった。

当選したこの両候補とも、選挙の告示の直前での立候補であったが、タレントとしてテレビなどで活躍し、二院クラブの参議院議員としての経歴も長いという共通した要素はあったことから、官僚に対置される候補として有権者の支持を得たものといわれている。

東京・大阪を除いた残った5県では、多党の推薦を得た候補が当選したが、神奈川などでは対立した共産党、労働党推薦の候

主な知事選・政令市長選の確定得票

| 氏名 | 党派 | 得票 | 推薦 | 氏名 | 党派 | 得票 | 推薦 |
|------------|----|-----------|------------|-------------------|----|-----------|-------------|
| 北海道 | | | | 神奈川 | | | |
| 当 堀 達也① | 無新 | 1,636,360 | 進、社、公 | 当 岡崎 洋① | 無新 | 1,537,857 | 自、進、社、さ、公 |
| 伊東 秀子 | 無新 | 766,657 | 自、さ、自由、護 | 中里 龍夫 | 無新 | 671,776 | 共 |
| 三浦雄一郎 | 無新 | 191,099 | | 山本 正治 | 諸新 | 448,062 | |
| 甲斐 基男 | 無新 | 169,715 | 共 | 三重県 | | | |
| 三沢 道男 | 無新 | 41,647 | | 当 北川 正恭① | 無新 | 456,676 | 進、さ、公 |
| 岩手県 | | | | 尾崎 彪夫 | 無新 | 443,861 | 自、社 |
| 当 増田 寛也① | 無新 | 361,471 | 進、公 | 安井 彦光 | 無新 | 25,931 | 共 |
| 佐々木 浩 | 無新 | 270,810 | 自 | 宮西 俊秀 | 無新 | 17,084 | |
| 小野 信一 | 無新 | 139,313 | 社 | 大阪府 | | | |
| 浅野 悟朗 | 無新 | 29,812 | 共 | 当 横山ノック① | 無新 | 1,625,256 | |
| 秋田県 | | | | 平野 拓也 | 無新 | 1,147,416 | 自、進、社、さ、公 |
| 当 佐々木喜久治⑤ | 無現 | 371,848 | 自、社 | 小林 勤武 | 無新 | 570,869 | 共 |
| 佐藤 敬夫 | 無新 | 320,222 | | 芝谷 英夫 | 無新 | 21,356 | |
| 奥井 淳二 | 共新 | 31,752 | | 橋高 明 | 諸新 | 4,548 | |
| 東京都 | | | | 福岡県 | | | |
| 当 青島 幸男① | 無新 | 1,700,993 | | 当 麻生 渡① | 無新 | 778,297 | 自、進、社、さ、公 |
| 石原 信雄 | 無新 | 1,235,498 | 自、社、さ、自由、公 | 重富吉之助 | 無新 | 526,745 | |
| 岩國 哲人 | 無新 | 824,385 | | 平川 二男 | 無新 | 132,068 | 共 |
| 大前 研一 | 無新 | 422,609 | | 中村 哲郎 | 諸新 | 71,007 | |
| 黒木 三郎 | 無新 | 284,387 | 共 | 徳川 高人 | 無新 | 27,486 | |
| 上田 哲 | 無新 | 162,710 | | 札幌市長選 確定得票 | | | |
| | | | | 当 桂 信雄② | 無現 | 638,905 | 自、進、社、さ、由、公 |
| | | | | 石川 一美 | 無新 | 146,116 | 共 |

補が予想外の大量得票を得るという結果もみられ、他県では投票率の低下がみられた。なお、全体の投票率は、知事選については前回並みの55.12%であった。

政党間の対立が明確だったのは、北海道、岩手、秋田と三重であったが、政党の組み合わせはねじれたものになっていた。

北海道では社会・新進・公明が現職の副知事を推薦し、自民・さきがけなどが社会党の前衆議院議員を擁立するという新人同士の対立構造であったが、社会、新進、公明の推薦候補の圧勝に終わった。

岩手では、新進・公明推薦候補と、自民推薦、社会推薦の三つどもえの戦いであっ

たが、新進・公明の候補が勝利した。逆に秋田では、自民・社会の推薦する現職知事に新進の支持する候補の争いとなったが、現職が5選を果たした。三重でも、自民・社会推薦の候補と、新進・公明・さきがけの推薦候補の新人同士の争いとなったが、ここでは新進派の前衆議院議員の勝利となった。

この選挙の結果、東京、大阪という二大都市圏の知事が無所属の参議院政治家出身となったが、47都道府県でみると26府県で中央官庁出身者で占められ、副知事出身が9道県となり、中央・地方の官僚出身者の知事が35人となったのも特徴といえ

るであろう。

政令指定都市では、札幌の市長選挙だけが行われたが、共産党推薦候補に対して、他の全政党から推薦を受けた現職市長が再選を果たし、無風の印象を強めていた。

(2) 道府県議、政令市議選挙

① 道府県議会議員選

かつて議会の解散があった東京・茨城と復帰後の選挙で時期がずれた沖縄、1月の大震災のため選挙を延期した兵庫を除く43道府県議会の議員選挙が行われた。

選挙結果の各党派別の動向の特徴は、兵庫県を除いた43道府県で、自民党が前回当選者を227ほど下回り、22道府県で改選前の議席を194議席減らし1,275議席（構成比48.9%）となっている。もっとも、無所属の自民党系議員の当選者が約200名おり、辛うじて改選議席を維持したにとどまった。

社会党は、前回当選者を56名下回り、改選前の議席を19道県で17議席減らし、277名（構成比10.6

%）となっている。自社両党の政党隠しで無所属での立候補もなく議席の減少が目についた。

これに対して、新進党は旧民主党の議席より58

議席増加し、改選前議席を36議席の増加の140議席（構成比5.4%）となっている。また、地方議員だけの地方政党となった公明は、前回当選者より1議席減らしたものの、改選前議席を8議席増やし148議席（構成比5.7%）となっている。

共産党は、前回議席より1名、改選議席を2名減少の91議席で、諸派は、前回は31名、改選前議席を1名増の80議席であった。

無所属は、前回当選者を178増と大幅に上回り587議席（構成比22.5%）となった。しかし、自民、新進、社会系などが約400名いるといわれることから、実際の無所属議員は190名程度になるものと思われる。

今回の選挙は、投票率が前回は5ポイントも下回る56.23%（前回61.05%）という統一自治体選挙では最低の投票率であった。また、無投票当選者は550名であり、91年の時とほぼ同率（21.1%）の無投票当選者を出している。特に、郡部など1名の選挙区での無投票が相変わらず多くみられ、地方政治の活性化には遠い状況であった。

このなかにあって、わずか9名ではあるが女性県議の増加がみられ、73名（構成比では2.8%）となったのが救いであった。

| | (定数2,607) 計 | 無投票 当選 | 現 元 新 | | | 前 回 | 改選前 |
|-------|-------------|-----------|--------|-----|------|--------|-------|
| | | | 当選者 | 当選者 | 当選者 | 当選者 | 勢力 |
| 自 民 | 1,275⑤ | 368 | 1,153② | 8 | 114③ | 1,502③ | 1,469 |
| 新 進 | 140① | 24 | 83 | 3 | 54④ | - | 104 |
| 社 会 | 277⑦ | 35 | 205⑧ | 21① | 51③ | 333③ | 320 |
| さきがけ | 9 | 2 | 7 | 0 | 2 | - | 12 |
| 共 産 | 91② | 6 | 64⑥ | 6② | 21④ | 92③ | 93 |
| 公 明 | 148③ | 6 | 97② | 1 | 50① | 149③ | 140 |
| 諸 派 | 80⑦ | 13 | 64② | 0 | 16⑤ | 33① | 79 |
| 無所属 | 587⑩ | 96 | 238⑥ | 28① | 321⑥ | 409④ | 260 |
| 自民系 | 199① | 34 | 63① | 10 | 126 | - | 42 |
| 新進系 | 122② | 20 | 62① | 3 | 57① | - | 66 |
| 社会系 | 65④ | 16 | 34② | 5① | 26① | - | 39 |
| さきがけ系 | 9 | 3 | 2 | 1 | 6 | - | 2 |
| 共産系 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | - | 0 |
| 公明系 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | - | 1 |
| その他 | 191⑥ | 23 | 76② | 9 | 106④ | - | 110 |
| 合 計 | 2,607⑩ | 550 | 1,911④ | 67④ | 629② | 2,599③ | 2,477 |

道府県議党派別当選者数

前回は旧民主党、旧社民連を含む。改選前は計は旧民社、旧社民連を含む。改選前は勢力は告示日前日現在。○数字は女性。

政令市議選当選者数

| 定数 | 計 | 自民 | 新進 | 社会 | さきがけ | 共産 | 公明 | 諸派 | 無所属 |
|---------|------|------|-----|-----|------|-----|------|-----|------|
| 札幌(69) | 69⑧ | 24 | 1 | 13 | - | 7③ | 11 | 3③ | 10② |
| 仙台(64) | 64⑥ | 12 | 2 | 8 | - | 5④ | 7 | 0 | 30② |
| 千葉(56) | 56⑦ | 8 | 2 | 2 | - | 7② | 7 | 4④ | 26① |
| 横浜(94) | 94⑬ | 30 | 17① | 13① | 2 | 6③ | 15 | 10⑧ | 1 |
| 川崎(64) | 64⑨ | 18 | 5 | 10② | 0 | 9② | 11① | 4④ | 7 |
| 名古屋(78) | 78⑩ | 22 | 10④ | 15 | 1 | 7④ | 12① | 9① | 2 |
| 京都(72) | 72⑩ | 24② | 5 | 7 | - | 20⑦ | 13① | - | 3 |
| 大阪(90) | 90⑨ | 33③ | 10② | 11① | - | 12① | 20② | - | 4 |
| 広島(61) | 61③ | 31 | - | 7① | - | 4① | 8① | - | 11 |
| 福岡(65) | 65④ | 17 | - | 7 | - | 5② | 11 | 18② | 7 |
| 合計(713) | 713⑯ | 219⑤ | 52⑦ | 93⑤ | 3 | 82② | 115⑥ | 48② | 101⑤ |
| 改選前勢力 | 702 | 238 | 45 | 114 | 2 | 84 | 115 | 43 | 61 |

○数字は女性。一は立候補なし。

② 政令指定都市市議選

合併による時期の違う北九州と、神戸市が1月の大震災のため選挙が延期となったため、10都市で議員選挙が行われた。

党派別の伸長状況を改選前議席との比較で見ると、自民党が19議席減の219議席(構成比30.7%)であり、公明は同数の115議席(同16.1%)、社会党は21議席減の93議席(構成比13.0%)で第2党から3党に落ち込んだ。共産党は2議席減の82議席(同11.5%)、新進党は旧民社より7議席増の52議席(同7.3%)、諸派が6議席増の51議席(同7.2%)であった。また、無所属は、40議席増加して101議席となっているが、それぞれの党派の系列に含まれるものが圧倒的に多くなっており、政令指定都市の多党化と、各党の拮抗状況が進んでいることを表している。

ここでも投票率は、前回は3ポイント下回る48.44%(前回51.95%)となっていた。女性の議会進出は政令市でもすすみ、18名増加して79名(構成比11.1%)と1割を越えることになった。

(3) 市・区長選、市・区議選、町村長・町村議選

第2ラウンドの統一自治体選挙では、全国117市の市長選挙(うち無投票が31市)、15の東京特別区長選挙、613の町村長選挙(うち無投票が294町村)、そして383の市会議員選挙、22の東京特別区会議員選挙、1,265の市町村議会議員選挙が行われた。

① 市長・区長選

この全般的特徴は、当日の天候が強風ということもあってか、史上最低の投票率となり、有権者の関心の低さが目立った。市長選では前回は6ポイント以上も下回る60.03%(前回66.58%)であり、50市で史上最低を記録した。区長選では5ポイント低い44.28%(前回44.28%)となった。

その理由としては、各政党の相乗り構造が定着したことが指摘されているが、事実、現在の自・社政権の与野党が相乗りした市

市区長選 当選者数

| 一般市長 | | | | 東京区長 | | | |
|---------|----|---|----|------|----|---|---|
| 計 | 現 | 元 | 新 | 計 | 現 | 元 | 新 |
| 26(4) | 17 | 0 | 9 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 2(1) | 2 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 |
| 0(0) | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 50(18) | 40 | 0 | 10 | 14 | 12 | 0 | 2 |
| 39(8) | 14 | 0 | 25 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 117(31) | 73 | 0 | 44 | 15 | 13 | 0 | 2 |

政党の公認、推薦・支持関係を中心に分類。「相乗り」は自・社・さ系、新進・公明系、共産系のうち2つ以上が推薦、支持している候補。カッコ内は無投票当選数

町村長選当選者数

| | | 計 | | 無投票者 | | 現 | | 元 | | 新 | |
|----------|-----|-------|-----|------|-----|---|---|---|---|---|---|
| (改選数612) | 計 | | | | | | | | | | |
| 自民 | 3 | (3) | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 共産 | 0 | (0) | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 諸派 | 0 | (0) | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 無所属 | 609 | (291) | 420 | 5 | 184 | | | | | | |
| 相乗り | 28 | (18) | 25 | 0 | 3 | | | | | | |
| 与党系 | 189 | (78) | 132 | 1 | 56 | | | | | | |
| 新進系 | 12 | (5) | 8 | 0 | 4 | | | | | | |
| 共産系 | 0 | (0) | 0 | 0 | 0 | | | | | | |
| その他 | 380 | (190) | 255 | 4 | 121 | | | | | | |
| 計 | 612 | (294) | 423 | 5 | 184 | | | | | | |

市区議選の当選者数

| 市議 | | | | | | 東京区議 | | | | | | |
|--------------|------------|------|-----|------|-----|-----------|-----|-----|----|-----|-----|------|
| 383市・定数11052 | | | | | | 22区・定数966 | | | | | | |
| 計 | 現 | 元 | 新 | 女性 | 前回 | 計 | 現 | 元 | 新 | 女性 | 前回 | |
| 自新 | 968(14) | 911 | 13 | 44 | 16 | 1270 | 354 | 306 | 4 | 44 | 15 | 461 |
| 民進 | 118(-) | 92 | 1 | 25 | 3 | - | 53 | 29 | 2 | 22 | 5 | - |
| 新社 | 833(10) | 726 | 13 | 94 | 90 | 1107 | 62 | 51 | 6 | 5 | 14 | 98 |
| さがけ | 23(-) | 4 | 2 | 17 | 0 | - | 11 | 2 | 1 | 8 | 1 | - |
| 産明 | 940(17) | 725 | 31 | 184 | 263 | 958 | 156 | 126 | 8 | 22 | 44 | 157 |
| 公護 | 1058(13) | 837 | 1 | 220 | 125 | 1124 | 179 | 165 | 1 | 13 | 16 | 202 |
| 憲派 | 5(-) | 2 | 1 | 2 | 2 | - | 1 | 1 | - | 0 | - | - |
| 諸無 | 78(-) | 39 | 1 | 38 | 40 | 16 | 24 | 11 | - | 13 | 18 | 2 |
| 無所属 | 7028(142) | 4945 | 201 | 1882 | 286 | 6484 | 126 | 89 | 8 | 29 | 26 | 68 |
| 合計 | 11051(196) | 8281 | 264 | 2506 | 825 | 11321 | 966 | 780 | 30 | 156 | 139 | 1031 |

カッコ内は無投票当選者。市議前回議席は今回延期の兵庫県西宮市、芦屋市を除く。市議前回諸派には進歩2人を含む。

長選では当選者は32名となり、与党系の相乗りでは26名となり、当選した市長の半数に達している。純粹に、政党の推薦・支持を得ないで当選したのは31名であった。

その他の相乗りの構造は、かなりのねじれ現象を起こしており、政府の与野党対立型は5市にとどまり、与野党入り乱れての政党の組み合わせが行われたものといえる。区長選挙も、同様な傾向であった。

② 市議・区議・町村議選

市議選挙・区議選挙では、政党隠し、無所属の増加が特に目を引いた。市議選は、

前回の改選自治体数より3自治体が減り、定員削減などで定数が270削減されての選挙であった(無投票当選者は196名)。選挙結果は、公明が66名減ではあるが1,058名で第一党となり、自民党が302名減の968名、共産党18名減の940名、社会党は274名減の833名で第二党から4党になり、新進党は118名であった。各既成政党が減少した中で、無所属だけが544名増加して7,028名となり、構成比では63.6%と圧倒的多数となった。

区議選も同様で、自民党107名減の354名、公明23名減の179名、共産党1名減の156名、社会党36名減の62名である。各党が議席を

減らしたなかで、無所属だけは58名の増加という結果であった。

市議でも、区議でも女性の進出がみられ、市議は168名増えて825名に（構成比7.5%）、区議では18名増えて139名となり構成比では14.4%と自治体議員の中でトップを占めることになった。

町村議員選挙は、7自治体が対象からはずれ、定数減もあり、総数で20,149名の選挙であり、2,943名が無投票当選した。ここでも共産党を除く既成政党が軒並み減少し、無所属議員も減少し全体の92%を占めることになった。その割合は増加している。女性の進出も、市・区と同様に増加し161名増の592名となった。

全国の選挙結果のまとめ

以上の自治体選挙の結果、今回改選のあった自治体の選挙結果を見ると、特徴的には次のようなことを見ることができる。

まず第一に、投票率が軒並み低下したことである。首長選挙を含めて、史上最低を記録した自治体が相次いでいる。政治への不振や、地方政治の衰弱といわれる現象が現れたものといえる。

第二には、首長選挙について多数の政党の相乗りが定着したことである。政党の組

み合わせは実に多様なものとなっているが、こうした政党主導の相乗りに対してはじめて厳しい批判を示したのが東京・大阪の「無党派層の反乱」であった。

第三は、特に市会を中心に議員の定数の削減が進んだにもかかわらず、立候補者が少なく、あまり激しい選挙とならなかったことである。そのことは、無投票当選者が県会で21%、町村議会で15%などと依然として多いこととあいまって、選挙への関心と呼ばない原因となったことである。

第四は、議員選挙で既成政党が軒並み議席を減らしていることである。地域政治の行政化が進み、地方政治にはイデオロギーは不要と言われて久しいが、今回の選挙では、特に市会選挙での「政党隠し」が多くみられたことである。自民党と社会党が議席確保のために特に新人が無所属で立候補するケースが増えた。そのことにも影響され、公認候補の議席が減少しており、全体で前回当選者より自民党が約700人、社会党が約500人減らしたのが目についている。

第五に、全体ではまだわずかな割合だが、女性議員の進出があったことである。政令指定都市と特別区などの都市部における議会を中心に増加し、県会から町村会まで通じて全体で1700人となった。とはいえ、全体の定数に対して5%弱（4.8%）にとどまっている。せめて全体が政令市並の1割を早く越えたいものである。

[全国統一自治体選挙の結果]

道府県議・政令市議・市議・特別区議・町村議員 政党別当選者数

| | 選挙年月 | 対象 | | 自民党 | | 社会党 | | 公明党 | | 民社・新進党 | |
|----------------------------|---------|-------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|
| | | 自治体数 | 総定数 | 議席数 | 構成比 | 議席数 | 構成比 | 議席数 | 構成比 | 議席数 | 構成比 |
| 道府 県 会 議 員 | 1975年4月 | 44 | 2,609 | 1,391 | 53.3% | 422 | 16.2% | 167 | 6.4% | 103 | 3.9% |
| | 1979年4月 | 44 | 2,645 | 1,406 | 53.2% | 379 | 14.3% | 166 | 6.3% | 106 | 4.0% |
| | 1983年4月 | 44 | 2,660 | 1,486 | 55.9% | 372 | 14.0% | 182 | 6.8% | 100 | 3.8% |
| | 1987年4月 | 44 | 2,670 | 1,382 | 51.8% | 443 | 16.6% | 186 | 7.0% | 104 | 3.9% |
| | 1991年4月 | 44 | 2,693 | 1,543 | 57.3% | 345 | 12.8% | 159 | 5.9% | 82 | 3.0% |
| | 1995年4月 | 43 | 2,607 | 1,275 | 48.9% | 277 | 10.6% | 148 | 5.7% | 140 | 5.4% |
| | 95-91増減 | -1 | -86 | -268 | -8.4% | -68 | -2.2% | -11 | -0.2% | 58 | 2.3% |
| 政令 市 会 議 員 | 1975年4月 | 8 | 586 | 196 | 33.4% | 98 | 16.7% | 111 | 18.9% | 55 | 9.4% |
| | 1979年4月 | 8 | 607 | 193 | 31.8% | 101 | 16.6% | 108 | 17.8% | 61 | 10.0% |
| | 1983年4月 | 10 | 665 | 232 | 34.9% | 112 | 16.8% | 122 | 18.3% | 69 | 10.4% |
| | 1987年4月 | 10 | 665 | 204 | 30.7% | 126 | 18.9% | 128 | 19.2% | 71 | 10.7% |
| | 1991年4月 | 11 | 733 | 244 | 33.3% | 128 | 17.5% | 124 | 16.9% | 62 | 8.5% |
| | 1995年4月 | 10 | 713 | 219 | 30.7% | 93 | 13.0% | 115 | 16.1% | 52 | 7.3% |
| | 95-91増減 | -1 | -20 | -25 | -2.6% | -35 | -4.4% | -9 | -0.8% | -10 | -1.2% |
| 市 会 議 員 | 1975年4月 | 381 | 12,280 | 1,160 | 9.4% | 1,356 | 11.0% | 1122 | 9.1% | 354 | 2.9% |
| | 1979年4月 | 396 | 12,344 | 1,229 | 10.0% | 1,302 | 10.5% | 1119 | 9.1% | 411 | 3.3% |
| | 1983年4月 | 386 | 12,075 | 1,439 | 11.9% | 1,219 | 10.1% | 1149 | 9.5% | 429 | 3.6% |
| | 1987年4月 | 387 | 11,613 | 1,380 | 11.9% | 1,163 | 10.0% | 1200 | 10.3% | 404 | 3.5% |
| | 1991年4月 | 385 | 11,396 | 1,281 | 11.2% | 1,116 | 9.8% | 1135 | 10.0% | 351 | 3.1% |
| | 1995年4月 | 383 | 11,051 | 968 | 8.8% | 833 | 7.5% | 1058 | 9.6% | 118 | 1.1% |
| | 95-91増減 | -2 | -345 | -313 | -2.5% | -283 | -2.3% | -77 | -0.4% | -233 | -2.0% |
| 特 別 区 会 議 員 | 1975年4月 | 23 | 1,091 | 525 | 48.1% | 122 | 11.2% | 176 | 16.1% | 40 | 3.7% |
| | 1979年4月 | 23 | 1,087 | 498 | 45.8% | 107 | 9.8% | 179 | 16.5% | 51 | 4.7% |
| | 1983年4月 | 23 | 1,073 | 477 | 44.5% | 106 | 9.9% | 186 | 17.3% | 54 | 5.0% |
| | 1987年4月 | 23 | 1,051 | 440 | 41.9% | 115 | 10.9% | 207 | 19.7% | 49 | 4.7% |
| | 1991年4月 | 23 | 1,031 | 461 | 44.7% | 98 | 9.5% | 202 | 19.6% | 38 | 3.7% |
| | 1995年4月 | 22 | 966 | 354 | 36.6% | 62 | 6.4% | 179 | 18.5% | 53 | 5.5% |
| | 95-91増減 | -1 | -65 | -107 | -8.1% | -36 | -3.1% | -23 | -1.1% | 15 | 1.8% |
| 町 村 会 議 員 | 1975年4月 | 1,311 | 23,810 | 156 | 0.7% | 593 | 2.5% | 682 | 2.9% | 53 | 0.2% |
| | 1979年4月 | 1,363 | 23,267 | 209 | 0.9% | 548 | 2.4% | 635 | 2.7% | 47 | 0.2% |
| | 1983年4月 | 1,290 | 22,304 | 263 | 1.2% | 504 | 2.3% | 609 | 2.7% | 48 | 0.2% |
| | 1987年4月 | 1,280 | 21,096 | 198 | 0.9% | 454 | 2.2% | 580 | 2.7% | 45 | 0.2% |
| | 1991年4月 | 1,272 | 20,579 | 165 | 0.8% | 411 | 2.0% | 492 | 2.4% | 48 | 0.2% |
| | 1995年4月 | 1,265 | 20,149 | 99 | 0.5% | 258 | 1.3% | 420 | 2.1% | 6 | 0.0% |
| | 95-91増減 | -7 | -430 | -66 | 0 | -153 | -0.7% | -72 | -0.3% | -42 | -0.2% |
| 総 議 員 数 | 1975年4月 | 1,767 | 40,376 | 3,428 | 8.5% | 2,591 | 6.4% | 2,258 | 5.6% | 605 | 1.5% |
| | 1979年4月 | 1,834 | 39,950 | 3,535 | 8.8% | 2,437 | 6.1% | 2,207 | 5.5% | 676 | 1.7% |
| | 1983年4月 | 1,753 | 38,777 | 3,897 | 10.0% | 2,313 | 6.0% | 2,248 | 5.8% | 700 | 1.8% |
| | 1987年4月 | 1,744 | 37,095 | 3,604 | 9.7% | 2,301 | 6.2% | 2,301 | 6.2% | 673 | 1.8% |
| | 1991年4月 | 1,735 | 36,432 | 3,694 | 10.1% | 2,098 | 5.8% | 2,112 | 5.8% | 581 | 1.6% |
| | 1995年4月 | 1,723 | 35,486 | 2,915 | 8.2% | 1,523 | 4.3% | 1,920 | 5.4% | 369 | 1.0% |
| | 95-91増減 | -12 | -946 | -779 | -1.9% | -575 | -1.5% | -192 | -0.4% | -212 | -0.6% |

95年の「民社・新進党」欄は「新進党」の数値である

各年とも統一自治体選挙終了時現在の党派による

| 共産党 | | 諸派(含む新自) | | 無所属 | | うち女性 | | うち無投票当選 | | 選挙年月 | |
|-------|-------|----------|------|--------|-------|-------|-------|---------|-------|---------|--------|
| 議席数 | 構成比 | 議席数 | 構成比 | 議席数 | 構成比 | 議席数 | 構成比 | 議席数 | 構成比 | | |
| 95 | 3.6% | 40 | 1.5% | 391 | 15.0% | 29 | 1.1% | 103 | 3.9% | 1975年4月 | 道府県会議員 |
| 122 | 4.6% | 76 | 2.9% | 390 | 14.7% | 28 | 1.1% | 485 | 18.3% | 1979年4月 | |
| 85 | 3.2% | 64 | 2.4% | 371 | 13.9% | 30 | 1.1% | 80 | 3.0% | 1983年4月 | |
| 118 | 4.4% | 40 | 1.5% | 397 | 14.9% | 52 | 1.9% | 183 | 6.9% | 1987年4月 | |
| 98 | 3.6% | 37 | 1.4% | 429 | 15.9% | 64 | 2.4% | 583 | 21.6% | 1991年4月 | |
| 91 | 3.5% | 89 | 3.4% | 587 | 22.5% | 73 | 2.8% | 550 | 21.1% | 1995年4月 | |
| -7 | -0.1% | 52 | 2.0% | 158 | 6.6% | 9 | 0.4% | -33 | -0.6% | 95-91増減 | |
| 81 | 13.8% | 0 | 0.0% | 45 | 7.7% | 27 | 4.6% | 0 | 0.0% | 1975年4月 | 政令市会議員 |
| 87 | 14.3% | 17 | 2.8% | 40 | 6.6% | 27 | 4.4% | 5 | 0.8% | 1979年4月 | |
| 74 | 11.1% | 20 | 3.0% | 36 | 5.4% | 35 | 5.3% | 0 | 0.0% | 1983年4月 | |
| 80 | 12.0% | 19 | 2.9% | 37 | 5.6% | 39 | 5.9% | 33 | 5.0% | 1987年4月 | |
| 86 | 11.7% | 33 | 4.5% | 56 | 7.6% | 61 | 8.3% | 11 | 1.5% | 1991年4月 | |
| 82 | 11.5% | 51 | 7.2% | 101 | 14.2% | 79 | 11.1% | 22 | 3.1% | 1995年4月 | |
| -4 | -0.2% | 18 | 2.7% | 45 | 6.5% | 18 | 2.8% | 11 | 1.6% | 95-91増減 | |
| 797 | 6.5% | 8 | 0.1% | 7,483 | 60.9% | 279 | 2.3% | 37 | 0.3% | 1975年4月 | 市会議員 |
| 931 | 7.5% | 70 | 0.6% | 7,282 | 59.0% | 285 | 2.3% | 178 | 1.4% | 1979年4月 | |
| 926 | 7.7% | 41 | 0.3% | 6,872 | 56.9% | 370 | 3.1% | 86 | 0.7% | 1983年4月 | |
| 972 | 8.4% | 17 | 0.1% | 6,477 | 55.8% | 504 | 4.3% | 159 | 1.4% | 1987年4月 | |
| 970 | 8.5% | 30 | 0.3% | 6,513 | 57.2% | 657 | 5.8% | 239 | 2.1% | 1991年4月 | |
| 940 | 8.5% | 106 | 1.0% | 7,028 | 63.6% | 825 | 7.5% | 196 | 1.8% | 1995年4月 | |
| -30 | 0.0% | 76 | 0.7% | 515 | 6.4% | 168 | 1.7% | -43 | -0.3% | 95-91増減 | |
| 159 | 14.6% | 0 | 0.0% | 66 | 6.0% | 72 | 6.6% | 0 | 0.0% | 1975年4月 | 特別区会議員 |
| 156 | 14.4% | 46 | 4.2% | 50 | 4.6% | 73 | 6.7% | 0 | 0.0% | 1979年4月 | |
| 159 | 14.8% | 41 | 3.8% | 50 | 4.7% | 80 | 7.5% | 0 | 0.0% | 1983年4月 | |
| 167 | 15.9% | 9 | 0.9% | 64 | 6.1% | 94 | 8.9% | 0 | 0.0% | 1987年4月 | |
| 157 | 15.2% | 7 | 0.7% | 68 | 6.6% | 121 | 11.7% | 0 | 0.0% | 1991年4月 | |
| 156 | 16.1% | 36 | 3.7% | 126 | 13.0% | 139 | 14.4% | 0 | 0.0% | 1995年4月 | |
| -1 | 0.9% | 29 | 3.0% | 58 | 6.4% | 18 | 2.7% | 0 | 0.0% | 95-91増減 | |
| 689 | 2.9% | 3 | 0.0% | 21,634 | 90.9% | 110 | 0.5% | 805 | 3.4% | 1975年4月 | 町村会議員 |
| 749 | 3.2% | 8 | 0.0% | 21,071 | 90.6% | 120 | 0.5% | 2,040 | 8.8% | 1979年4月 | |
| 772 | 3.5% | 5 | 0.0% | 20,102 | 90.1% | 161 | 0.7% | 2,192 | 9.8% | 1983年4月 | |
| 828 | 3.9% | 0 | 0.0% | 18,990 | 90.0% | 267 | 1.3% | 2,649 | 12.6% | 1987年4月 | |
| 848 | 4.1% | 3 | 0.0% | 18,606 | 90.4% | 431 | 2.1% | 3,785 | 18.4% | 1991年4月 | |
| 864 | 4.3% | 18 | 0.1% | 18,481 | 91.7% | 592 | 2.9% | 2,943 | 14.6% | 1995年4月 | |
| 16 | 0.2% | 15 | 0.1% | -125 | 1.3% | 161 | 0.8% | -842 | -3.8% | 95-91増減 | |
| 1,821 | 4.5% | 51 | 0.1% | 29,619 | 73.4% | 517 | 1.3% | 945 | 2.3% | 1975年4月 | 総議員数 |
| 2,045 | 5.1% | 217 | 0.5% | 28,833 | 72.2% | 533 | 1.3% | 2,708 | 6.8% | 1979年4月 | |
| 2,016 | 5.2% | 171 | 0.4% | 27,431 | 70.7% | 676 | 1.7% | 2,358 | 6.1% | 1983年4月 | |
| 2,165 | 5.8% | 85 | 0.2% | 25,965 | 70.0% | 956 | 2.6% | 3,024 | 8.2% | 1987年4月 | |
| 2,159 | 5.9% | 110 | 0.3% | 25,672 | 70.5% | 1,334 | 3.7% | 4,618 | 12.7% | 1991年4月 | |
| 2,133 | 6.0% | 300 | 0.8% | 26,323 | 74.2% | 1,708 | 4.8% | 3,711 | 10.5% | 1995年4月 | |
| -26 | 0.1% | 190 | 0.5% | 651 | 3.7% | 374 | 1.2% | -907 | -2.2% | 95-91増減 | |

町村議員で欠員を生じたため合計と総定数が一致しない年がある

全国の市長選、区長選開票状況

(神奈川を除く)

市長選

| | | | |
|-------|--|----------------------------|--|
| 【北海道】 | | | |
| ▽小樽市 | 当 61,745 新谷 昌明 20,260 相場 実 | 最終 無現 無新 | |
| ▽室蘭市 | 当 46,969 新宮 正志 12,118 星山 栄 | 最終 無新 共新 | |
| ▽北見市 | 当 34,843 小山 健一 23,755 久島 正 | 最終 無新 無現 | |
| ▽夕張市 | 当 7,782 中田 鉄治 5,076 樋浦 善弘 | 最終 無現 無新 | |
| ▽稚内市 | 当 17,587 敦賀 一夫 6,318 佐藤 克 3,434 渡辺 郁夫 | 最終 無現 無新 | |
| ▽芦別市 | 当 7,906 林 政志 7,275 古川 勉 | 最終 無新 無新 | |
| ▽江別市 | 当 26,548 小川 公人 25,226 岡 英雄 | 最終 無新 無現 | |
| ▽三笠市 | 当 6,159 青木 銀一 5,172 谷津 邦夫 | 最終 無現 無新 | |
| ▽千歳市 | 当 18,567 東川 孝 9,859 米田 忠彦 8,719 梅沢 健三 1,752 菅原 文弥 956 小林 馨 | 最終 無現 無新 無元 無新 | |
| ▽伊達市 | 当 10,264 阿部 政康 10,082 菊谷 秀吉 1,520 内藤 啓吾 | 最終 無現 無新 | |
| 【岩手県】 | | | |
| ▽久慈市 | 当 12,743 久慈 義昭 10,951 石川 正英 539 宮古 邦彦 | 最終 無現 無新 | |
| 【宮城県】 | | | |
| ▽塩釜市 | 当 18,515 三升 正直 14,327 佐藤 光輔 | 最終 無現 無新 | |
| 【秋田県】 | | | |
| ▽能代市 | 当 24,136 宮腰 洋逸 11,594 豊沢 有兄 | 最終 無現 無新 | |
| 【山形県】 | | | |
| ▽酒田市 | 当 38,342 大沼 昭 16,621 赤谷 孝士 | 最終 無現 無新 | |
| 【茨城県】 | | | |
| ▽日立市 | 当 81,644 飯山 利雄 17,562 高木 豊 | 最終 無現 無新 | |
| ▽水海道市 | 当 13,935 遠藤 利 12,763 神林 弘 | 最終 無現 無現 | |

| | | |
|-------|--|----------------------------|
| ▽取手市 | 当 14,278 大橋 幸雄 8,480 海老原一雄 7,093 岡田 重信 | 最終 無新 無元 無新 |
| 【栃木県】 | | |
| ▽宇都宮市 | 当 141,502 増山 道保 29,025 山崎 寿彦 | 最終 無現 共新 |
| ▽栃木市 | 当 34,707 鈴木乙一郎 11,034 井上 和子 | 最終 無現 無新 |
| ▽今市市 | 当 21,395 福田 昭夫 13,319 吉原 徳 | 最終 無現 無新 |
| 【群馬県】 | | |
| ▽安中市 | 当 12,707 小川 勝寿 12,091 吉田 洋 | 最終 無現 無新 |
| 【埼玉県】 | | |
| ▽浦和市 | 当 114,045 相川 宗一 26,237 葛塚 練三 2,826 沢尾 正一 | 最終 共新 共新 共新 |
| ▽与野市 | 当 19,451 井原 勇 9,930 高石 達雄 | 最終 無現 無新 |
| ▽蕨市 | 当 15,946 田中 啓一 11,887 小林 一義 | 最終 無現 無新 |
| ▽日高市 | 当 14,253 駒野 昇 13,360 関 真 | 最終 無現 無新 |
| 【千葉県】 | | |
| ▽木更津市 | 当 34,834 須田 勝勇 25,382 河辺伊知郎 | 最終 無新 無新 |
| ▽佐原市 | 当 18,339 鈴木 全一 12,249 宇井 菱平 | 最終 無現 無元 無新 |
| ▽成田市 | 当 15,601 小川 国彦 15,132 小林 攻 12,512 吉田 茂 | 最終 無新 無新 無新 |
| ▽佐倉市 | 当 23,717 渡眞 博孝 21,958 塚 和雄 18,709 清宮 誠 | 最終 無新 無新 無新 |
| ▽流山市 | 当 42,583 眉山 俊光 10,639 草地 茂治 | 最終 無現 無新 |
| ▽八千代市 | 当 27,263 大沢 一治 23,714 仲村 和平 2,279 尾崎 直司 | 最終 無新 無現 無新 |
| ▽鎌ヶ谷市 | 当 22,076 皆川圭一郎 8,145 渋谷 晋市 6,521 松本 進 2,623 野山 慶蔵 | 最終 無現 無新 無新 無新 |
| 【東京都】 | | |
| ▽武蔵野市 | 当 24,887 土屋 正忠 13,350 深沢 達也 | 最終 無現 無新 |

| | | |
|-----------------------------|---|----------------------------|
| 10,900 桜井 国俊 2,545 佐久間正勝 | 無新 共新 | |
| ▽三鷹市 | 当 39,923 安田養次郎 12,391 阿角 宗武 | 最終 無現 無新 |
| ▽小金井市 | 当 16,100 大久保慎七 7,397 若木 稜江 7,282 青木ひかる | 最終 無現 無新 無新 |
| ▽東村山市 | 当 18,463 細瀧 一男 17,270 上 幸雄 16,359 野沢 秀夫 | 最終 無新 無新 無新 |
| ▽国立市 | 当 15,648 佐伯 有行 9,807 菅本 晋 | 最終 無現 無新 |
| ▽東大和市 | 当 14,166 尾又 正則 11,643 武石 岩男 5,881 森田 実 | 最終 無新 無新 無新 |
| ▽清瀬市 | 当 12,331 星野 繁幹 7,371 川村 重雄 4,796 松村 延浩 3,812 前沢 孝 2,388 林 | 最終 無新 無新 共新 無新 |
| ▽多摩市 | 当 24,055 白井 千秋 19,472 鈴木 邦彦 8,830 長沢 淑郎 | 最終 無現 無新 無新 |
| ▽稲城市 | 当 20,777 石川 良一 3,076 新岡 豊子 1,261 酒井 松美 | 最終 無現 無新 無新 |
| 【新潟県】 | | |
| ▽三条市 | 当 20,037 長谷川長二郎 12,224 滝口 恵介 10,115 久住 久俊 9,181 馬場 信彦 | 最終 無新 無新 無新 無新 |
| ▽加茂市 | 当 12,189 小池 清彦 9,102 川崎 一雅 454 市川 年栄 | 最終 無現 無新 無新 |
| 【福井県】 | | |
| ▽敦賀市 | 当 20,793 河瀬 一治 14,791 高木 孝一 2,976 沢崎 買 2,952 坪田嘉奈弥 | 最終 無現 無新 無新 無新 |
| 【山梨県】 | | |
| ▽甲府市 | 当 66,579 山本 栄彦 13,227 小越 進 | 最終 無現 共新 |

| | | | | | | | |
|---|----------------------|--|----------------------|--|----------------------------------|---|----------------------------|
| ▽富士吉田市 当 18,487 栗原 雅智 17,638 渡辺 皓彦 | 最終 無新 無新 | 当 62,542 中司 宏 60,968 山口平八郎 16,178 吉瀬 孝子 | 無新 無新 共新 | 16,788 矢野 茂文 | 無現 | 5,536 井手口史朗 | 無新 |
| 【長野県】 ▽諏訪市 当 28,365 笠原 俊一 12,629 伊藤 幸平 | 最終 無現 無新 | ▽八尾市 当 65,064 西辻 豊 35,268 田中 誠太 | 最終 無新 無新 | 【香川県】 ▽高松市 当 76,505 増田 昌三 54,429 藤本 哲夫 13,290 太田 英章 1,610 鹿島日出喜 | 最終 無新 無新 無新 | ▽新宿区 当 65,529 小野田 隆 20,689 瀬野 俊之 | 最終 無現 無新 |
| ▽茅野市 当 26,378 矢崎 和広 4,921 池上 三男 | 最終 無新 無新 | ▽寝屋川市 当 45,536 高橋 茂 30,871 馬場 好弘 17,131 馬場桂一郎 | 最終 無新 無新 | 【愛媛県】 ▽松山市 当 86,549 田中 誠一 18,149 小路 貴之 | 最終 無現 共新 | ▽文京区 当 20,281 遠藤 正則 16,746 赤沢 潔 16,448 加藤 隆一 13,039 高松 秀幸 | 最終 無現 無新 無新 |
| 【岐阜県】 ▽多治見市 当 28,385 西寺 雅也 26,920 加藤 直樹 | 最終 無新 無新 | ▽藤井寺市 当 15,307 堀端 宏 14,096 大西 茂男 | 最終 無現 無新 | 【福岡県】 ▽田川市 当 23,766 滝井 義高 11,432 二場 武 | 最終 無現 無新 | ▽台東区 当 57,281 飯村 恵一 11,620 秋葉 千秋 | 最終 無現 共新 |
| 【静岡県】 ▽浜松市 当 195,063 栗原 勝 49,785 大石 悦子 | 最終 無現 共新 | 【兵庫県】 ▽姫路市 当 118,843 堀川 和洋 89,548 五島 壮 11,160 南光 勝美 2,729 安原 宏和 | 最終 無新 共新 諸新 | 【佐賀県】 ▽唐津市 当 23,600 福島善三郎 20,038 渡辺 修 4,007 中村 都茂 1,272 田中 路子 | 最終 無新 無新 無新 | ▽墨田区 当 48,858 奥山 澄雄 33,132 伊藤 昌弘 11,795 南 よね | 最終 無現 無新 無新 |
| ▽富士宮市 当 43,098 渡辺 紀 20,357 吉田 廉 | 最終 無現 無元 | 【鳥根県】 ▽出雲市 当 29,425 西尾 理弘 18,476 珍部 全吾 2,736 佐々木洋子 | 最終 無新 共新 | 【長崎県】 ▽長崎市 当 105,670 伊藤 一長 60,897 本島 等 33,867 浅田 五郎 19,541 茅野 丈二 325 若島征四郎 | 最終 無新 無現 無新 無新 諸新 | ▽江東区 当 103,386 室橋 昭 27,673 木村 清子 | 最終 無現 共新 |
| 【愛知県】 ▽瀬戸市 当 34,410 井上 博通 16,758 鷓飼 諦 7,029 丸山 悦子 | 最終 無現 無新 無新 | 【岡山県】 ▽津山市 当 20,883 中尾 嘉伸 17,453 戸室 敦雄 15,369 後山富士水 | 最終 無新 無新 | ▽佐世保市 当 68,095 光武 順 37,365 宮内 馨夫 25,430 原田 昭 | 最終 無新 無新 無新 | ▽品川区 当 77,482 高橋 久二 28,975 増田 勉 | 最終 無現 無新 |
| ▽半田市 当 22,748 竹内 弘 20,978 山田 耕市 11,134 石川 勝彦 | 最終 無現 無元 無新 | ▽備前市 当 11,218 栗山 志朗 7,004 大橋 信之 899 草場 知喜 | 最終 無新 無現 無新 | 【熊本県】 ▽人吉市 当 9,960 福永 浩介 8,267 井上 竜生 7,480 田口 善胤 | 最終 無現 無新 無新 | ▽世田谷区 当 150,531 大場 啓二 42,775 後藤 雄一 29,490 下元 孝子 | 最終 無現 諸新 無新 |
| ▽犬山市 当 23,150 石田 芳弘 16,110 松山 邦夫 | 最終 無新 無現 | 【広島県】 ▽尾道市 当 35,801 亀田 良一 21,547 博田 東平 | 最終 無新 無現 | 【大分県】 ▽大分市 当 90,716 木下敬之助 12,606 平尾 広喜 | 最終 無新 共新 | ▽渋谷区 当 31,352 小倉 基 11,858 杉浦 守 8,389 染谷 賢治 7,601 石川 清 | 最終 無新 無新 無新 |
| ▽尾西市 当 16,540 森 秀夫 2,534 寛 猛 | 最終 無現 無新 | ▽因島市 当 11,065 岡野 敬一 10,157 田中 貞子 | 最終 無現 無新 | ▽別府市 当 31,480 井上 信幸 28,481 中村 太郎 8,407 脇屋 長可 6,943 泉 武弘 2,712 川添由紀子 | 最終 無新 無新 無新 無新 | ▽杉並区 当 61,184 本橋 保正 27,667 阿部 昭作 27,310 増田 卓二 23,865 千葉 昇 | 最終 無現 無新 無新 無新 |
| ▽豊明市 当 16,547 都築 竜治 13,612 外山 半三 | 最終 無新 無現 | 【山口県】 ▽下関市 当 69,951 江島 深博 56,881 亀田 博 | 最終 無現 無新 | 【宮崎県】 ▽小林市 当 13,545 堀 泰一郎 12,299 森 祐一郎 | 最終 無新 無現 | ▽豊島区 当 61,913 加藤 一敏 19,084 榊原 貞良 | 最終 無現 無新 |
| 【三重県】 ▽鈴鹿市 当 57,866 加藤 栄 37,015 衣笠 賢護 | 最終 無新 無現 | ▽徳山市 当 33,933 小川 亮 22,557 宇山 和昭 2,297 黒川 昭介 | 最終 無現 無新 | ▽中央区 当 25,955 矢田 美英 | 最終 無現 | ▽北区 当 101,590 北本 正雄 32,892 中祖百合子 | 最終 無現 無新 |
| 【京都府】 ▽向日市 当 10,636 岡崎 誠之 7,471 松重 幹雄 | 最終 無新 無現 | ▽岩国市 当 31,690 貴船 悦光 25,591 大井 喜栄 | 最終 無現 無元 | 【区長選】 | | ▽板橋区 当 120,566 石塚 輝雄 39,777 日向寺淳一 | 最終 無現 無新 |
| 【大阪府】 ▽池田市 当 20,041 倉田 薫 17,778 片山 久男 5,647 堀辺 邦夫 | 最終 無新 無新 共新 | ▽徳島県】 ▽鳴門市 当 21,972 山本 幸男 | 最終 無現 無新 | | | ▽練馬区 当 97,000 岩波 三郎 67,500 高沢 寅男 25,000 島津 真尚 25,000 菊池 紘 | 96% 無現 無新 無新 |
| ▽枚方市 | 最終 | | | | | ▽江戸川区 当 138,395 中里 喜一 41,216 斎藤 勝 | 最終 無現 無新 |

2. 神奈川県内の選挙結果の特徴

神奈川県内では、第一ラウンドに県知事選、県議選、そして政令市議選が行われ、第二ラウンドでは3市長と1町長選、11市議選と5町議選が行われた。その結果の特徴的な動きをみることにする。

(1) 県知事選、県議選

① 県知事選

5期20年続いた長洲一二知事が11月に引退を表明し、その直後から新しい知事候補選びに入った。連合神奈川の呼びかけで、共産党を除く県議会の5党1会派（自民、社会、公明、新進、さきがけ、県政会）による「知事選問題合同協議会」がつくられ、具体的な作業が行われたが、95年1月中旬に元環境庁事務次官岡崎洋氏を擁立することが明らかになり、2月から選挙準備が開始された。すでにこの時点で、共産党は元教員の中里龍夫氏を推薦し、労働党は山本正治氏の擁立を決め、選挙準備が進められていた。

岡崎氏は立候補の正式発表をしたのが2月初旬であり、6党派による選挙母体がつくられたが、岡崎氏は自らの私財を投じてつくった（財）地球・人間環境フォーラム

の理事長の職務があり、本格的な選挙活動が開始されたのは3月に入ってからであった。政党の相乗りが明らかになった時点で、選挙結果は予想されたとはいうものの県内では無名の新人であり、その動向が注目されていた。

選挙結果は、岡崎氏の圧勝であったが、その得票は153万票あまり（得票率57.3%）で、長洲前知事の200万票からみると大幅に目減りしたものとなった。相手の共産党推薦候補は67万票、労働党候補は44万票とかつてない大量得票を獲得していた。

また注目すべきことは、投票率は43.47%と最も低かったこととあわせて、投票者のうち8.1%にあたる23万票もの無効票がでたことである。特に、川崎の中原・高津・宮前の3区では無効率が10%を越えており、かつてない異常な状況となっていた。県・政令市議の投票では無効は県議3.3%、市議1.9%であったことからすると、多くの人が県市議には投票しながら知事には白票または候補者以外の名前を記載していたことがわかる。

無効票のうち白票が半数以上であり、他事記載のうちには長洲前知事のほかに青島東京知事候補の名前も多く記載されていたという。知名度の低さと、中央官僚出身ということに加え、各党相乗りであったことが、他候補の得票増加と無効票の増加となってあらわれたものといえよう。

党派別当選者数(内)

| | 県議(定数) | | | | | 横浜市議(定数) | | | | | 川崎市議(定数) | | | | |
|------|--------|----|---|----|-----|----------|----|---|----|----|----------|----|---|---|----|
| | 計 | 現 | 元 | 新 | 旧 | 計 | 現 | 元 | 新 | 旧 | 計 | 現 | 元 | 新 | 旧 |
| 自新 | 38 | 30 | 1 | 7 | 40 | 30 | 25 | 0 | 5 | 31 | 18 | 16 | 0 | 2 | 21 |
| 民進 | 17 | 7 | 1 | 9 | 10 | 17 | 12 | 0 | 5 | 16 | 5 | 4 | 1 | 0 | 4 |
| 新社 | 22 | 19 | 0 | 2 | 28 | 13 | 11 | 0 | 1 | 16 | 10 | 10 | 0 | 0 | 12 |
| さきがけ | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 2 | 1 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 共産 | 2 | 1 | 0 | 1 | 1 | 6 | 2 | 1 | 3 | 6 | 9 | 8 | 0 | 1 | 10 |
| 護国 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 2 | 0 | 0 | 2 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ネット | 4 | 0 | 0 | 4 | 0 | 6 | 0 | 0 | 6 | 4 | 4 | 3 | 0 | 1 | 3 |
| 諸派 | 3 | 1 | 0 | 2 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 無所属 | 16 | 5 | 0 | 11 | 15 | 2 | 2 | 0 | 0 | 2 | 7 | 4 | 1 | 2 | 4 |
| 合計 | 115 | 72 | 3 | 40 | 107 | 94 | 65 | 2 | 27 | 94 | 64 | 54 | 2 | 8 | 64 |

丸数字は女性。旧は改選前勢力

② 県議選

県議選では、事前のマスコミなどの調査によると、自民党がかなり強く、社会党は20議席を切るほどの減少するのではないかと予想されていた。

選挙結果をみると、自民党は前回議席を5名減らし38議席となり予想外の苦戦となった。社会党は7名減らして22議席となったが、辛うじて20名を割ることなく踏みとどまっていた。公明は立候補者を2名減らしたので全員当選したものの11議席となった。躍進したのが新進党で、旧民社の前回議席を8名上回り17議席を獲得した。神奈川ネットワーク運動も4議席と健闘ぶりをみせ、共産党も1増の2議席となった。新党さきがけ1を含め諸派が5議席、無所属が16議席という結果であった。

前回91年の選挙では13選挙区19名の無投票当選者を出したが、今回は無投票は高座郡・逗子葉山・足柄上郡の3選挙区3名にとどまった。

次に、各党ごとの仲長を細かくみていくことにする。自民党は、横浜市内では順当に議席を獲得し、現職は金沢の1名減だけに踏みとどまったが、川崎では新人候補が前任者の議席を守れず3名減り、三浦市・

南足柄市・愛甲郡など1人区での敗北が響いている。しかし、無所属の県議会会派の県政会候補を積極的に推薦したことが、結果的には会派議席の維持につながったといえよう。

社会党は、立候補者を絞ったにもかかわらず神奈川・旭・港北・青葉・相模原・秦野で6名の現職議員が落選、藤沢・茅ヶ崎では新人候補が現職議席を継承できたが、保土ヶ谷・泉・大和では新人候補が前回議席を守ることができなかった。高津では念願の前回惜敗した元議員の復活が果たせたが、栄・小田原では元議員の復帰が果たせなかった。当初の予想では、きわめて厳しいといわれていた川崎北部3区の議席を維持することができたことにより、20名割れを防ぐことができたものといわれている。

新進党は、小田原で予想外の現職落選をみたものの、現職議員が順当に議席を維持した。また金沢・保土ヶ谷・港北・泉では旧民社系新人が議席を獲得したのに加え、鎌倉で元議員が復帰を果たし、相模原は新人候補が現職議席を継承したことなど、大幅な増加をみせたことが特徴的であった。

公明は、旭・緑で現職議席の立候補をとりやめたほか、鶴見・横須賀で新人が現職議席をまもり、他では現職が全員当選となった。ネットは、神奈川・旭・青葉で前横浜

| | | 【県内の選挙区別当選者数】 | | | | | | | | | | | ネット | 諸派 | 無所属 | 定数 |
|--------|----|---------------|----|----|------|----|----|----|------|-----|-----|-----|-----|----|-----|----|
| 県 | 議 | 自民 | 新進 | 社会 | さきがけ | 共産 | 公明 | 護憲 | リベラル | ネット | 諸派 | 無所属 | 定数 | | | |
| 横 | 市 | 18 | 10 | 9 | 1 | 0 | 5 | 1 | 3 | 0 | 0 | 0 | 47 | | | |
| | 区 | 1 | 1 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4 | | | |
| | 区 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 | | | |
| | 区 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | | | |
| | 区 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | | | |
| | 区 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 | | | |
| | 区 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 | | | |
| | 区 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4 | | | |
| | 区 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | | | |
| | 区 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 | | | |
| 川 | 市 | 4 | 2 | 6 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 16 | | | |
| | 区 | 1 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 | | | |
| | 区 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | | | |
| | 区 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 | | | |
| | 区 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | | | |
| | 区 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | | | |
| | 区 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | | | |
| | 区 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | | | |
| | 区 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | | | |
| | 区 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | | | |
| 横 | 市 | 2 | 1 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 6 | | | |
| | 市 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | | | |
| | 市 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 5 | | | |
| | 市 | 2 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 3 | | | |
| | 市 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 | | | |
| | 市 | 1 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 | | | |
| | 市 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | | | |
| | 市 | 3 | 2 | 1 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 8 | | | |
| | 市 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | | | |
| | 市 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 2 | | | |
| 厚 | 市 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 3 | | | |
| | 市 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | | | |
| | 市 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | | | |
| | 市 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | | | |
| | 市 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | | | |
| | 市 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | | | |
| | 市 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | | | |
| | 市 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | | | |
| | 市 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | | | |
| | 市 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | | | |
| 合 | 計 | 38 | 17 | 22 | 1 | 2 | 11 | 1 | 4 | 3 | 16 | 115 | | | | |
| 改選前の勢力 | 40 | 10 | 28 | 0 | 1 | 13 | 0 | 0 | 0 | 15 | 107 | | | | | |

(欠員8)

市議がそろって社会党現職を破って議席を獲得し、厚木でネット代表が初議席を得て大幅に躍進した。

共産党は相模原で新人が当選、川崎の現職が議席を維持した。さきがけは、5人の新人を立てたが、旭で1議席獲得したのにとどまった。諸派では、港北から横浜市議から転身した護憲リベラルの木内氏が当選した。

選挙後の5月1日に、県議会に会派の構成が届けられたが、自民党は公認もれで争った無所属4名を抱え込み42名になり、改選前の議席にはほぼ近づいてきた。新進党も無所属議員から5名を入れて22名と社会党と同数となり、第二党として並ぶことになった。この結果、副議長を社会党と2年ずつ勤めることとなった。

ネットはさきがけと共同で会派を組み5名で交渉会派入りを果たした。無所属議員のうち旧県政会のメンバーを中心とした9名は、議会会派として県政クラブを結成し、会派届けを出した。

③ 政令市議選

県議と同時に、横浜・川崎の両政令市の議員選挙が行われた。

横浜市議では、かつてない少数激戦の選挙戦であった。

自民党が港南で現職議員が落選したため、改選議席から1名減の30議席となったが、第一党を維持した。これに対して社会党は、南で参院選に転出する後継の新人以外は新たな立候補者を現職だけに絞り込み現状維持をはかった。しかし、旭・都筑・瀬谷で現職が落選し、改選議席より3名減の13議席と後退し、第4党になってしまった(会派では、無所属1名を加えて14議席)。

新進党は、旭、戸塚で2名当選を果たし、新旧の交代をはかりながら現職が全員当選したことなどから、1名増加して17議席で第二党となった。公明は、立候補者を1名減らしたので全員当選だが15議席となった。

共産党は、神奈川で現職が落選したものの南で新人が当選し、結果としては6議席

| 定数 | 無所属 | 諸派 | ネット | 護憲リベラル | 公明 | 共産 | さきがけ | 社会 | 新進 | 民進 | 議 | 市 | 横 |
|----|-----|----|-----|--------|----|----|------|----|----|----|---|---|--------|
| 7 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 1 | 0 | 1 | 1 | 1 | 区 | 見 | 川 |
| 6 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 区 | 奈 | 神 |
| 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 区 | 西 | 中 |
| 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 区 | 南 | 港 |
| 6 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 区 | 土 | 港 |
| 6 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 区 | 旭 | 港 |
| 6 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 区 | 保 | 土 |
| 7 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 区 | 磯 | 子 |
| 5 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 区 | 磯 | 子 |
| 6 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 区 | 磯 | 子 |
| 7 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 区 | 磯 | 子 |
| 8 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 区 | 磯 | 子 |
| 4 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 区 | 磯 | 子 |
| 7 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 区 | 磯 | 子 |
| 4 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 区 | 磯 | 子 |
| 7 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 区 | 磯 | 子 |
| 4 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 区 | 磯 | 子 |
| 3 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 区 | 磯 | 子 |
| 7 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 区 | 磯 | 子 |
| 4 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 区 | 磯 | 子 |
| 3 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 区 | 磯 | 子 |
| 4 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 区 | 磯 | 子 |
| 94 | 2 | 1 | 2 | 6 | 15 | 6 | 13 | 17 | 30 | 30 | 計 | 合 | 改選前の勢力 |

名が無投票当選となり、幸区は告示直前に1名が名乗りを上げて選挙になったという低調な状況であった。

選挙結果は、自民党が中原で現職が落選するなど改選議席を3減らして18議席になり、社会党は幸区で公認候補者を立てられず（現職1名は無所属で当選）、2議席減で10議席となり第3党となってしまった。公明は、高津で新人が当選し1名増の11議席で第2党となった。

共産党は、高津・多摩で現職議員の落選したが、中原で新人が当選し1名減の9席となった。新進党は1議席増の5議席である。ネットは、現職3名が再選され、多摩で新人が当選、4議席となった。

以上のように、第2～3党の変動はあったものの、体制としては大きな変化がみられなかったということになる。

この二つの政令市議選の結果の特徴として、やはりネットの躍進などもあり女性の増加が見られた。両市で7名増加し22名となり、女性の割合が14.7%となった。政令市の議員は特別区と共に他の議会と比べると女性の割合が高いが、全国の11.1%よりも神奈川は高くなっている。

| 定数 | 無所属 | 諸派 | ネット | 護憲リベラル | 公明 | 共産 | さきがけ | 社会 | 新進 | 民進 | 議 | 市 | 川 |
|----|-----|----|-----|--------|----|----|------|----|----|----|---|---|--------|
| 11 | 0 | 0 | 0 | 2 | 2 | 1 | 2 | 1 | 2 | 1 | 区 | 幸 | 川 |
| 8 | 2 | 0 | 1 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 区 | 幸 | 川 |
| 10 | 0 | 0 | 0 | 2 | 2 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 区 | 中 | 高 |
| 9 | 1 | 0 | 0 | 1 | 2 | 0 | 2 | 0 | 2 | 0 | 区 | 中 | 高 |
| 10 | 0 | 0 | 1 | 1 | 2 | 1 | 2 | 1 | 2 | 1 | 区 | 高 | 宮 |
| 9 | 3 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 区 | 多 | 摩 |
| 7 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 1 | 2 | 1 | 2 | 0 | 区 | 多 | 摩 |
| 64 | 7 | 0 | 4 | 9 | 11 | 0 | 9 | 10 | 18 | 18 | 計 | 合 | 改選前の勢力 |

の改選議席を維持した。ネットは、2期までという内規から市議2期経験者が県会に転出したため全員新人となったが、現職のいた区では議席の継承に成功し、新たに金沢・戸塚で議席を獲得したので6議席となり、念願の交渉会派入りを果たした。

さきがけは、保土ヶ谷で新人が当選し2議席となり、護憲リベラルは鶴見・港北で新議席を2つ獲得した。磯子の諸派、栄の道路反対運動の無所属の現職はいずれも当選した。

以上のように、大きな変化は社会党の減少だけで、ほぼ現状維持に終わっている。

川崎市議も、全くの少数の立候補者による選挙となり、各区で定員を1～3名オーバーするだけという状況で、多摩区では7

(2) 市長・市議選、町長・町議選

① 市長・町長選

第2ラウンドの、3市長と1町長選挙の結果をみてみよう。

平塚、大和、茅ヶ崎の3市長選挙は、か

つてない激戦となった。

現職の石河市長が引退した後を、議会議長の落合氏が継承する形で立候補を昨年秋に表明したが、4年前に現市長と争い僅差で破れた吉野氏が早くから再起を期して運動を続けており、激戦が予想された。

結果は、政党からの推薦をいっさい受けなかった吉野氏が、自民・社会の推薦を受けた落合氏を2万票もの大差をつけて当選した。4年間の地をばうような地域活動が市民の共感を得たものといわれ、「平塚でも東京、大阪現象の再現を」と訴えた成果ともいわれている。

市長・町長選の開票結果

◎は法定得票に達した人

平塚市 (選管最終)

当 62,866 吉野稜威雄 無新
◎ 42,645 落合 良延 無新

大和市 (選管最終)

当 35,664 土屋 侯保 無新
◎ 35,428 石川 公弘 無新

茅ヶ崎市 (選管最終)

当 38,884 根本 康明 無現
◎ 33,061 吉開 輝隆 無新

湯河原町 (選管最終)

当 8,146 米岡 幸男 無新
◎ 7,014 丸山 孝夫 無現

| |
|---|
| ▽平塚市長選【投票総数】108,063 【有効投票数】105,511【無効投票数】2,552 |
| ▽茅ヶ崎市長選【投票総数】74,187 【有効投票数】71,945【無効投票数】2,242 |
| ▽大和市長選【投票総数】74,210 【有効投票数】71,092【無効投票数】3,118 |
| ▽湯河原町長選【投票総数】15,395 【有効投票数】15,160【無効投票数】235 |

大和市では、再選の噂をされた井上現市長が12月に突然引退を表明し、後継をめぐる争いとなり、現政権の与野党に分かれた争いとなった。井上市長の後継として市会議員2期をやった土屋氏が、自民・社会そしてネットの推薦を受けたのに対して、市議の石川氏は新進・公明の推薦をとりつけ、市内を二分した戦いとなった。旧自民党の対立構造がそのまま受け継がれ、小選挙区の前哨戦という意味合いもあった。

結果は、わずか230票差というきわめて少数差で落合氏の勝利となった。この勝敗をめぐる、地元のTVKが石川氏の当選を誤報したことなどのエピソードもあった激戦であった。

茅ヶ崎市では、現職の根本市長が4選をめざして再出馬を表明し、対抗馬として吉開氏が立候補した。社会・新進などの推薦を得た根本氏は、8年間の実績に支えられ、5,800票余の差を付け当選した。順当な勝利といわれている。

県内の町村長選挙では、湯河原町長選挙が唯一行われた。前回の選挙で、告示直前に立候補を表明し現職町長を破った丸山現町長が再選をめざしたのに対して、敗れた前町長派の期待を背負って米岡氏がいち早く立候補を声明し、雪辱を期した戦いが行われた。結果は、1,000票余の差で現職の丸山氏が敗れ、米岡氏の初当選となった。

これらの選挙を通して、特徴的に現れた傾向としては、有権者は首長選挙では政党の推薦行為には必ずしも影響されず、自らの判断で候補者を選ぶ傾向が明らかになったことである。知事選や平塚市長選がその象徴であった。ただし、湯河原町長選を除いて、投票率が6~15%も下がっているの

(注)カッコ内は改選時勢力(欠員除く)

市議当選者数
県内

| | 定数 | 自民 | 新進 | 社会 | さきがけ | 共産 | 公明 | 護憲 | ネット | 諸派 | 無所属 | 現職 | 元職 | 新 | 女性 |
|-----|-----|--------|-------|--------|------|--------|--------|------|-------|------|----------|-----|----|----|----|
| 横須賀 | 46 | 13(16) | 2(3) | 5(5) | 0(0) | 3(2) | 7(8) | 0(0) | 2(1) | 0(0) | 14(12) | 37 | 1 | 8 | 2 |
| 平塚 | 34 | 0(0) | 1(3) | 5(7) | 0(0) | 3(4) | 5(5) | 0(0) | 2(1) | 0(0) | 18(16) | 25 | 0 | 9 | 7 |
| 藤沢 | 40 | 7(10) | 1(1) | 5(7) | 0(0) | 5(5) | 6(6) | 0(0) | 1(0) | 0(0) | 15(14) | 29 | 1 | 10 | 9 |
| 小田原 | 32 | 0(0) | 1(1) | 3(5) | 0(0) | 3(3) | 4(4) | 0(0) | 1(0) | 0(0) | 20(19) | 25 | 1 | 6 | 2 |
| 茅ヶ崎 | 30 | 2(2) | 0(0) | 4(5) | 0(0) | 3(2) | 4(4) | 0(0) | 1(1) | 0(0) | 16(16) | 22 | 1 | 7 | 8 |
| 相模原 | 46 | 0(0) | 3(6) | 4(4) | 1(0) | 4(3) | 8(8) | 1(0) | 2(1) | 0(0) | 23(23) | 32 | 2 | 12 | 6 |
| 三浦 | 22 | 6(9) | 0(0) | 0(0) | 0(0) | 4(3) | 2(1) | 0(0) | 0(0) | 0(0) | 10(8) | 17 | 1 | 4 | 2 |
| 大和 | 30 | 0(1) | 0(0) | 3(3) | 0(0) | 3(3) | 5(5) | 0(0) | 2(2) | 0(0) | 17(17) | 22 | 0 | 8 | 7 |
| 伊勢原 | 26 | 0(0) | 0(0) | 1(1) | 0(0) | 3(3) | 2(3) | 0(0) | 0(0) | 0(0) | 20(21) | 24 | 1 | 1 | 3 |
| 南足柄 | 26 | 0(0) | 0(0) | 1(2) | 0(0) | 2(2) | 2(2) | 0(0) | 0(0) | 0(0) | 21(20) | 17 | 1 | 8 | 1 |
| 綾瀬 | 26 | 0(0) | 0(0) | 1(2) | 0(0) | 2(2) | 3(3) | 0(0) | 2(0) | 0(0) | 18(17) | 15 | 1 | 10 | 5 |
| 総合計 | 358 | 28(38) | 8(14) | 32(41) | 1(0) | 35(32) | 48(49) | 1(0) | 13(6) | 0(0) | 192(183) | 265 | 10 | 83 | 52 |

が気がかりであった。

② 市議・町議選

11の市議と5町議選が行われたが、市長選挙同様にいずれも投票率の大幅な減少がみられた。身近な市議選にもかかわらず投票率が5割を割った市が横須賀、藤沢、茅ヶ崎、相模原、大和の各市であり、藤沢が前回から5割を割り他の市は今回はじめてということになる。また、中井町議選では無投票で16の議席が決定された。

今回の選挙を前にして、各議会では定数の削減の議論が行われた。結果として、横須賀、平塚、藤沢、三浦、大和、伊勢原で定数が2～4名削減されている。

この11の市議選をトータルで改選前の議席と比較してみると、自民党は10名減の28議席、社会党は9名減の32議席、新進党は6名減の8議席、公明は1名減の48議席などと議席を減らした。これに対して、共産党が3名増の35議席と増加し、ネットが6議席から倍増し13議席に、無所属が9名増えて192議席となった。

共産を除く既成政党の減少という全体的な傾向をみることができ、個々に見る

と、あまり大きな変化は見られなかった。

横須賀では、定数を2名減の46議席としたが、改選前の議席に対して、自民が3名減の13議席となり現職2名の落選など定数減の影響をうけた。新進が1減の2議席、公明1減の7議席といずれも議席を減らした。社会は現状維持の5議席、共産とネットが1名増加の3・2議席で、無所属が2だったが、相対的には大きな変化はみられなかった。

平塚では、定数を2名減らし34議席となったが、社会が立候補者を減らしたため2名減の現職だけの5議席にとどまった。新進が2名減の1議席、共産が1名を減らし3議席になった。公明が現状維持の5議席、ネットが1増加の2議席となった。無所属は2名増の18議席だが、もともと自民党の議席はなかったので、ここも大勢に影響はもたらさなかった。

藤沢では、定数が4名減の40議席となったが、自民が立候補者を絞ったものの3名減少し7議席に、社会も立候補者数を減らしたため2名減の5議席となり、減員の影響を受けた。公明6・共産5・新進1は現状維持であり、ネットが1議席を回復、無所属は1名増の15議席となった。この中に

は自民系・社会系も含まれていることから、大きな変化はなかったものといえる。

小田原では、社会党が2名減の3議席に（現1名は無所属で当選）、ネットが初の1議席を獲得したほか、新進1、共産3、公明4、無所属20議席で変化は見られなかった。

茅ヶ崎では、社会党が1名減の4議席に、共産党が1名増の3議席ほか、公明4、ネット1、無所属16で変わらなかった。

相模原では、共産・ネットが各1名増で4・2議席に、護憲リベラルが1議席を回復、さきがけが初議席を得たが、新進が3名減の3議席で、社会党5議席、無所属23議席は変わらなかった。

三浦では、定員を2名減らし22議席としたが、立候補者は1名オーバーしただけであった。自民が3名減の6議席になり定数減の影響を受けた。共産・公明が各1名増で4・2議席になり、無所属は2名増の10議席となった。

大和では、定数を2名減らし30議席となったが、自民が1あった議席が0となったほか、社会3、公明5、ネット2、無所属17議席で変化はなかった。ただし、無所属にネットの前議員が含まれており実質ネットは3議席の会派となった。

伊勢原では、公明が1名減の2議席になり、社会1、共産3は変わらず、無所属が1名減の20議席となり、定数減は公明・無所属がかぶることになった。

南足柄では、立候補者が1名だけ上回る

だけの選挙であったが、社会が立候補者を1減し1議席だけになり、共産・公明は各2議席で変わらず、無所属が1名増の1議席となった。

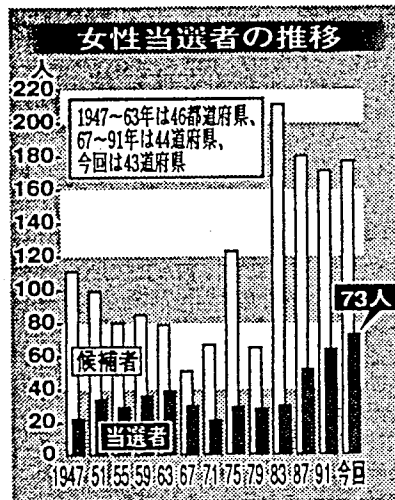
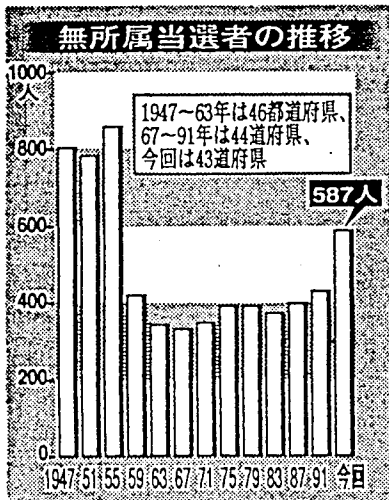
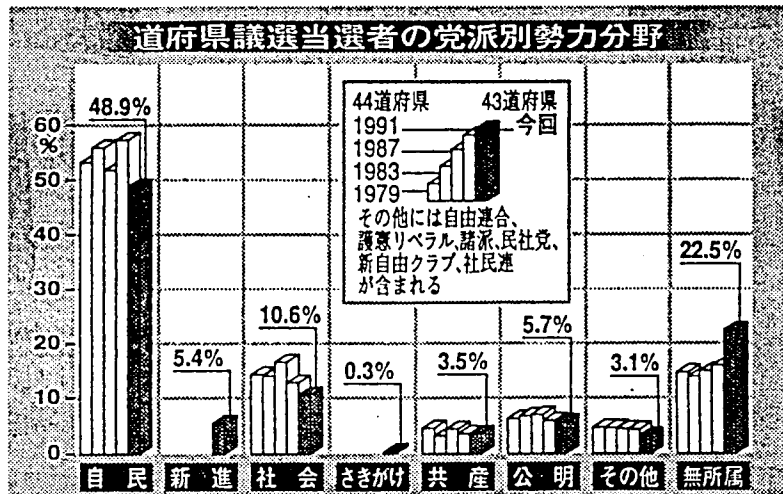
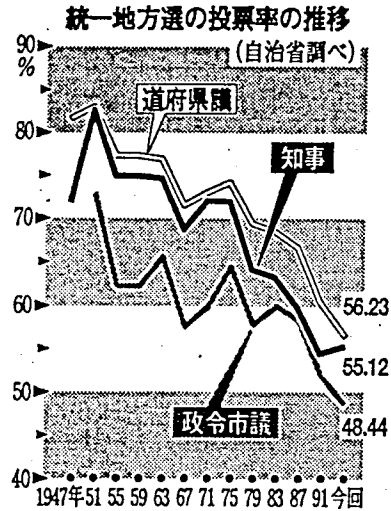
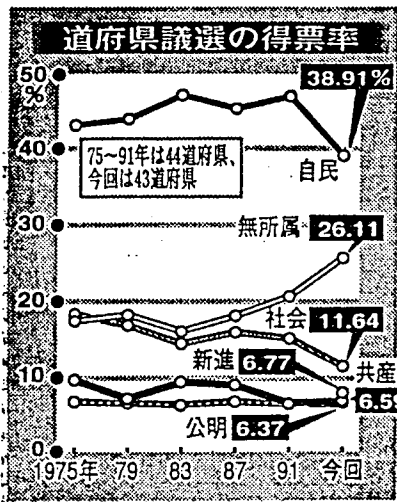
綾瀬では、社会が1名減の1議席だけ、ネットが初議席を獲得し一気に2議席となり、公明3、共産2は変わらず、無所属は1増の18議席であった。

町議選挙の結果は、5町を通じて共産6、公明3、ネット2、社会1、無所属80という結果であった。社会党は、前回当選者は3名であったが引退と無所属に転向したため城山の1名だけとなってしまった。

| 町議 当選者数 (丸数字は女性) | 立候補 数 | 社 会 | 公 明 | 共 産 | ネ ッ ト | 無 所 属 | 現 元 新 | | |
|------------------------|----------|--------|--------|--------|-------------|-------------|-------|----|---|
| | | | | | | | 現 | 元 | 新 |
| 山 | 20 | 0 | 1 | 0 | 2 | 16 | 1 | 3 | |
| 井 | 15 | 0 | 0 | 1 | 0 | 15 | 2 | 2 | |
| 北 | 22 | 0 | 0 | 1 | 0 | 19 | 0 | 10 | |
| 成 | 18 | 0 | 1 | 1 | 0 | 16 | 13 | 0 | |
| 山 | 18 | 1 | 1 | 2 | 0 | 14 | 12 | 0 | |
| 合 計 | 92 | 1 | 3 | 6 | 2 | 80 | 63 | 3 | |

市議選・町議選の結果は以上の通りであるが、全国的な傾向と同じことが神奈川にも見られた。すなわち、自民党、社会党、新進党、公明が減少し、共産党が微増であった。

また、神奈川の特徴として神奈川ネットワーク運動の躍進があり、この影響もあって女性議員の増加傾向が見られ、市会では前回の38名から14名増加し52議席を獲得し、女性の割合が4.3%となっている。今回の選挙結果で、全国の市議の女性の割合が1.7%にすぎないことと比較すると、神奈川はやや進んでいるといえようか。



95.4.25 神奈川新聞より

〔統一自治体選挙の結果〕

神奈川県議会・政令市議会・市議会・町村議会・政党別当選者数の推移

| | 選挙年月 | 対象自治体数 | 総定数 | 自民党 議席数構成比 | 社会党 議席数構成比 | 公明党 議席数構成比 | 民社・新進党 議席数構成比 | 共産党 議席数構成比 | 神奈川ネット | 諸派(さ) |
|--------|---------|--------|-----|---------------|---------------|---------------|------------------|---------------|---------|-------|
| 県議会議員 | 1975年4月 | 1 | 109 | 41 37.6% | 29 26.6% | 13 11.9% | 8 7.3% | 6 5.5% | | 1 |
| | 1979年4月 | 1 | 115 | 35 30.4% | 25 21.7% | 16 13.9% | 9 7.8% | 6 5.2% | | 16 |
| | 1983年4月 | 1 | 115 | 37 32.2% | 23 20.0% | 13 11.3% | 12 10.4% | 3 2.6% | | 10 |
| | 1987年4月 | 1 | 115 | 31 27.0% | 28 24.3% | 14 12.2% | 13 11.3% | 2 1.7% | | 5 |
| | 1991年4月 | 1 | 115 | 43 37.4% | 29 25.2% | 13 11.3% | 9 7.8% | 1 0.9% | 1 0.9% | 6 |
| | 1995年4月 | 1 | 115 | 38 33.0% | 22 19.1% | 11 9.6% | 17 14.8% | 2 1.7% | 4 3.5% | 5 |
| | 94-91増減 | 0 | 0 | -5 -4.3% | -7 -6.1% | -2 -1.7% | 8 7.0% | 1 0.9% | 3 2.6% | -1 |
| 政令市議会 | 1975年4月 | 2 | 152 | 48 31.6% | 27 17.8% | 29 19.1% | 17 11.2% | 21 13.8% | | 0 |
| | 1979年4月 | 2 | 160 | 43 26.9% | 31 19.4% | 27 16.9% | 22 13.8% | 20 12.5% | | 5 |
| | 1983年4月 | 2 | 160 | 47 29.4% | 30 18.8% | 27 16.9% | 24 15.0% | 15 9.4% | 1 0.6% | 4 |
| | 1987年4月 | 2 | 158 | 38 24.1% | 33 20.9% | 30 19.0% | 20 12.7% | 18 11.4% | 4 2.5% | 12 |
| | 1991年4月 | 2 | 158 | 47 29.7% | 28 17.7% | 27 17.1% | 16 10.1% | 19 12.0% | 7 4.4% | 10 |
| | 1995年4月 | 2 | 150 | 48 32.0% | 25 16.7% | 26 17.3% | 22 14.7% | 15 10.0% | 10 6.7% | 5 |
| | 94-91増減 | 0 | -8 | 1 2.3% | -3 -1.1% | -1 0.2% | 6 4.5% | 1 -2.0% | 3 2.2% | -5 |
| 市議会議員 | 1975年4月 | 10 | 354 | 12 3.4% | 45 12.7% | 43 12.1% | 21 5.9% | 27 7.6% | | 0 |
| | 1979年4月 | 11 | 382 | 13 3.4% | 40 10.5% | 46 12.0% | 24 6.3% | 35 9.2% | | 9 |
| | 1983年4月 | 11 | 382 | 21 5.5% | 41 10.7% | 46 12.0% | 26 6.8% | 32 8.4% | | 3 |
| | 1987年4月 | 11 | 372 | 29 7.8% | 41 11.0% | 50 13.4% | 23 6.2% | 32 8.6% | 4 1.1% | 3 |
| | 1991年4月 | 11 | 372 | 37 9.9% | 42 11.3% | 50 13.4% | 20 5.4% | 33 8.9% | 8 2.2% | 8 |
| | 1995年4月 | 11 | 358 | 28 7.8% | 32 8.9% | 48 13.4% | 8 2.2% | 35 9.8% | 13 3.6% | 2 |
| | 94-91増減 | 0 | -14 | -9 -2.1% | -10 -2.4% | -2 0.0% | -12 -3.1% | 2 0.9% | 5 1.5% | -6 |
| 町村議会議員 | 1975年4月 | 6 | 134 | 0 0.0% | 5 3.7% | 4 3.0% | 2 1.5% | 5 3.7% | | 0 |
| | 1979年4月 | 5 | 106 | 0 0.0% | 2 1.9% | 2 1.9% | 0 0.0% | 6 5.7% | | 0 |
| | 1983年4月 | 5 | 98 | 0 0.0% | 4 4.1% | 4 4.1% | 0 0.0% | 5 5.1% | | 0 |
| | 1987年4月 | 5 | 94 | 0 0.0% | 5 5.3% | 4 4.3% | 0 0.0% | 6 6.4% | 1 1.1% | 0 |
| | 1991年4月 | 5 | 90 | 1 1.1% | 4 4.4% | 4 4.4% | 0 0.0% | 5 5.6% | 2 2.2% | 0 |
| | 1995年4月 | 5 | 92 | 0 0.0% | 1 1.1% | 6 6.5% | 0 0.0% | 6 6.5% | 2 2.2% | 0 |
| | 94-91増減 | 0 | 2 | -1 -1.1% | -3 -3.4% | 2 2.1% | 0 0.0% | 1 1.0% | 0 0.0% | 0 |
| 議員総合計 | 1975年4月 | 19 | 749 | 101 13.5% | 106 14.2% | 89 11.9% | 48 6.4% | 59 7.9% | | 1 |
| | 1979年4月 | 19 | 763 | 91 11.9% | 98 12.8% | 91 11.9% | 55 7.2% | 67 8.8% | | 30 |
| | 1983年4月 | 19 | 755 | 105 13.9% | 98 13.0% | 90 11.9% | 62 8.2% | 55 7.3% | 1 0.1% | 17 |
| | 1987年4月 | 19 | 739 | 98 13.3% | 107 14.5% | 98 13.3% | 56 7.6% | 58 7.8% | 9 1.2% | 20 |
| | 1991年4月 | 19 | 735 | 128 17.4% | 103 14.0% | 94 12.8% | 45 6.1% | 58 7.9% | 18 2.4% | 24 |
| | 1995年4月 | 19 | 715 | 114 15.9% | 80 11.2% | 91 12.7% | 47 6.6% | 58 8.1% | 29 4.1% | 12 |
| | 94-91増減 | 0 | -20 | -14 -1.5% | -23 -2.8% | -3 -0.1% | 2 0.5% | 0 0.2% | 11 1.6% | -12 |

95年から民社党欄に「新進党」を記入、「新党さきがけ」は諸派の中に含まれている。

各年の統一自治体選挙終了時現在の党派による

| 党 | 無所属 | | | 新 | | | 現 | | | 計 | うち女性 | | うち無投票 | | 選挙年月 |
|-------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|-----|----|-------|-----|--------|---------|--------|
| | 議席数 | 構成比 | 議席数 | 構成比 | 議席数 | 構成比 | 議席数 | 構成比 | 議席数 | | 構成比 | 議席数 | 構成比 | 議席数 | |
| 0.9% | 11 | 10.1% | 34 | 31.2% | 73 | 67.0% | 2 | 1.8% | 109 | 5 | 4.6% | 0 | 0.0% | 1975年4月 | 県議会議員 |
| 13.9% | 8 | 7.0% | 23 | 20.0% | 87 | 75.7% | 5 | 4.3% | 115 | 8 | 7.0% | 11 | 9.6% | 1979年4月 | |
| 8.7% | 17 | 14.8% | 36 | 31.3% | 77 | 67.0% | 2 | 1.7% | 115 | 6 | 5.2% | 0 | 0.0% | 1983年4月 | |
| 4.3% | 22 | 19.1% | 27 | 23.5% | 84 | 73.0% | 4 | 3.5% | 115 | 4 | 3.5% | 0 | 0.0% | 1987年4月 | |
| 5.2% | 14 | 12.2% | 28 | 24.3% | 81 | 70.4% | 6 | 5.2% | 115 | 4 | 3.5% | 19 | 16.5% | 1991年4月 | |
| 4.3% | 16 | 13.9% | 40 | 34.8% | 72 | 62.6% | 3 | 2.6% | 115 | 8 | 7.0% | 3 | 2.6% | 1995年4月 | |
| -0.9% | 2 | 1.7% | 12 | 10.4% | -9 | -7.8% | -3 | -2.6% | 0 | 4 | 3.5% | -16 | -13.9% | 94-91増減 | |
| 0.0% | 10 | 6.6% | 52 | 34.2% | 97 | 63.8% | 3 | 2.0% | 152 | 7 | 4.6% | 0 | 0.0% | 1975年4月 | 政令市議会 |
| 3.1% | 12 | 7.5% | 31 | 19.4% | 123 | 76.9% | 6 | 3.8% | 160 | 6 | 3.8% | 0 | 0.0% | 1979年4月 | |
| 2.5% | 13 | 8.1% | 31 | 19.4% | 126 | 78.8% | 3 | 1.9% | 160 | 10 | 6.3% | 0 | 0.0% | 1983年4月 | |
| 7.6% | 7 | 4.4% | 34 | 21.5% | 120 | 75.9% | 4 | 2.5% | 158 | 16 | 10.1% | 0 | 0.0% | 1987年4月 | |
| 6.3% | 11 | 7.0% | 36 | 22.8% | 118 | 74.7% | 4 | 2.5% | 158 | 15 | 9.5% | 0 | 0.0% | 1991年4月 | |
| 3.3% | 9 | 6.0% | 35 | 22.2% | 119 | 75.3% | 4 | 2.5% | 158 | 22 | 14.7% | 7 | 4.7% | 1995年4月 | |
| -3.0% | -2 | -1.0% | -1 | -0.6% | 1 | 0.6% | 0 | 0.0% | 0 | 7 | 5.2% | 7 | 4.7% | 94-91増減 | |
| 0.0% | 206 | 58.2% | 121 | 34.2% | 226 | 63.8% | 7 | 2.0% | 354 | 4 | 1.1% | 0 | 0.0% | 1975年4月 | 市議会議員 |
| 2.4% | 215 | 56.3% | 94 | 24.6% | 277 | 72.5% | 11 | 2.9% | 382 | 11 | 2.9% | 0 | 0.0% | 1979年4月 | |
| 0.8% | 213 | 55.8% | 8 | 2.6% | 279 | 92.4% | 15 | 5.0% | 302 | 16 | 4.2% | 0 | 0.0% | 1983年4月 | |
| 0.8% | 194 | 52.2% | 71 | 19.1% | 292 | 78.5% | 9 | 2.4% | 372 | 31 | 8.3% | 26 | 7.0% | 1987年4月 | |
| 2.2% | 182 | 48.9% | 81 | 21.8% | 276 | 74.2% | 15 | 4.0% | 372 | 38 | 10.2% | 0 | 0.0% | 1991年4月 | |
| 0.6% | 192 | 53.6% | 83 | 23.2% | 265 | 74.0% | 10 | 2.8% | 358 | 52 | 14.5% | 0 | 0.0% | 1995年4月 | |
| -1.6% | 10 | 4.7% | 2 | 1.4% | -11 | -0.2% | -5 | -1.2% | -14 | 14 | 4.3% | 0 | 0 | 94-91増減 | |
| 0.0% | 118 | 88.1% | 53 | 39.6% | 75 | 56.0% | 6 | 4.5% | 134 | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 1975年4月 | 町村議会議員 |
| 0.0% | 96 | 90.6% | 34 | 32.1% | 70 | 66.0% | 2 | 1.9% | 106 | 0 | 0.0% | 36 | 34.0% | 1979年4月 | |
| 0.0% | 85 | 86.7% | 33 | 33.7% | 64 | 65.3% | 1 | 1.0% | 98 | 1 | 1.0% | 6 | 6.1% | 1983年4月 | |
| 0.0% | 79 | 84.0% | 24 | 25.5% | 65 | 69.1% | 5 | 5.3% | 94 | 5 | 5.3% | 0 | 0.0% | 1987年4月 | |
| 0.0% | 76 | 84.4% | 25 | 27.2% | 65 | 70.7% | 2 | 2.2% | 92 | 6 | 6.7% | 0 | 0.0% | 1991年4月 | |
| 0.0% | 80 | 87.0% | 26 | 28.3% | 63 | 68.5% | 3 | 3.3% | 92 | 6 | 6.5% | 16 | 17.4% | 1995年4月 | |
| 0.0% | 4 | 2.5% | 1 | 1.1% | -2 | -2.2% | 1 | 1.1% | 0 | 0 | -0.1% | 16 | 17.4% | 94-91増減 | |
| 0.1% | 345 | 46.1% | 260 | 34.7% | 471 | 62.9% | 18 | 2.4% | 749 | 16 | 2.1% | 0 | 0.0% | 1975年4月 | 議員合計 |
| 3.9% | 331 | 43.4% | 182 | 23.9% | 557 | 73.0% | 24 | 3.1% | 763 | 25 | 3.3% | 47 | 6.2% | 1979年4月 | |
| 2.3% | 328 | 43.4% | 108 | 16.0% | 546 | 80.9% | 21 | 3.1% | 675 | 33 | 4.4% | 6 | 0.8% | 1983年4月 | |
| 2.7% | 302 | 40.9% | 156 | 21.1% | 561 | 75.9% | 22 | 3.0% | 739 | 56 | 7.6% | 26 | 3.5% | 1987年4月 | |
| 3.3% | 283 | 38.5% | 170 | 23.1% | 540 | 73.3% | 27 | 3.7% | 737 | 63 | 8.6% | 19 | 2.6% | 1991年4月 | |
| 1.7% | 297 | 41.5% | 184 | 25.4% | 519 | 71.8% | 20 | 2.8% | 723 | 88 | 12.3% | 26 | 3.6% | 1995年4月 | |
| -1.6% | 14 | 3.0% | 14 | 2.4% | -21 | -1.5% | -7 | -0.9% | -14 | 25 | 3.7% | 7 | 1.1% | 94-91増減 | |

県内議員選の開票結果

選管最終

【注】①選挙区の次のカッコ内は定数と立候補者数を示す②数字は開票率、最終は選管最終の確定得票③得票数の前の「当」は当選者、「確」は当選確実者④氏名の次は党派、現・元・新の別。

県議

◇鶴見区(4-6) 最終
 当20,177 横山 哲夫 自現
 当17,776 丸岡 哲也 公現
 当16,781 岩野 至孝 進現
 当13,909 東野 陽子 社現
 11,251 宮下 泉 共新
 4,921 五十嵐 健 護新

◇神奈川区(3-4) 最終
 当24,771 梅沢 健治 自現
 当16,447 田中文一郎 公現
 当14,424 蟹沢 道子 公新
 13,206 木村 憲正 社現

◇西区(1-3) 最終
 当18,684 斎藤 達也 自現
 6,612 山田 智信 無新
 474 小早川久之 諸新

◇中区(2-3) 最終
 当17,097 村上 健司 自現
 当8,919 竹内 清晴 社現
 8,874 広瀬鉄太郎 進元

◇南区(3-4) 最終
 当21,275 新畑 典彦 自現
 当19,616 葛西 清孝 公現
 当17,338 安齊 義昭 社現
 11,564 鶴田 耕一 自新

◇港南区(3-6) 最終
 当19,025 内田 晃 進現
 当15,867 山村 幸雄 社現
 当14,191 荒井 正巳 自元
 14,102 内田 稔 自現
 7,275 池谷 肇 無新
 3,279 田中 米 無新

◇保土ヶ谷区(3-5) 最終
 当18,672 櫻並 寛 自現
 当16,776 波谷 文久 公現
 当13,382 高谷 清 進現
 12,447 加藤 賢治 社現
 9,583 内畑八重子 共新

◇旭区(4-6) 最終
 当22,975 佐藤 正之 進現
 当18,228 相馬 元治 自現
 当16,334 勝又恒一郎 自新
 当14,798 青景 孝子 公新
 11,981 樋口 旭 社現
 6,332 萩島フミ子 共新

◇磯子区(2-4) 最終
 当18,546 新井敏二郎 自現
 当15,067 林 貞三 社現
 13,415 茅野 誠 進新
 10,571 前田 和子 諸新

◇金沢区(3-5) 最終
 当20,364 国吉 一夫 自現
 当16,805 安部 正 社現

当15,258 田中 肇 進新
 14,201 峯尾 自現
 4,750 田中 太平 無新

◇港北区(4-7) 最終
 当22,801 嶋村 尚美 自現
 当15,999 金子 武雄 公現
 当15,324 計屋 珠江 進新
 当15,222 木内 博 護新
 12,122 成島 敏行 社現
 6,026 石井 洋二 共新
 2,730 佐野 双一 無新

◇緑区(2-3) 最終
 当20,163 三好 吉清 自現
 当14,759 石原 守 社現
 14,189 石川 輝久 進新

◇青葉区(3-6) 最終
 当19,095 向田 映子 公新
 当17,109 小島 康平 自現
 当12,803 大木 哲 進新
 10,317 勝野 健治 社現
 7,269 佐藤 務 自新
 5,677 峰村 利江 共元

◇都筑区(1-3) 最終
 当15,126 加藤 義久 自新
 12,577 渡辺 光子 元元
 2,904 山家 義樹 無新

◇戸塚区(3-4) 最終
 当33,856 南斐 勝利 進現
 当24,267 梅木 武夫 社現
 当16,445 松田 良昭 自現
 9,517 佐藤 清 共新

◇栄区(2-5) 最終
 当14,361 酒井 文彦 進現
 当11,900 保阪 努 自現
 10,322 虎谷 英伍 社元
 8,184 本間 陽 無新
 2,516 大谷 和一 共新

◇泉区(2-3) 最終
 当20,933 水戸 将史 進新
 当18,097 小山 和洋 自新
 14,093 福田 一二 社新

◇瀬谷区(2-3) 最終
 当16,021 小沢 茂 自現
 当15,109 中尾 安治 社現
 12,331 並木 康夫 進新

◇川崎区(3-4) 最終
 当25,013 武田郁三郎 社現
 当19,279 畑谷 嘉宏 共現
 当18,539 石本よし子 自新
 14,200 竹本 啓次 進新

◇幸区(2-3) 最終
 当25,953 山田吉三郎 自現
 当18,233 此村 善人 公現
 9,491 鈴木あや子 共新

◇中原区(3-5) 最終
 当19,201 原 正人 無新
 当16,970 田島 信二 自現
 当15,961 奥村 栄 社現
 11,446 中江 克己 進新
 7,423 赤塚 博美 共新

◇高津区(2-4) 最終
 当18,257 斎藤 雄輝 無現
 当15,760 石川 滋 社元
 12,592 小林久仁子 自新
 9,000 林 延次郎 進新

◇宮前区(2-3) 最終
 当23,237 持田 文男 自新
 当17,556 三宅 丈夫 社現
 16,274 池田 元英 進新

◇多摩区(2-4) 最終
 当18,681 手塚悦次郎 進新
 当17,922 青島 章介 社現
 16,425 土井 隆典 自新
 7,979 箕輪 幹夫 共新

◇麻生区(2-3) 最終
 当15,607 相原 高広 進新
 当12,713 小林フミ子 社現
 8,555 早川 義裕 自新

◇横須賀市(6-8) 最終
 当27,587 高島 忠雄 進現
 当27,182 山田 泰之 公新
 当27,119 竹内 英明 自新
 当24,283 牧島 功 自現
 当20,896 斎藤 正 社現
 当18,346 嘉山 照正 無新
 14,035 渡辺 和俊 無新
 7,668 福光 洋一 共新

◇平塚市(3-4) 最終
 当34,008 府川 勝 自現
 当22,260 塩沢 三郎 公現
 当16,588 木村 勝治 社現
 14,323 武井ひろ子 自新

◇鎌倉市(2-4) 最終
 当21,446 中村 省司 進元
 当17,079 小泉 親昂 社現
 13,765 細谷 喜平 自現
 5,181 山岸 国夫 共新

◇藤沢市(5-7) 最終
 当23,259 番場 定孝 自現
 当19,404 日原 通晴 社新
 当18,712 服部 圭介 公現
 当15,895 鈴木 恒夫 無新
 当15,842 星野 剛士 自新
 15,772 三町 貴義 進新
 8,206 野田 明宏 共新

◇小田原市(3-5) 最終
 当18,785 磯貝 達彦 無新
 当16,785 山田 文雄 無新
 当16,394 秋山 政勝 自現
 14,950 豊島 輝慶 進現

13,800 岩田 勳 社元

◇茅ヶ崎市(3-5) 最終
 当21,759 添田 高明 自現
 当15,182 吉川 幸雄 社新
 当12,915 服部 信明 進新
 9,061 小川伊之助 無現
 5,246 藤沼 泰紀 無新

◇相模原市(8-12) 最終
 当27,436 富田 光男 公現
 当23,170 桐生 成一 自現
 当22,164 小川 勇夫 自現
 当18,319 赤間 一之 自現
 当17,782 鴨下 一二 進新
 当17,328 岩本 直通 進現
 当15,109 太田 恵 社現
 当13,412 河野 幸司 共新
 11,193 広田 武治 社現
 10,275 秋山 原宏 護新
 9,145 小林 教利 自新
 2,010 川口 善信 社新

◇三浦市(1-2) 最終
 当12,889 八木 弘 無新
 9,036 木村 玄徳 自新

◇秦野市(2-4) 最終
 当21,971 久保寺邦夫 自現
 当14,934 古谷 義幸 無新
 11,048 若星 富夫 社現
 8,491 石井 昇 無新

◇厚木市(3-7) 最終
 当16,071 堀江 則之 自現
 当14,253 小沢 金男 自現
 当9,863 又木 京子 公新
 8,898 中野 正義 無新
 8,530 小林 常良 諸新
 5,314 奈良 握 護新
 3,686 石川 直正 進新

◇大和市(3-5) 最終
 当16,247 益田 駿 公現
 当16,165 安藤 博夫 自現
 当14,746 江田 実 無新
 12,106 大波 修二 社新
 9,674 時得 貴治 無新

◇伊勢原市(1-2) 最終
 当18,891 石井 和洋 無新
 16,634 岩崎 尊之 無新

◇海老名市(1-3) 最終
 当17,445 木内 要 諸新
 16,555 水島 祐吉 諸現
 4,015 南室 勝巳 自新

◇座間市(2-4) 最終
 当12,459 小堺 金治 無現
 当7,563 菅原 和洋 社現
 7,398 久保田俊二 自新
 5,988 吉田 富雄 無新

◇南足柄市 (1-3) 最終
当 8,609 川上 賢治 無新
7,875 山室 清彦 無新
6,313 奥津 悟 自新

◇綾瀬市 (1-3) 最終
当 14,533 笠間 茂治 新
12,260 佐竹 正道 新
2,798 笠間 繁雄 無新

◇中郡 (1-2) 最終
当 12,966 古沢 時衛 自現
12,137 吉川 重雄 無新

◇足柄下郡 (1-2) 最終
当 16,257 高橋 実 無新
2,247 門家茂次郎 無新

◇愛甲郡 (1-2) 最終
当 10,621 矢後清太郎 無新
8,580 天野 聡 自新

◇津久井郡 (1-2) 最終
当 18,367 榎本 与助 自現
5,276 中山 康之 無新

●横浜市議

◇鶴見区 (7-8) 最終
当 13,909 中野 善寿 公現
13,224 北村 昭三 進現
12,444 横山 良一 自現
10,172 岩下 義正 自現
9,836 山田 一海 自現
8,886 中島 文雄 共新
8,423 井上 棧 共新
8,068 門司 棧 進現

◇神奈川区 (6-9) 最終
当 12,381 福田 進 自現
11,747 石井 睦美 公現
9,145 佐藤 毅之 進新
8,809 工藤 恒子 新
8,292 中川 俊介 社現
7,887 藤代 耕一 共現
5,949 柴田 豊勝 共現
5,168 竹内 栄一 自新
619 金親 得介 無新

◇西区 (2-4) 最終
当 14,816 清水 富雄 自新
9,007 後藤 洋一 公現
3,178 岩崎 幸雄 共新
312 大塚 正美 諸新

◇中区 (3-4) 最終
当 13,329 伊波洋之助 自現
10,182 松本 純 自現
8,714 竹中 吉晴 公現
3,349 畑野 良弘 共新

◇南区 (6-9) 最終
当 13,515 仁田 昌寿 公新
11,032 鈴木 正之 自現
8,976 麻井 進雄 進現
8,381 高梨 晃嘉 社新
7,057 丸山 輝子 自現
6,389 荒木由美子 共新
6,349 岩田 力 無新
5,493 岡崎 正光 自現

4,329 三浦名美子 新
◇澁谷区 (6-7) 最終
当 13,206 船谷 泰一 進現
12,591 高橋 稔 公現
11,739 田野井一雄 自現
11,344 安藤 和男 社現
9,551 関 英恵子 共新
8,945 瀬之岡 功 自現
8,311 吾郷 敦信 自現

◇保土ヶ谷区 (6-8) 最終
当 12,222 堀井 和弘 公現
11,411 森 敏明 進現
10,012 中村 達三 自現
8,890 大越 福夫 社現
8,857 田中 忠昭 新
8,658 坂井 忠 自現
5,678 関 すみ江 新
5,589 手塚 勇夫 共新

◇旭区 (7-10) 最終
当 14,081 和田 卓生 公現
12,860 古川 直季 進新
12,471 佐藤 茂 自現
11,528 佐藤 信信 進新
8,589 大庭 悟影 社現
8,494 梅野 ろんこ 新
8,323 梶村 充 自新
7,974 稲垣 太郎 社現
6,634 難波 宏次 共新
1,972 大平 頼義 無新

◇磯子区 (5-7) 最終
当 12,218 太田 正孝 諸現
11,377 松浦 照朝 進現
9,896 加藤 匠人 公新
8,857 関 貞彦 自現
8,524 橋本 一男 自現
4,884 河 龍一 自新
3,965 野口 徳藏 共新

◇金沢区 (6-7) 最終
当 16,962 小幡 正雄 進現
12,374 瓜川 登夫 自現
10,092 相川 光正 自現
9,824 谷田部孝一 社現
9,517 木村久義 公現
8,219 宗形 初子 新
6,853 松本志津子 共元

◇港北区 (8-14) 最終
当 13,145 鈴木 義久 公現
8,603 佐藤 祐文 自新
8,182 柏 美穂 新
8,070 横溝 義久 進現
7,592 酒井 喜則 自現
7,519 高橋 良平 社元
7,456 高野 明子 共現
7,062 与那原 篤子 護新
6,292 浦山 篤治 自新
5,740 大谷 宗弘 自新
5,054 正田 治 進新
2,779 桜井 耕司 新
2,441 鈴木 実 無新
171 田中 能理央 諸新

◇緑区 (4-7) 最終
当 9,921 矢島 誠治 自現
9,876 石井 義了 公現
9,760 小林昭三郎 自現
8,780 丹野 貞子 社現

5,931 石黒 裕子 新
3,746 緒方 篤志 新
2,765 井口 淳治 共新

◇青葉区 (7-11) 最終
当 11,910 脇田久美子 新
10,688 吉村 米寿 自現
8,978 木村 一男 自現
8,517 渡辺 清 公新
7,857 横山 正人 自新
6,841 菅野 毅夫 共現
6,059 大貫 靖生 自新
5,614 本田 群司 自新
2,942 福田 克彰 無新
2,048 本多 日野 無新
1,877 日野 克彰 無新

◇都筑区 (3-6) 最終
当 9,251 大久保純男 自現
8,588 島村 勝夫 自現
5,637 飯沢 清人 進新
4,841 小林 達夫 社現
2,021 山本 広志 共新
1,307 原田 建 護新

◇戸塚区 (7-10) 最終
当 10,942 内田 重雄 進現
10,666 大滝 正雄 公現
10,520 川辺 芳男 進現
10,285 福田 泰子 新
10,278 鈴木 喜太郎 自現
10,184 吉原 剛 自現
8,224 星野 国和 社現
7,198 岩崎 匠 共新
6,600 桜井 康政 新
234 内川 徳彦 諸新

◇栄区 (4-7) 最終
当 9,614 角田 和宏 自現
9,433 野村 政博 社現
7,569 哲川 昭一 無新
7,255 岡本 英子 進新
6,184 松村 賢信 自新
5,061 西岡 政子 自新
1,430 星野 昭雄 無新

◇泉区 (4-7) 最終
当 12,675 松本 敏 進現
10,176 中原 淳一 公新
8,603 中島 憲五 社現
8,474 横山 栄一 自新
6,757 小山 俊一 自新
4,681 小山 順子 新
4,067 金原 宏子 共新

◇瀬谷区 (3-5) 最終
当 14,933 花上喜代志 進現
10,861 川口 正寿 自現
7,227 増田 恒雄 共元
6,374 内川 健治 自現
5,143 平本 敏 無新

●川崎市議

◇川崎区 (11-13) 最終
当 8,346 小林 美子 公現
8,128 岩崎 善幸 公新
7,427 飯塚 双葉 共現
7,272 近藤 正美 進現
7,200 増沢 栄一 無現
6,750 坂本 茂 自現

当 6,381 飯塚 正良 社現
6,113 宮原 春夫 共現
5,904 柴居 義則 社現
4,822 小俣 博 自現
4,820 島崎 嘉夫 自新
2,682 湯崎 利則 自新
2,444 柳田 明 無新

◇幸区 (8-9) 最終
当 9,656 深瀬 浩由 公現
9,071 佐藤 忠次 進現
7,225 野村 敏行 自現
7,215 竹間 幸一 共現
7,175 中川 啓 無現
5,251 千葉美佐子 新
4,109 渡辺 好雄 無現
3,994 筒木 茂哉 自新
899 向山 孝 無新

◇中原区 (10-12) 最終
当 9,415 立野 千秋 社現
8,884 潮田 智信 進現
7,062 原 修一 自現
6,491 志村 勝 公現
6,210 市古 映雄 共現
5,858 松島 輝雄 公現
5,731 長瀬 政義 自現
5,348 市川代三郎 自現
4,795 高 敏 自現
4,735 徳竹 喜義 共新
4,171 長谷川 泰弘 自現
4,077 東 正則 無新

◇高津区 (9-11) 最終
当 7,643 大島 保 自現
6,096 水科宗一郎 公現
5,934 後藤 晶一 無新
5,843 森 宏一 公現
5,491 猪股 美恵 新
5,229 宮田 良辰 自現
4,733 小島 恵一 自現
4,450 佐藤 忠 社現
4,421 鈴木 敏 共現
4,416 西村 英二 共現
3,535 粕谷 葉子 進新

◇宮前区 (10-11) 最終
当 7,024 佐藤 洋子 新
6,659 柏木 雅章 進元
6,522 中尾 治夫 自現
6,240 小泉 昭男 自現
5,997 大場 正信 公現
5,777 平子 隆夫 公現
5,222 矢沢 博孝 自現
4,941 宮崎 光雄 共現
4,401 増子 利夫 社現
3,963 青山 仁三 社現
3,116 相田 三 新

◇多摩区 (9-12) 最終
当 8,335 本間 悦雄 公現
6,320 伊藤 弘 無新
6,092 尾畑 悦子 新
5,697 吉沢 西友 無元
5,361 市村 慶郎 共現
5,309 上原 国男 自現
5,147 佐藤 信一 自現
4,909 玉井 光重 社現
4,505 井田 隆司 無新
4,399 齊藤 隆司 共元
3,225 伊藤 町亨 社現
2,925 太田 亨 無新

県市町村議会党派別議員数及び任期満了

平7.5.8現在

| 市町村名 | H2 国調 法定数 | 減数条例 | | 現 員 数 | 欠 員 | 自 民 会 | 社 会 明 社 | 公 民 社 | 共 産 党 | 新 進 党 | 新 党 護 憲 リ ベ ラ ル | 新 さ き | 社 民 連 | 諸 派 | 無 所 属 | 任期満了 | |
|-----------|-----------------|-------|-----------|-------------|--------|-------------|------------------|-------------|-------------|-------------|--------------------------------------|-------------|-------------|--------|-------------|----------|---------|
| | | 定数 | 制定年月日 | | | | | | | | | | | | | | |
| 横浜市 | 100 | 94 | 昭61.12.25 | 94 | | 30 | 13 | 15 | | 6 | 17 | 2 | 2 | 8 | 1 | 11.4.29 | |
| 川崎市 | 68 | 64 | 平3.1.22 | 64 | | 18 | 10 | 11 | | 9 | 5 | | | 4 | 7 | 11.5.2 | |
| 指定都市計 | 168 | 158 | — | 158 | | 48 | 23 | 26 | | 15 | 22 | 2 | 2 | 12 | 8 | | |
| 横須賀市 | 52 | 46 | 平6.12.22 | 46 | | 13 | 5 | 7 | | 3 | 2 | | | 2 | 14 | 11.5.1 | |
| 平塚市 | 44 | 34 | 平6.12.16 | 34 | | | 5 | 5 | | 3 | 1 | | | 2 | 18 | 11.4.30 | |
| 鎌倉市 | 40 | 30 | 昭28.3.17 | 30 | | 1 | 3 | 3 | 3 | 5 | | | | 4 | 11 | 9.5.14 | |
| 藤沢市 | 48 | 40 | 平6.12.28 | 40 | | 7 | 5 | 6 | | 5 | 1 | | | 1 | 15 | 11.4.30 | |
| 小田原市 | 40 | 32 | 昭61.6.20 | 32 | | | 3 | 4 | | 3 | 1 | | | 1 | 20 | 11.4.30 | |
| 茅ヶ崎市 | 44 | 30 | 昭30.4.14 | 30 | | 2 | 4 | 4 | | 3 | | | | 1 | 16 | 11.5.1 | |
| 逗子市 | 36 | 26 | 昭29.5.31 | 25 | 1 | | 1 | 2 | 1 | 2 | | | | 2 | 17 | 10.4.5 | |
| 相模原市 | 56 | 46 | 昭57.9.30 | 46 | | | 4 | 8 | | 4 | 3 | 1 | 1 | 2 | 23 | 11.4.29 | |
| 三浦市 | 36 | 22 | 平7.3.23 | 22 | | 6 | | 2 | | 4 | | | | | 10 | 11.4.30 | |
| 秦野市 | 40 | 30 | 昭37.12.12 | 28 | 2 | 2 | 4 | 3 | 1 | 2 | | | | | 16 | 7.9.10 | |
| 厚木市 | 40 | 30 | 昭42.3.25 | 24 | 6 | | 1 | 4 | 2 | 3 | | | | 1 | 13 | 7.7.31 | |
| 大和市 | 40 | 30 | 平6.12.22 | 30 | | | 3 | 5 | | 3 | | | | 2 | 17 | 11.5.3 | |
| 伊勢原市 | 36 | 26 | 平7.3.27 | 26 | | | 1 | 2 | | 3 | | | | | 20 | 11.4.29 | |
| 海老名市 | 36 | 28 | 昭46.9.1 | 26 | 2 | | 3 | 3 | 1 | 2 | | | | 1 | 16 | 7.10.19 | |
| 座間市 | 36 | 28 | 昭59.5.22 | 28 | | 3 | 2 | 3 | 2 | 4 | | | 1 | 1 | 12 | 8.9.30 | |
| 南足柄市 | 30 | 26 | 昭41.7.1 | 26 | | | 1 | 2 | | 2 | | | | | 21 | 11.4.29 | |
| 綾瀬市 | 36 | 26 | 昭50.3.15 | 26 | | | 1 | 3 | | 2 | | | | 2 | 18 | 11.4.29 | |
| 市(除指定都市)計 | 690 | 530 | — | 519 | 11 | 34 | 46 | 66 | 10 | 53 | 8 | 1 | 1 | 1 | 22 | 277 | |
| 市計 | 858 | 688 | — | 677 | 11 | 82 | 69 | 92 | 10 | 68 | 30 | 3 | 3 | 1 | 34 | 285 | |
| 葉山町 | 30 | 20 | 昭60.3.30 | 20 | | | | 1 | | 1 | | | | 2 | 16 | 11.4.30 | |
| 寒川町 | 30 | 22 | 昭43.12.13 | 21 | 1 | | 3 | 2 | 3 | 2 | | | | | 11 | 9.2.24 | |
| 大磯町 | 30 | 20 | 平2.3.8 | 20 | | | 1 | 1 | | 1 | | | | | 17 | 7.7.15 | |
| 二宮町 | 30 | 18 | 平6.9.9 | 18 | | | | 1 | | 1 | | | | 2 | 14 | 10.11.29 | |
| 中井町 | 26 | 16 | 昭30.3.30 | 16 | | | | | | 1 | | | | | 15 | 11.4.29 | |
| 大井町 | 26 | 20 | 昭59.3.30 | 20 | | | | 1 | | 1 | | | | | 18 | 8.9.30 | |
| 松田町 | 26 | 20 | 昭55.12.22 | 20 | | | | 1 | | | | | | | 19 | 7.9.30 | |
| 山北町 | 26 | 20 | 昭62.12.15 | 20 | | | | | | 1 | | | | | 19 | 11.4.30 | |
| 開成町 | 26 | 18 | 昭57.3.25 | 18 | | | | 1 | | 1 | | | | | 16 | 11.4.30 | |
| 箱根町 | 26 | 22 | 昭59.12.28 | 20 | 2 | | | 2 | | 1 | | | | | 17 | 9.9.29 | |
| 真鶴町 | 22 | 16 | 昭60.3.27 | 16 | | 1 | | 3 | | 1 | | | | | 11 | 9.9.29 | |
| 湯河原町 | 30 | 22 | 昭58.10.4 | 21 | 1 | | 1 | 2 | | 1 | | | | | 17 | 8.3.31 | |
| 愛川町 | 30 | 22 | 昭58.6.25 | 20 | 2 | | | 2 | 1 | 2 | | | | | 15 | 7.10.14 | |
| 清川村 | 16 | 12 | 昭60.2.12 | 12 | | | | | | 1 | | | | | 11 | 9.4.30 | |
| 城山町 | 30 | 18 | 昭38.1.28 | 18 | | | 1 | 1 | | 2 | | | | | 14 | 11.5.7 | |
| 津久井町 | 30 | 20 | 昭37.6.25 | 20 | | | | 1 | | 2 | | | | | 17 | 9.10.25 | |
| 相模湖町 | 26 | 16 | 昭58.9.28 | 16 | | | 1 | | | 1 | | | | | 14 | 7.12.31 | |
| 藤野町 | 26 | 16 | 昭58.8.3 | 14 | 2 | | 1 | | | | | | | | 13 | 7.9.19 | |
| 町村計 | 486 | 338 | — | 330 | 8 | 1 | 8 | 19 | 4 | 20 | | | | 4 | 274 | | |
| 県(除指定都市)計 | 1,176 | 868 | — | 849 | 19 | 35 | 54 | 85 | 14 | 73 | 8 | 1 | 1 | 1 | 26 | 551 | |
| 県計 | 1,344 | 1,026 | — | 1,007 | 19 | 83 | 77 | 111 | 14 | 88 | 30 | 3 | 3 | 1 | 38 | 559 | |
| 県議会 | 120 | 115 | 昭53.12.26 | 115 | | 38 | 22 | 11 | | 2 | 17 | 1 | 1 | | 7 | 16 | 11.4.29 |

※党派別は立候補届出時の候補者届出書に記載された区分による。

神奈川県市町村課発行「市町村要覧」より

1995年8月25日

自治研かながわ月報第48号 (1995年4月～8月号合併号, 通算112号)

発行所 社団法人神奈川県地方自治研究センター
発行人 横山桂次 編集人 上林得郎 定価1部 500円
〒232 横浜市南区高根町1-3 神奈川県地域労働文化会館4F
☎ 045(251)9721 (代表) FAX 045(251)3199
振替口座 労働金庫本店 1365-1195174 横浜銀行市庁舎支店 317-709629

県内の11市議選、4町議選の開票状況

Table listing election results for various municipalities, including names and vote counts.

Table listing election results for various municipalities, including names and vote counts.

Table listing election results for various municipalities, including names and vote counts.

Table listing election results for various municipalities, including names and vote counts.

Table listing election results for various municipalities, including names and vote counts.

Table listing election results for various municipalities, including names and vote counts.

Table listing election results for various municipalities, including names and vote counts.

Table listing election results for various municipalities, including names and vote counts.

Table listing election results for various municipalities, including names and vote counts.

Table listing election results for various municipalities, including names and vote counts.

Table listing election results for various municipalities, including names and vote counts.

Table listing election results for various municipalities, including names and vote counts.

Table listing election results for various municipalities, including names and vote counts.

Table listing election results for various municipalities, including names and vote counts.

Table listing election results for various municipalities, including names and vote counts.

Table listing election results for various municipalities, including names and vote counts.

【注】①市町名の次のカッコ内は定数と立候補者を示す②最終は選管最終の確定得票③得票数の前の「当」は当選者④氏名の次は党派・現・新・元の別。

会員になるには

1. 誰でも会員になれます。
2. 申込書は自治研センター事務局にあります。会費は個人会員月1,000円、賛助会員月500円のどちらかを選び、半年または1年分をそえてお申し込みください。
3. 詳細は自治研センター事務局 ☎ 045 (251)9721へご連絡ください。

会員の特典

1. 自治研センターの「自治研かながわ月報」が隔月送られます。
2. 「月刊自治研」(自治労本部自治研推進委員会発行・A5判・120~150ページ定価500円)が毎月無料で講読できます。
3. 自治研センターの資料集が活用でき、調査研究会などに参加できます。